

14.24
472



始



大正九年一月

茶業彙報第三輯

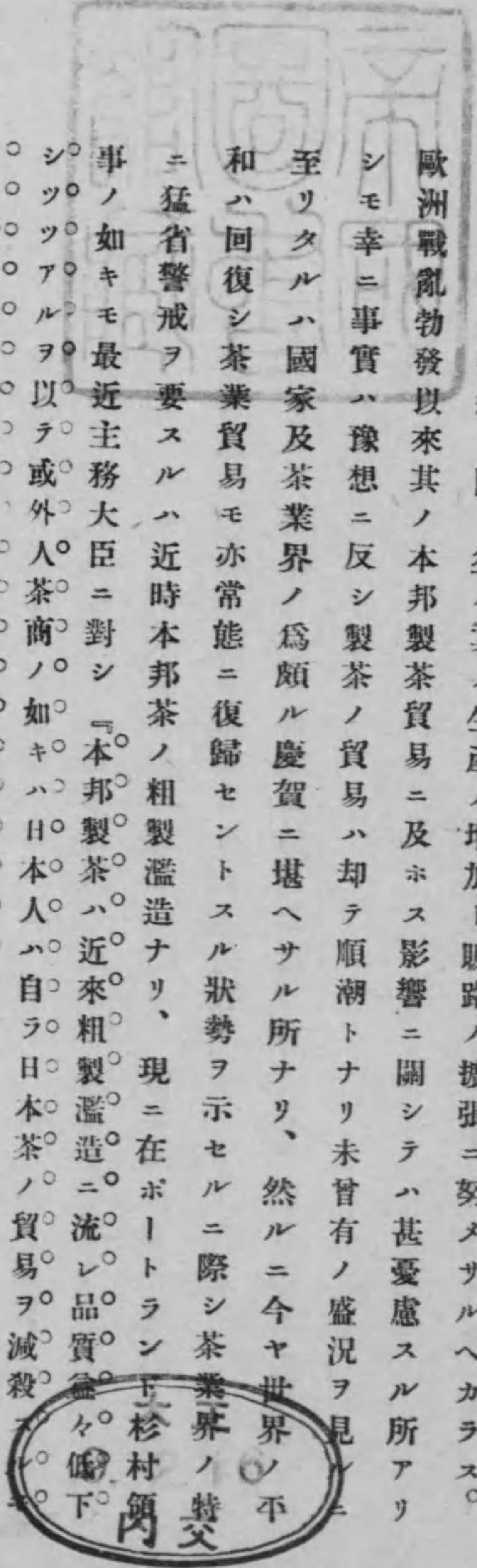
茶業組合中央會議所

1421-472

茶業者及茶業關係各位ニ對スル要望

戰後ノ經濟的施設トシテ國產ヲ獎勵シ輸出貿易ノ隆盛ヲ期スルノ最モ急務タルヤ固ヨリ論ヲ俟タス。隨テ製茶ノ如キ重要ナル輸出品ニ付テハ官民相協力シ一層之カ改良發達ヲ圖リ益々其ノ生産ノ増加ト販路ノ擴張ニ努メサルヘカラス。

歐洲戰亂勃發以來其ノ本邦製茶貿易ニ及ボス影響ニ關シテハ甚憂慮スル所アリシモ幸ニ事實ハ豫想ニ反シ製茶ノ貿易ハ却テ順潮トナリ未曾有ノ盛況ヲ見シ至リタルハ國家及茶業界ノ爲頗ル慶賀ニ堪ヘサル所ナリ、然ルニ今ヤ世界ノ平和ハ回復シ茶業貿易モ亦常態ニ復歸セントスル狀勢ヲ示セルニ際シ茶業界ノ特ニ猛省警戒ヲ要スルハ近時本邦茶ノ粗製濫造ナリ、現ニ在ポートランド下杉村領内事ノ如キモ最近主務大臣ニ對シ「本邦製茶ハ近來粗製濫造ニ流レ品質益々低下シツツアルヲ以テ或外人茶商ノ如キハ日本人ハ自ラ日本茶ノ貿易ヲ減殺スルノニシテ其ノ前途ヤ知ルヘキノミト慨嘆シツツアリ」ト報告セルカ如キ亦以テ其ノ大勢ヲ察知スルニ足ルヘシ。由來本邦製茶ノ米國ニ歡迎セラレツツアルハ品質ノ優良ナル特質ヲ有スルカ爲ナリ、然ルニ上述ノ如ク最モ重要ナル販路先



ニ於テ其ノ品質劣變ノ非難ヲ聞クニ至レル如キハ實ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ。
 今若シ斯ノ如ク本邦製茶ニシテ其ノ品質ノ劣變スルコトアラシク等シク劣等ニ
 シテ而カモ低廉ナル他國產綠茶ノ爲メ壓倒セラレ販路擴張ノ施設モ遂ニ水泡ニ
 歸スヘク本邦茶業界ノ前途轉タ深憂ニ堪ヘサルナリ、故ニ最モ健實ナル生産費
 節減ノ方法ヲ講スルト同時ニ、不正粗惡茶ノ產出ヲ防止シ以テ本邦製茶ノ信用
 ノ發達ヲ期セサルヘカラス、特ニ製茶機械ノ濫用、茶葉摘採期ノ遲延、茶莖ノ
 混入其ノ他粗製濫造ノ防止ハ我茶業者各位ノ覺醒ヲ以テ最モ有力ニシテ適切ナ
 ル方法ナリト信ス、各位宜シク本所要望ノ趣旨ヲ諒シ對外製茶貿易ノ發展ニ向
 テ極力盡瘁セラレンコトヲ望ム。

大正九年一月

茶業組合中央會議所

茶業彙報第三輯

目次

序言

第一、本邦内地ニ於ニケル本年ノ茶況……………一

- | | | | |
|----------|----------|----------|-----------|
| (一) 静岡縣 | (二) 三重縣 | (三) 京都府 | (四) 埼玉縣 |
| (五) 滋賀縣 | (六) 鹿兒島縣 | (七) 茨城縣 | (八) 奈良縣 |
| (九) 熊本縣 | (十) 岐阜縣 | (十一) 福岡縣 | (十二) 宮崎縣 |
| (十三) 高知縣 | (十四) 愛媛縣 | (十五) 石川縣 | (十六) 和歌山縣 |
| (十七) 兵庫縣 | (十八) 大阪府 | (十九) 岡山縣 | |

第二、本邦内地ニ於ケル本年年製茶輸出狀況……………五四

- (一) 本年一月以降ノ製茶輸出狀況
- (二) 本年五月以降ノ製茶輸出統計

第三、米國ニ於ケル日本茶貿易ノ近況及日本

茶ニ對スル批評……………六四

第四、外國ニ於ケル茶業事情……………七〇

甲 支 那

(一)浙江省產外國向製茶ノ取引澁滯

(二)支那茶ノ輸出稅減免

(三)九江茶況

(四)滿洲ニ於ケル磚茶狀況

乙 印度及錫蘭

(一)錫蘭茶及ココアノ輸出狀況

(二)錫蘭茶ノ況

丙 蘭領印度

(一)一九一八年度蘭領印度產茶概況

(二)蘭領東印度ニ於ケル茶箱ノ需要並其ノ製造會社ノ設立

丁 亞米利加

(一)一九一九年度米國ニ於ケル製茶輸入統計

(二)米國ニ於ケル最近十ケ年間製茶輸入統計

(三)一九一九年一月以降米國ニ於ケル各國產製茶卸賣及小賣價格

(四)巴奈馬ニ於ケル珈琲耕作ニ就テ

附 錄

北米合衆國製茶輸入取扱關係法規改正

目 次 終

茶業彙報第三輯

第一、本邦内地ニ於ケル本年ノ茶況

(一) 靜岡縣

(大正八年十月十三日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

一番茶ハ春來降雨多ク三月ニ入り氣候比較的溫暖ナリシカハ早場所地方ハ同月中早ク既ニ萌芽ノ兆アリ然ルニ四月ニ入り却テ餘寒甚シク數回ノ降雪被害アリ縣下ノ大産地タル牧之原附近ヲ始メ沿海地方一帶此害ヲ被ラサルモノナシ從テ摘採期區々ニシテ無被害地方ハ例年ニ比シ六七日間早ク被害地方ハ十日乃至十四五日間モ後レタリ又西遠及伊豆地方ヲ除クノ外磐田郡以東之各郡ハ前年秋季潮風被害アリ中部ヨリ漸次南部ニ甚シキヲ加ヘ沿海地方ノ茶園ハ一見荒廢ニ歸シタルノ觀アリキ是等ノ地方ハ本年再ヒ晩霜被害アリテ發芽頗ル不良ナリシモ無被害地方ノ北部ハ近年無類ノ良好發芽ナリキ而シテ機械茶流行ノ爲メ硬葉摘ミ風ヲ助長シ摘採期一般ニ遲延セリ。

二番茶ハ一番茶芽硬摘ナリシト土地ニヨリ病虫害多カリシト肥料ノ騰貴ニヨリ施肥ノ充分ナラザリシ等ニヨリ發芽ハ稍良好ナリシモ收葉大ニ減セリ三番茶以下ハ市況振ハサリシカ爲メ摘採セザルモノアリシト下等茶ノ賣行不況ナリシ爲メ若芽摘採多カリシトニヨリ是又減收セリ。

二、本年ノ製茶産額豫想

前年ニ比シ一番茶ハ前記被害地方ノ減收甚シキモノアルモ無被害地方ノ增收ニヨリ通計一割三分減ナリ二番茶ハ四割五分減、三番茶以下ハ三割減ナリ此他本年モ亦一番茶摘採後ニ於テ刈落茶ヲ本茶ニ製造シタルモノ多シ是等各期製茶ノ數量ハ大略一番茶二番茶二百四十萬貫二番茶九十萬貫三番茶茶以下八十萬貫ナルベシ。

三、本年ノ製茶品質

近來機械製茶ノ流行ニヨリ一番茶ハ硬化シタル生葉多ク從テ製品不良ナリシモ市況本年ハ上茶ニ利アリテ下茶ニ不利ナリシカ爲メ一番茶ノ末期ヨリ漸次二番茶三番茶ニ至リ上茶製出ニ傾キ從テ手揉ヲ爲スモノ幾分増加シ品質改善ノ兆アリ

四、本年ノ生葉及製茶各一貫目價格並前年トノ比較

	生葉一貫目價格			製茶一貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
一番茶 〔大正八年 同 七年〕	〇・七五〇 〇・七五〇 〇・七五〇	〇・六〇〇 〇・六〇〇 〇・六〇〇	〇・四八〇 〇・四八〇 〇・四八〇	一・〇〇〇 一・〇〇〇 一・〇〇〇	四・〇〇〇 四・〇〇〇 四・〇〇〇	三・〇〇〇 三・〇〇〇 三・〇〇〇
二番茶 〔同 八年 同 七年〕	〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・五〇〇 〇・五〇〇 〇・五〇〇	〇・四〇〇 〇・四〇〇 〇・四〇〇	五・五〇〇 五・五〇〇 五・五〇〇	三・〇〇〇 三・〇〇〇 三・〇〇〇	二・〇〇〇 二・〇〇〇 二・〇〇〇
三番茶 〔同 八年 同 七年〕	〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・五五〇 〇・五五〇 〇・五五〇	〇・四五〇 〇・四五〇 〇・四五〇	五・五〇〇 五・五〇〇 五・五〇〇	三・二〇〇 三・二〇〇 三・二〇〇	二・四〇〇 二・四〇〇 二・四〇〇

五、本年ト前年トノ製茶一貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

製茶助成品ノ暴騰及勞銀ノ騰貴ニヨリ手揉製機械製共約三割ノ増加ナリ

	機械製		手揉製	
	大正八年	同 七年	大正八年	同 七年
〇・八〇〇乃至〇・六〇〇	〇・六〇〇乃至〇・四五〇	二・〇〇〇乃至一・七〇〇	一・五〇〇乃至一・三〇〇	

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

四五月ノ交一番茶市場開始ノ際ハ外商ノ買控ニヨリ市況振ハス生産家ハ諸物價騰貴ニヨリ製造費ノ増加ヲ來シ他ノ農産物ニ比シテ茶價ノ之ニ伴ハサルヲ嘆シ悲觀ノ極ニ陥リシガ五月中旬ヨリ内地注文殺到シ漸次價格ノ昂騰ヲ見タルノ際曾テ手控エタル外商モ買入ニ着手シ又一番茶減收ノ報市場ニ喧傳セラレト共ニ日々價位ヲ高メ同月下旬ニハ初旬ニ比スレハ二割以上前年ニ比スレハ品ニヨリ五割内外ノ高値ニ賣行キ始メテ生産家ノ愁眉ヲ開クニ至レリ殊ニ本年ノ市況ハ内外商共上物取入ニ傾キ品質ノ良否ニヨリ値開キ多ク自然良品製出ヲ促セシハ本業ノ爲メ喜フヘキコトナリトス爾後六月ニ入り良品ハ相應ニ賣行キシモ下物ハ漸次下向キ下旬ヨリ七月ニ入り二番茶季節トナリタレハ下等品ハ一層暴落シ上物モ亦之ニ伴フテ幾分下向キ市況再ヒ不振ニ陥レリ此不振ハ八月中旬迄續キ同月下旬ヨリ三番茶ノ出廻リヲ見ル頃ニ至リ市況稍回復ノ兆アリ且一二三番茶共各期ヲ通シ減收ノ結果ハ品不足ノ爲メ相當ノ價格ヲ保チ今日ニ及ヘリ而シテ前年ニ比スレハ九月末日迄ノ累計ニテ海外輸出ハ八百五十餘萬封度ヲ減シ内地移出ハ十六萬八千七百餘貫ヲ増シ同移入ハ二十萬九千四百餘貫ヲ減セリ

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

イ 生産家ハ一番茶ノ價格豫期以上ナリシカ爲メ生産費ノ嵩ミタルニ拘ラス相當ノ收利ヲ得タリ

然レトモ二番茶以後ハ市況沈滞ノ爲メ賣行充分ナラス且肥料暴騰ノ爲メ施肥ヲ減シテ摘採ヲ控ヘ從テ收量大ニ減セシニヨリ成績不良ニ終レリ

ロ 商人側ハ一番茶ニテハ何レモ相當ノ利益ヲ納メシモ下等茶ヲ取扱ヒ之ヲ買置キタルモノニハ二番茶以後ノ下落ニヨリ損失ヲ招キタルモノ多シ要スルニ内地茶商ニ利益多ク輸出茶商ハ損失多カリシカ如シ

(二) 三重縣

(大正八年十月十日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

- 一 一番茶ハ昨冬以來氣候適順ニシテ前年ニ比シ四、五日間摘採期モ早カルヘキ豫想ナリシカ晩霜ノ爲メ一時茶芽ノ伸育ヲ阻止セラレ自然摘採期ヲ遅延スルニ至レリ且ツ肥料騰貴ニ伴ヒ肥培稍々粗ニ流レタルノ傾向アリテ茶芽ノ發育良好ナラス
- 二 一番茶ハ土地ニヨリテハ病虫害發生ノ爲メ減收ヲ來シ又近來製茶機械應用ノ爲メ一般硬葉摘ニ流レテ樹勢ヲ衰ヘシメ勢幾分ノ減收ヲ見ルニ至レリ
- 三 一番茶ハ雨量潤澤ニシテ發芽伸育共ニ良好ナリ

二、本年ノ製茶産額豫想

一、二、三、番茶ヲ通シテ前年ニ比シ一割内外減收ノ見込ナリ但シ紅茶製産額ハ前年ニ比シ増加セキ

三、本年ノ製茶品質

一、二、番茶ハ霜害及病虫害其他既記セルカ如キ影響ヲ受ケ生葉品質ハ良好ナラサリシモ市況ハ性好物ノ賣行活潑ナリシカ爲メ自然嫩芽摘採ヲ勵行シ比較的品質良好ニシテ殊ニ三番茶ニ至リテハ一番茶ヲモ凌駕スル優良品ヲ製出セリ

五、本年ノ生葉及製茶各一貫目價格並前年トノ比較

生葉一貫目價格	製茶一貫目價格		
	高	普	低
一番茶(大正七年)	六五〇	四五〇	三〇〇
二番茶(同)	六五〇	四五〇	三〇〇
三番茶(同)	五〇〇	三五〇	二五〇
前年	五〇〇	三五〇	二五〇
本年	五〇〇	三五〇	二五〇
製茶一貫目價格	上	中	下
一番茶	五〇〇	三五〇	二五〇
二番茶	四〇〇	三五〇	二五〇
三番茶	四〇〇	三五〇	二五〇
前年	四〇〇	三五〇	二五〇
本年	四〇〇	三五〇	二五〇

五、本年ト前年トノ製茶一貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

本年ハ石炭二割騰貴木炭其他ノ助成品ハ三割以上食料人夫賃金等ハ五割以上ノ昂騰ヲ來シ之カ爲メ生産費ハ前年ヨリ三割以上ノ膨脹ヲ示セリ

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

新茶出廻リノ初期ニ於テハ安値ヲ唱へ輸出向ノ取引振ハサリシカ内地向ハ之ニ反シ頗ル活潑茶價上物ニアリテハ前年ヨリ一層ノ高値ヲ表シ二番茶期ニ入りテ稍不振ヲ來シ中下物ノ取引行ハレサリシカ九月上旬ニ至リ弗々商談整ヒ一番茶以來ノ停滯品モ相當價格ヲ以テ賣却セラレツツアリ本年ノ製茶移出入高ハ次ノ如シ

移入高 一百五十六萬二千五百三十斤

但シ四、五、六、七月ノ四ヶ月間

移出高 三百七萬五千八百四十斤

但シ四、五、六、七、八月ノ五ヶ月間分

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

八
生産家ニアリテハ生産費ノ膨脹ト海外輸出ノ狀況等トニヨリ最初悲觀ノ情態ニアリシカ中上物ノ價格高カリシ爲メ性好物ノ製造者ハ豫期以上ノ利益アルモノノ如ク亦商人側ニ於テモ上物取扱者ニアリテハ相當ノ利得アルヲ認ム

(三) 京 都 府

(大正八年十月三日同府茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

一番茶ハ昨夏秋ノ候雨量潤澤ニシテ冬季ノ寒氣嚴シカラス春暖早ク催シタル等總テ茶樹生育ニ適スル狀態ニ經過シタルヲ以テ昨年ヨリ約一割以上ノ增收ト摘採期モ五六日早カルヘキヲ豫想セシ所參月末ノ降雪ト四月二十一日トノ霜害ハ新芽ノ發育ヲ妨ケ爲メニ摘採モ豫想ニ違ヒ殆ト昨年ト同斯ノ五月十日頃ヨリ着手シ産額ハ府下ヲ通シテ昨年ニ比シ約一割ノ減收ヲ來セリ。

二番茶ハ發芽良好ナリシモ七月ニ入りテ霖雨打續キタルト氣候カ茶浮塵子發生ニ好適ナリシトニヨリ該蟲ノ發生甚シク、之レガ驅除ニ努メタリト雖モ、其間二番茶葉ノ被害尠カラサリシ爲メ昨年ニ番茶ニ比シ約三四割ノ減收ヲ來セリ。

三番茶ハ從來ヨリ摘採セサルモ、極力害蟲驅除ヲ厲行シタル結果三番芽ノ發育極メテ良好ナリ。

二、本年ノ製茶産額豫想

前年ニ比シ一番茶ハ一割減二番茶ハ三四割減ニシテ是ヲ平年ニ比セハ一番茶二割減、二番茶五割ノ減收ナリ。

是等各季製茶ノ數量ハ統計未了ニ付キ確定的數字ヲ得難キモ大略煎茶、三十五萬貫。玉露、六萬五千貫。碾茶、二萬五千貫ナルヘシ。

三、本年製茶品質

一番茶、氣候及摘採ノタメ品質ニ及ホシタル影響ナケレ共、近時機械製造増加ニツレ、使用法不熟練ナルモノアリテ稀ニ、煎茶ニ、品質ヤヤ劣リタルモノヲ見受クルモ、大體ニ於テ手揉製ヲ固持シ、品質本位ヲ旨トスルタメ製造叮嚀ニシテ品質良好ナリ。

二番茶、蟲害ニヨリヤヤ品質劣リタルモノアリシモ、製造高少キタメ製品ハ概シテ良好ナリ。

殊ニ本年上等茶ノ賣行キ良好ニ反シ下等茶ノ賣行不況ノタメ當業者ハ一層品質優良ナルモノヲ製造セリ。

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

種別	年度別	生葉一貫目價格			製茶一貫目ノ價格		
		高	普	低	上	中	下
一番茶	大正七年	〇・五五〇	〇・四五〇	〇・三五〇	六・五〇〇	五・〇〇〇	三・五〇〇
	大正八年	〇・八五〇	〇・五五〇	〇・四〇〇	八・〇〇〇	六・〇〇〇	三・五〇〇
二番茶	大正七年	〇・五五〇	〇・四五〇	〇・三〇〇	六・〇〇〇	四・五〇〇	三・〇〇〇
	大正八年	〇・八五〇	〇・五〇〇	〇・四〇〇	七・五〇〇	五・五〇〇	三・〇〇〇
五露	大正七年	一・八〇〇	一・二〇〇	〇・八〇〇	二五・〇〇〇	一五・〇〇〇	一〇・〇〇〇
	大正八年	二・三〇〇	一・五〇〇	一・〇〇〇	二八・〇〇〇	一七・〇〇〇	一二・〇〇〇

但 本府ニ於テハ生芽ノ賣買行ハルルモノ甚タ稀ニシテ右ハ推定ニ依ル價格ナリ。

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

諸物價暴騰ニツレ製茶助成品並ニ勞銀ノ騰貴甚シク、一般ニ二、三割ノ増加ヲ見ルニ至レリ。

製品別	年度別	大正八年 年度		大正七年 年度	
		高	低	高	低
粗揉機使用煎茶壹貫目ニ付		二・七〇〇	ヨリ三・〇〇〇	一・三〇〇	ヨリ二・〇〇〇
手揉煎茶壹貫目ニ付		三・〇〇〇	ヨリ五・〇〇〇	三・〇〇〇	ヨリ四・五〇〇
手揉玉露壹貫目ニ付		五・〇〇〇	ヨリ八・〇〇〇	四・〇〇〇	ヨリ六・〇〇〇

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

一番茶ノ始メ頃ハ仲買商ノタメ安買ヒセラレタルモ、後、本年茶況ノ好況ヲ知り、殆ト昨年ノ煎茶玉露ニアリテハ一、二割、煎茶ニアリテハ三、四割高ニシテ殊ニ上等茶ノ賣行ハ未タ曾テ見サルノ好況ナリキ。

是レニ引キカヘ下等茶ノ賣行悪シキモ、下等品僅少ナルヲ以テ大體ニ於テ本年度茶況ハ概シテ良好ナリキ、卸賣及小賣モ平均約三、四割高トナリタルモ何等需要ニ關係ナク、賣行キ良好ナリ只幾分安物注文ノ方増加スルノ傾向アリキ。

二番茶ニ入りテハ取引ヤ鈍リタル感アリシモ製品ノ賣却ニ困ルカ如キ事毫モナク、依然取引セラレタリ、只下等茶ノ賣行キハ餘リニ良好ナラス。

近時碾茶ノ需要増加シツアルハ本府茶業上特ニ留意スヘキ現象ナリ、尙ホ他府縣ヨリノ輸入茶増加スルハ需要家ノ安物注文ニ應スルタメノ止ムヲ得サル現象ナリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

近時勞銀ノ高騰及勞力不足ノタメ生産家ノ不安少カラサリシモ幸製品ノ價格モ之レニ伴ヒ好況ナリシヲ以テ何等苦痛ヲ感セス收益多ク從テ栽培ニ努メ施肥量等モ増加セリ。
然シ二番茶ハ勞銀及諸物價高キ割ニ製造工程少キタメ引合ハス從テ二番茶製造ヲ中止セルガ如キモノモアリキ
商人ニアリテハ近來一層多額ノ資金ヲ要スルニ到レルモ相場モ漸次良好ナリシタメ相當利益ヲ得ルモノ多シ。

(四) 埼玉縣

(大正八年十月二十五日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育ノ概況

一番茶ハ昨年二番茶摘採以後氣候適順ナリシタメ秋芽ノ發育最モ良好ニシテ從ツテ樹勢旺盛加フルニ本年度ニ入りテ比較的溫暖多濕ナリシカハ、茶芽ノ發育良ク、摘採期ノ如キモ、例年ヨリ十日以上モ早カラムト豫想サレ居リシカ、四月上、中旬ニ於テ屢々降霜アリシタメ茲ニ一頓挫ヲ來シ、發育不整ニシテ、霜害甚シキ地方ノ如キハ六月中旬マテ摘採セリ。
二番茶ハ氣候比較的冷涼ナリシタメ發育良好ナリ。
三番茶、摘採製造ナシ。

二、本年ノ製茶產額豫想

一番茶、前年ニ比シ一割増シ。
二番茶、前年ト大差ナシ。

三、本年ノ製茶品質

一番茶、霜害ノタメ茶芽ノ素質ヲ害セシト、製茶ノ賣行良好ナリシタメ、幾分粗製ニ流レシモノアリテ、品質稍低下セルノ感アリ。
一番茶、氣候比較的冷涼ニシテ茶芽ノ發育良好ナリシト、中物以下ノ製茶價格不振ナリシタメ製造

法ニ注意シ品質良好ナリ。

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

年 度	生葉 壹貫目 價格			製茶 壹貫目 價格		
	高	普	低	上	中	下
一番茶 (大正七年)	〇・六〇〇	〇・四〇〇	〇・三〇〇	七・〇〇〇	四・〇〇〇	三・〇〇〇
一番茶 (大正八年)	〇・八〇〇	〇・六〇〇	〇・三〇〇	一〇・〇〇〇	七・〇〇〇	四・〇〇〇
二番茶 (大正七年)	〇・六〇〇	〇・四〇〇	〇・三〇〇	六・〇〇〇	三・五〇〇	三・〇〇〇
二番茶 (大正八年)	〇・七〇〇	〇・五〇〇	〇・三〇〇	九・〇〇〇	六・〇〇〇	四・〇〇〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年度ニ於テハ生葉代、職工賃、下働人夫、薪炭及雜費等ニテ四圓參拾錢位ナリシカ本年度ハ生葉代其他一般昇騰セシタメ三割五分乃至四割増シナリ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引ノ概況

一番茶ニ於テハ上中下、共、相當需要アリテ價格高ク取引活氣ヲ呈セシカ、二番茶ニ至リテハ價格

廉ク商談纏ラス取引不振ナリ。

他府縣ヘノ移出ハ信州、東北地方、東京市等ニシテ、中物多ク移入ハ静岡縣、東京市等ニシテ中物以下多シ取引ノ最モ繁忙期ハ五、六月ニシテ、最モ少キハ八、九月ナリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

生産者側、製造費暴騰セリト雖モ茶價高キ故、相當ノ利益アリ、又機械製造者ハ向多量持チ越シ居レ共他府縣機械茶ニ比シ敢テ廉キニアラサレハ、是亦相當利益アリ、商人側、商人ハ種々ノ製茶ヲ合組ミナシ販賣スルモノナレハ是亦利益アリ。

(五) 滋 賀 縣

(大正八年十月十三日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發見概況

一番茶ハ昨秋冬以來氣候稍ヤ高温ナリシト茶價ノ騰貴ニ伴ヒ茶園肥培ノ懸到トニ依リ樹勢旺盛ナリシカ本年三月下旬以後寒暖順ヲ失シ爲メニ發芽ノ不整ヲ來シ例年ノ早場所ト遅場所ト其季節接近セ

ルノ奇現象サヘ見ルニ至レリニ番茶ハ一番茶摘採後早天打續キタル爲メ一部ニ浮塵子ノ發生ヲ見タルヲ以テ概シテ發芽不良ナリキ。

二、本年ノ製茶産額豫想

初春以來氣候不順ナリシ爲メ芽立チ粗ナリシト一般嫩芽摘採ニ努メタル爲メ一、二番茶ヲ通シテ前年ニ比シ約壹割七、八分ノ減收ナラム。

三、本年ノ製茶品質

本縣ノ製茶改良獎勵方針ハ大正五年以來優良茶ノ産出ニ努メ其第一步トシテ手揉改良講習會開催ノ結果豫期ノ成績ヲ擧ケツツアルト近時品質ノ上、下ニ依リ其値巾頗ル大ナルヲ以テ一般當業者ノ意向ヲ廓清スルノ機運ニ際會シ自然品質ノ改善ヲ實現スルニ至レリ。

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

區別	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
季節一年次						

區別	前年	本年
一番茶 大正七年	〇・五五〇	六・八〇〇
一番茶 大正八年	〇・六五〇	九・五〇〇
二番茶 大正七年	〇・六五〇	七・〇〇〇
二番茶 大正八年	〇・七〇〇	七・五〇〇

三番茶ハ茶園保護維持ノ爲メ殆ント製造ヲ休止シタルヲ以テ特ニ記載スヘキ程度ニ達セス。

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年ニ比シ諸物價暴騰ノ爲メ四割強ノ増加ヲ見タリ。

區別	前年	本年
純手揉製	貳圓拾五錢	貳圓九拾五錢
粗揉機應用手揉製	壹圓五拾錢	貳圓拾錢
全機械製	六拾五錢	壹圓拾五錢

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

本年ハ一番茶當初ヨリ上等品ノ賣行活潑ニシテ而カモ製品ノ不足ヲ唱フル有様ナルニ反シ中等以下ノ品ニアリテハ六月上旬迄ハ相當ノ賣行ヲ見タルモ六月中旬以後頓ニ相場ノ下落ヲ來シ取引休止ノ姿ヲ見ルニ至レリ。

二番茶期ニアリテモ上等品ノ賣行益々良好ナリシカ八月上旬ニ至リ下等茶打擊ノ餘波ヲ享ケ一般値押ヘノ風評ヲ齎シタリシカ當業者ノ賣屢強ク九月中旬迄持チ耐ヘノ已ムナキ有様ナリシモ爾來相當ノ價格ヲ以テ賣行ハレ目下殆ント生産者ノ手ヲ離ルルノ好況ヲ呈セリ。

因ニ本縣製茶ノ改良獎勵ト相待テ純粹近江茶販賣機關トシテ本年五月近江茶販賣購買組合ノ設立本場一筋物ノ販賣ニ努メツツアル結果全國各地ヨリノ注文ニ接シ之ニ對シテハ充分選定ニ意ヲ盡シ恰好品ヲ提供シツツアルヲ以テ漸次其信用ヲ博シツツアリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

本年ハ各季ヲ通シテ上物ニ割高ナリシ爲メ生産家側ノ利益少カラサリシカ生葉ヲ買入レテ機械製茶ヲ專業トセルモノハ生芽ノ高價ナリシト下等茶割安ナリシ爲メ前年ノ如キ利益ヲ占ムル能ハサルモノノ如ク商人側ニアリテハ未タ損益ヲ判斷スルノ期ニアラサルモ大體ニ於テハ前年ト大差ナキモノノ如シ。

(六) 鹿兒島縣

(大正八年十月三十日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

本年一番茶ハ南薩及北隅ノ東海岸ハ雨量氣候共ニ適順ナリシ爲メ發芽ハ昨年ニ比シ約四、五日ヲ早メ其質モ又佳良ナリキ、其他ノ地方ハ三月中旬迄ハ氣候順調ナリシモ同月下旬ヨリ四月上旬ニ亘リ二回晩霜ノ被害アリテ摘採ヲ遅延セシメ且被害甚敷地方ニアリテハ約四割少キモ約一割平均二割内外ノ減收ナリキ。

一、二、三番茶ハ發育良好ナリシモ摘採スル地方ハ極稀ナリ、即チ諸物價騰貴ト勞役不足ノ爲メ摘採並ニ製造能力ノ乏シキニ起因ス。

二、本年ノ製茶產額豫想

一番茶ニ於テハ霜害ノ爲メ二割内外ノ減收ナリシモ又新開茶園並茶園改良ノ爲メ增收セシ見込ナレハ結局前年ト大差ナカルヘシ。

二、三番茶ハ前年ニアリテハ裾物茶ノ賣行良好ナリシ爲例年ニ比シ約三割ノ增收ヲ示シタルモ本年ハ下等茶ノ賣行不良ナリシ爲メ昨年ヨリ約三割減ニシテ結局例年ト大差ナカルヘシ。

三、本年ノ製茶品質

昨年ハ下等茶ノ賣行良好ノ爲メ品質劣リシモ本年ハ中等茶ノ賣行良好ニシテ且改良製ノ漸次普及セラレタルニ依リ製茶ノ品質ハ著シク向上セリ。

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

生葉 壹貫目 價額	製茶 壹貫目 價額					
	高	並	低	上	中	下
一番茶 大正八年 大正七年	〇・八〇〇 〇・六〇〇	〇・五〇〇 〇・四〇〇	〇・三〇〇 〇・二〇〇	五・六〇〇 三・五〇〇	四・〇〇〇 二・四〇〇	二・六〇〇 一・六〇〇
二番茶 大正八年 大正七年	〇・五五〇 〇・四五〇	〇・二八〇 〇・一五〇	〇・二〇〇 〇・一八〇	四・五〇〇 二・五〇〇	三・〇〇〇 二・〇〇〇	一・五〇〇 一・〇〇〇
三番茶 大正八年 大正七年	〇・四五〇 〇・三〇〇	〇・三五〇 〇・二五〇	〇・二〇〇 〇・一〇〇	五・〇〇〇 二・八〇〇	三・二〇〇 二・二〇〇	二・〇〇〇 一・四〇〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年ニ比シ約四割乃至五割高ヲ示セリ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

本縣製茶ノ取引ノ重ナル所ハ大島各島ニシテ其他沖繩、熊本、宮崎、下ノ關、神戸、静岡等ニシテ大分ハ縣下大島諸島ニシテ縣下大島諸島ニシテ縣外移出ハ其一部分ニ過キス、本年ハ昨年ニ比シ大島諸島ノ經濟界好景氣ナリシ爲メ一般ニ中等以上ノ茶ノ需要多ク下等品ノ年行之レニ伴ハサルカ故ニ移出量ハ前年ノ約三割ノ減少ヲ示セリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

製茶モ他ノ諸物價ト均シク近年著シク騰貴シタレトモ生産費ノ向上ハ一層甚敷殊更農家ノ副業勃興ト諸工業ノ發展セルカ故ニ勞役不足ノ爲メ二番茶以後ノ製造少キハ寔ニ遺憾トスル所ナリ目下市況抄々シカラス。

(六) 茨城縣

(大正八年十月十三日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

大正七年末ヨリ同八年一、二月ノ交ハ氣候稍温暖ナリシニ由リ茶芽發生ハ例年ニ比シテ一週間ハ早カルヘシ而シテ發芽狀況ハ佳良ナルヘク豫想シタルニ四月下旬ニ至リ意外ニモ降霜三回アリテ新芽ハ悉ク黒燒ト爲リ或ハ發育遲延シテ一番茶ノ摘採ヲ不可能ニ終ラシメタル地方アリ而シテ二番茶ハ前陳霜害ノ影響ヨリシテ新芽不整且ツ農繁期ニ際シタルヲ以テ摘採中止ノ地方モアリ、三番茶ハ島郡ノ或ル一部地方ニ於テ之ヲ摘採スルノミニシテ其數量ハ極メテ微々タルモノトス。以上ノ狀況ニヨリ縣下ヲ概括スレハ一番茶ニ於テ收量五割二番茶ニ於テ四割ヲ減シタリ。

二、本年ノ製茶產額豫想

前段ニ於テ述ヘタル如ク發芽不良ニシテ摘收量ヲ減シタル上、諸物價暴騰ノ結果製造ヲ見合セタルモノ之レ有ル等ノ關係ニヨリ產額ハ著シク減少ヲ示シ一番茶二番茶共ニ五割以上ヲ減シタルヘシ。

(産額ノ詳細ハ目下調査中ナレハ更ニ之ヲ報告スヘシ)

三、本年ノ製茶品質

茶芽發育期ニ際シ三回ノ降霜ハ著シク其發育ヲ阻害シ、一見霜害ヲ免レタルカ如キ生葉モ製造スルニ當リテハ粉末ト爲リタルモノ多ク一般ニ品質不良ナリ、二番茶ニ於テ之カ恢復ヲ圖ルヘク速効肥料ヲ多量ニ施用シタル茶樹ニ就テモ製造上品質佳良ナラサルハ實ニ其霜害ノ影響甚大ナリト思ハル近年ハ世上生活程度高調シタル爲メカ兎角上茶ノ需要多キニ反シ本年ノ製茶品質ノ不良生産家並商人ニ對シ大ナル打撃ト謂フヘシ。

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

本年ノ生葉及製茶價格ト肥料、薪炭、人夫賃其他雜費ノ暴騰セシメ爲メ生葉及製茶各壹貫目ニ對シテ生葉ハ三割、製茶ハ五割以上ヲ増加シタリ今左ニ前年トノ比較ヲ示スヘシ。

一番茶 〔大正七年 大正八年〕	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
	〇六〇〇	〇五五〇	〇三五〇	八〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇
	〇八〇〇	〇六〇〇	〇四五〇	一二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、五〇〇

二番茶	大正七年	〇・五〇〇	〇・四〇〇	〇・三〇〇	八・〇〇〇	五・〇〇〇	四・五〇〇
	大正八年	〇・六五〇	〇・五五〇	〇・四〇〇	一〇・〇〇〇	八・七〇〇	六・〇〇〇

二四

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減

生産費ニ於テ要スル處ノ木炭價格ハ昨年ニ比シ約八割、薪ハ同シク約五割、人夫賃ハ同シク倍額ノ騰貴ヲ來シ其他一般ノ物價カ少クトモ三四割以上ノ高騰ニヨリ生茶壹貫目ニ對スル製造費ハ貳圓ヲ要スルヲ以テ平均六割以上ヲ増シタルモノノ如シ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

縣下一般ヲ通シテ上茶ノ需要ハ益々増加シタルカ如シ然レトモ本年度ハ産額減退品質不良ノ爲メ之カ需要ニ應スル能ハサルノ憾ミ多シ而シテ其取引ノ最モ繁多ナルハ六、七、八月ノ交ニシテ近縣即チ福島、栃木地方ヨリ買出シ商人ノ多數入り込ムヲ常トスルニモ不拘本年ハ價格上進ノ影響トシテ商人ノ來リ買込ムモノ少キカ如シ。
他府縣ヨリノ移入茶ハ静岡及狭山茶ヲ最多トシ其價格ハ優ニ十數萬圓ニ上リタルヘシ。

七、茶業者ノ經濟狀態

諸物價騰貴ノ影響ハ製造家カ其ノ製造ヲ見合セタルモノ多キカ如ク假令自園茶ヲ製造シテ自家用ニ供スルモノト雖モ損得相償ハサル爲メ生葉ヲ賣却シテ製茶ヲ購求スルノ傾アリ故ニ供給ハ益々不足ヲ告グ價格ハ益々上進ス。

商人側ノ狀況ハ上物ノ需要多キ割合ニ品不足ノ結果、值頃ノ製茶ヲ獲ル能ハサリシノミナラス製造家ノ賣腰強キカ爲メ買ヒ進マントスルモノ尠シ而シテ縣下ノ價格ハ他府縣産茶ニ比シ割高ノ爲メニ静岡、狭山等ノ産地ヨリ購入販賣スルモノ多キヲ見ル。

(八) 奈良縣

(大正八年十月二十五日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年度茶芽發育概況

冬季ニ寒氣酷烈ナリシタメ發芽模様如何ヲ憂慮シ居タルモ春季ニ至リテ氣候順調ヲ得タルヲ以テ茶樹ニ多少ノ損傷ハ免レサリシモ發芽狀況佳良トナリ幼芽伸長シ摘採期ニ何等ノ影響モ及サス當初憂慮シ居タル程ノ變化ヲ見ルニ至ラサリキ。

二、本年ノ製茶産額豫想

- 一番茶 平年作
- 二番茶 一割 減(早摘獎勵ノ結果)
- 三番茶 二割五分 減(早天茶樹愛護ノ結果)

右ノ通りニテ一番茶カ昨年ノ中等物賣行キ善カリシタメ芽長製造シタル關係上收穫ノ上ニ於テ平年ト異ナラス二番茶ハ一番茶ノ製品粗大ナルニ鑑ミ早摘ヲ獎勵シタルタメ一割内外ノ減葉ヲ見三番ハ平坦部ニ於テハ氣候其他農事ノ關係ト摘採ヲ見合セタル地方モアリ又山間部ハ茶樹愛護ノタメ見合セタル向モアリテ二割五分位ノ減收ニテ經過シタルタメ例年ヨリ平均一割三分位ノ減收ナラム。

三、本年ノ製茶品質

一番茶ハ硬葉ヲ摘採シタルタメ外見稍々粗大ニシテ意ノ如クナラヌト雖モ上質ナルヲ得(全仕上器製)參四五拾錢乃至四圓位(粗揉機使用手揉仕上四圓五拾錢内外)手揉製(五圓貳、參拾錢)二番茶三番茶ハ至極細ク良好ナリ概シテ製造上ニ注意改良ヲ加ヘ二三番期ニ早摘ヲ爲サシメタル結果何レモ上品ヲ得タルモ機械茶(仕上器製)ニハ稍々不良ノ品現レタル向モアリシモ一部分ノミニテ別々大ナル影響モナシ

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

一番茶生葉壹貫目ニ付最高六拾錢最低參拾貳錢平均四拾六錢二番茶最高五拾錢最低貳拾五錢平均參拾八錢三番茶最高六拾錢最低參拾五錢平均四拾七錢前年ヨリ拾錢高

生葉壹貫目價格	製茶壹貫目價格					
	高	普	底	上	中	下
一番茶 大正七年 大正八年	〇四七〇 〇六〇〇	〇三五〇 〇四九〇	〇二八〇 〇三三〇	〇四七〇 〇六五〇	〇三〇〇 〇四〇〇	〇二二〇 〇三三〇
二番茶 大正七年 大正八年	〇五〇〇 〇五〇〇	〇四〇〇 〇三八〇	〇三〇〇 〇二九〇	〇五〇〇 〇六二〇	〇三〇〇 〇四〇〇	〇二〇〇 〇三〇〇
三番茶 大正七年 大正八年	〇五〇〇 〇六〇〇	〇四〇〇 〇五〇〇	〇二六〇 〇三五〇	〇五〇〇 〇六〇〇	〇三〇〇 〇三八〇	〇二〇〇 〇二八〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

勞働費銀ハ約五割高ヲ稱シ其他費用ハ約五割増ノ見込ナリ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

上物ハ京都東京方面ニテ中物静岡ニ移出シ下物ハ(川柳)大阪方面最モ多シ。

本年ノ上物ハ相當京都方面ニ供給セラレタルモ中物（精揉機仕上茶多少アリ）貿易向中途ニテ沈靜ナリシタメ大ナル影響受ケタルモ九月十日頃弗々内地用ニ賣行キ下物ハ多少殘品アルノミ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

本年ハ世界戰後ノ初群臺トシテ一般生産家ハ生産費昂騰ニモ拘ラス機械工場各所ニ設置セラレタルタメ小生産家ノ生葉賣買盛ニ行ハレタリ如上ノ通りニテ殆ト生産、製造ノ分立ヲ見タルモノノ如ク製茶期ニ至リテ市場モ好況ノタメ相當利益アリシモ二番茶ニ入り生葉ハ比較的高ク而シテ製品ノ價格ハ下落シタル爲茶機械應用製造家ニハ不利ノ點アリ生葉賣及ヒ普通製造家ハ却テ相當ノ利益ヲ得ル有様ニテ概シテ生産家側ハ茶價昇騰ノ結果金融緩慢ナリ商人側ハ一番茶開始以來二番茶期迄價格漸高ノ狀態ニアリシ爲相當利益アリシモ二番茶期末三番茶期ニ至リ普通茶以下下等品ノ値段壹貫目ニ付五拾錢乃至六拾錢方ノ暴落シタルタメ商人ハ大打撃ヲ受ケ取引中止ノ已ムナキ狀態ニアリシカ九月頃ヨリ人氣一轉シタルタメ活付キタルヨリ目下ノ處大部ノ取引ヲスルニ至レリ。

(九) 熊本縣

（大正八年十月六日同縣茶業組合聯合會議所報告）

一、本年ノ茶芽發育概況

早春以來氣候溫暖ナリシ爲メ茶芽ノ發育頗ル良好ニシテ四月上旬降霜アリシモ極メテ局部的ニシテ被害トシテ認ムヘキモノ少ク例年ヨリ一週間内外早ク摘採セリ。

二、本年ノ製茶產額

前年ト大差ナシ。

三、本年ノ製茶品質

茶芽ノ發育例年ニ比シ速ナリシ爲メ多少硬葉摘ニ傾キシモ一面取締厲行ノ結果製造ニ注意セシ爲メ一般ヲ通シ品質ハ著シク昂上セリ。

四、本年ノ生葉及製茶壹貫目價格並前年トノ比較

一番茶 〔大正七年 大正八年〕	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格			
	高	普	底	上	中	下	
	〇・五〇〇 〇・五八〇	〇・三八〇 〇・四五〇	〇・二六〇 〇・三〇〇	四・九〇〇 六・〇〇〇	三・六〇〇 四・〇〇〇	二・三〇〇 二・五〇〇	

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年ニ比シ約二割高

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

本年製茶ノ取引ハ頗ル活氣ヲ呈シ特ニ中上品ハ未曾有ノ高値ニシテ、静岡神戸市場ヨリ注文殺到セルニモ拘ラス品不足ノ聲ヲ聞クニ到レリ、縣外ヘノ輸出ハ改良茶ニ於テ増加セルモ大體ニ於テ前年ト大差ナシ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

茶價未曾有ノ騰貴ニヨリ諸物價騰貴ニモ拘ラス生産者ハ多大ノ利益ヲ收メ最モ有利ノ年柄ナリ而シテ商人側ニ於テハ下等品ノ賣行不振ノ爲メ概シテ經濟困難ノ狀態ナリ要スルニ本年ノ茶況中上品ノ好況ハ茶業改良上甚タ喜フヘキ現象ニシテ茶業改良ノ自覺ヲ促ス上ニ於テ最モ好結果ヲ與ヘタルモノト信ス。

(十) 岐 阜 縣

(大正八年十月五日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育ノ概況

本年春季ニ於ケル茶芽ハ發芽以來氣候適順ニシテ生育良好也然レトモ一般蠶業著敷發展ノ爲從來ノ茶園ニ桑及果樹、桐、楮等ノ栽培ヲナシ剩ヘ一方ニ耕地ノ整頓發展セシヨリ近來茶園ヲ廢シ田畝トナシ已般ノ茶園ハ非常ニ減少シ明治四十年前後ニ比シ目下茶園ノ現存スルモノ殆ト半額タニ見サル狀態ナリキ故ニ二番茶ノ如キハ僅少ニシテ三番茶ノ如キハ皆無トナリ近來單ニ蠶業ニ重キヲ置キ年内春夏秋蠶ノ如キ四回又ハ五回ニ涉リテ多額ノ收入ヲ得ルヨリ漸次製茶思想薄弱トナリ又揖斐郡及加茂郡ノ二郡ニアリテハ二番茶ノ製造ヲナスト雖モコレ僅ニシテ是亦次第ニ減少ノ狀況ナリキ折角ノ茶芽モ遂ニ放任的成長シテ結局番茶用ニ使用セラルルハ實ニ遺憾ナリキ故ニ近來番茶ノ製産額増加ヲ見ルノ有様也。

二、本年ノ製茶産額豫想

一番茶拾壹萬貫内外ノ見込ナリ二番茶壹萬四五千貫内外ナリ。
但 一二番共ニ前年ニ比シ約二割減。

三、本年製茶品質

製造品ニ付テハ從來ト異リ近年大ニ改良ヲ加ヘ各郡ニ傳習所ヲ組織セシメ又ハ共同製造及共同販賣組合ヲ設ケシメコレニ對シ當所ヨリ補助ヲ與ヘ一方縣ヨリハ巡回教師十四五名ツツ毎年派遣セラレルノ方法ヲ講シ之レカ改良方ヲ獎勵セシムルヨリ近來製品上ニ付テハ大ニ良品ヲ製スルニ至レリ加茂郡ノ如キハ已ニ四ヶ年繼續エテ毎年製茶品評會ヲ開催シ獎勵法ヲ講シ一方ニ茶園ノ増設ヲ企圖シツツアルモ前述ノ如ク他郡ニアリテハ蠶業ニ重キヲ置キ茶業ハ次第ニ減少ノ狀態トナリヌ。

四、本年ノ生葉及製茶壹貫目ノ價格並ニ前年トノ比較

	生葉壹貫目價格			製葉壹貫目價格		
	高	普	底	上	中	下
一番茶 大正七年 大正八年	〇・四〇〇 〇・六〇〇	〇・三〇〇 〇・四〇〇	〇・二〇〇 〇・三〇〇	三・八〇〇 六・三〇〇	三・〇〇〇 四・五〇〇	二・五〇〇 二・八〇〇
二番茶 大正七年 大正八年	〇・四二〇 〇・五〇〇	〇・三三〇 〇・四〇〇	〇・二二〇 〇・三〇〇	三・六〇〇 四・五〇〇	三・一〇〇 四・〇〇〇	二・三〇〇 二・五〇〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況
前年ヨリ約三割高。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

本年度ニ於テハ内外共ニ概シテ中物及下等物ノ方希望多シ故ニ是ハ六月下旬迄ニ悉皆移出シタリ上物ニ至ツテハ七月下旬迄ニ概シテ北陸及信州他方ヘ移出セリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

本年度ニテハ各製造家ハ一二番茶共前年ニ比シ二割乃至三割方高値ナルヲ以テ一般良好ナリキ各商人ニ於テモ同様ノ狀況ナリ。

(十一) 福 岡 縣

(大正八年十月三日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年度茶芽發育ノ概況

餘寒短ク春暖著シク加リ時々降雨アリ霜害等ナク概シテ發育佳良發芽良好ナルヨリ摘採期ヲ早メタルニ拘ラス伸長力速ナリシヲ以テ原料稍過大ノ觀アリニ番茶以後ハ本縣ニテ摘採僅少ナルモ發育ハ普通ナリ。

二、本年度製茶產額豫想

一番茶ハ例年ニ比シ三割以上ノ増額ナリ之レ採收ノ適期ヲ逸シタルタメ收量ヲ増加セルモナラム。

三、本年製茶ノ品質

前年寒害ヲ蒙リタル原料ニ比較スルトキハ概シテ其品質良好ナルモ稍粗大ナリシヲ免レス且ツ前年下等茶値聞良好ナリシニ鑑ミ製造シタル多ク一般ノ品質トシテ前年ニ大差ナシ。

四、本年ノ生葉及製茶壹貫目ノ價格

一 番 茶	生 葉 壹 貫 目 價 格			製 茶 壹 貫 目 價 格		
	高	並	低	高	並	低
大正七年	〇.六〇〇	〇.五五〇	〇.四九〇	六〇〇	五〇〇	三〇〇
大正八年	〇.七〇〇	〇.六五〇	〇.五〇〇	九〇〇	五八〇	二五〇

人夫賃ノ昂騰薪炭其他一般物價ノ騰貴ノタメ約三割五分ノ高率ヲ示セリ。

五、本年度ニ於ケル製茶取引ノ概況

新茶當時ハ一般ニ供給不足ノ觀アリテ上中共期待多大ナリシカ所謂地方需要ノ傾向ナリシヲ以テ貿易市場ノ傾向トハ反對ニテ製產地ニテハ好況ナリシモ静岡地方ハ沈靜ナリシヲ以テ九州各地ニ移送セラレ就中沖繩縣行多大ナリシカ同地モ臺灣茶ノ侵入アリテ漸次緩漫ノ姿トナリ當時閑散ノ商狀ナリ。

六、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

生産家ハ摘採當時好況ナリシタメ意外ノ代價ヲ得居レリ尤モ晩季製造ノ個所ニテハ不況ノタメ賣却シ得ス商人側ニテハ見込買ヲナシタルモノ不測ノ損失ヲ來シ居レリ是ハ中下茶ノ賣行殆ント停止ノ姿トナリ賣行見込ナキタメナリ普通ハ相當ノ利益アル様ナリ。

(十二) 宮 崎 縣

(大正八年十月七日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年茶芽發育ノ概況

一番茶ハ前年ヨリ氣候温暖ニシテ且順ヲ得加フルニ降雨適當ニ到リ發芽一般ニ早ク發育良好ニシテ前年ヨリ十日餘モ早ク摘採ニ着手シ三月下旬既ニ製造ヲ開始セシ個所モアリキ。

二三番茶ハ肥培管理ノ關係ト天候順ヲ得タルトニヨリ發育良好ナリキ。

二、本年製茶產額豫想

前年ニ比シ一番茶ニ於テ二割増二三番茶ニ於テ一割増。

三、本年ノ製茶品質

一番茶最良好 二三番茶良好。

品質ニ及ホシタル主ナル要項ハ天候順調ナリシト茶園ノ肥培管理普及、摘採ノ干涉ト製造ノ大部純手採ナルト一般茶價ノ高値ナリシトニヨル。

純機械茶ハ過去ノ成敗ニ鑑ミ専ラ根本の品質維持ニ注意ヲ拂ヒタル爲比較的良好ナルヲ得タリ其他半機械製茶ハ品質ニ於テ手採茶ニ比シ遜色ヲ見サリキ。

要スルニ或ル程度迄ハ生産費節約ヲ計ルモ總對的品質本位ヲ主唱セシハ本年製茶ノ人氣ニ投合セリ

四、本年ノ生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

番茶	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
番茶 大正七年 同 八年	〇八〇〇 一、二〇〇	〇四〇〇 〇五〇〇	〇一五〇 〇三〇〇	八五〇〇 一三、〇〇〇	三五〇〇 五、〇〇〇	二〇〇〇 三、〇〇〇
二番茶 同 同 八年	〇六〇〇 〇八〇〇	〇三〇〇 〇四〇〇	〇一五〇 〇二五〇	四、五〇〇 五、五〇〇	三、〇〇〇 三、五〇〇	二、五〇〇 三、〇〇〇
三番茶 同 同 八年	〇五〇〇 〇八〇〇	〇三〇〇 〇四〇〇	〇二〇〇 〇二五〇	四、五〇〇 五、〇〇〇	三、〇〇〇 三、五〇〇	三、〇〇〇 三、〇〇〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年ト大差ナシ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

上中下物其他府縣ヨリ商人入り込ミ製茶時期ニ生産地ニ於テ直接賣買セルモノ多ク神戸、静岡及其

他ノ市場ニ直移出セシハ昨年ニ比シ少ナカリキ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

生産家側ニテハ生産費ハ昂騰セルモ製茶價格騰貴セルト直接生産地ニ於テ取引ノ行ハレタルモノ多ク荷造費、送費其他ノ冗費ヲ要セス金融活潑ニシテ大ニ好感ヲ與ヘタリ。商人側ニ於テモ亦歡喜ノ裏ニ確實ナル取引ヲ行ヘリ。

(十三) 高 知 縣

(大正八年十月二十七日同縣茶業組合聯合會諸所報告)

一、茶芽發育概況

本年一番茶ノ發芽ハ早春以來氣候溫暖ニシテ三月下旬ヨリ五月中旬頃迄ハ降雨頻繁ナリシ爲メ發芽ノ伸育極メテ良好ニシテ近年稀ニ見ル豐作ナリニ番茶以降ニ於テモ順調ノ氣候ヲ持續シ平年ニ比シ約三割ノ增收ヲ得タリ。

二、本年ノ製茶產額豫想

前年ニ比シ三割増。

三、製茶品質

本年ハ一般ニ上物ノ需要多カリシ爲メ品質ハ概シテ良好ナリ殊ニ本縣ニ於ケル綠茶ハ手揉製ヲ改良ノ標準ト爲セルヲ以テ茶況ニ依リ品質ノ粗悪ニ傾ク弊少シ。

四、生葉及製茶各一貫目價格

一番茶 〔大正七年 大正八年〕	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
	0.700 0.800	0.500 0.450	0.150 0.115	5.000 6.500	5.400 5.000	3.000 3.500

二番茶以降ハ製造セス。

五、製茶一貫目ニ對スル本年ト前年トノ生産費増減概況

前年ニ比シ三割増(一番茶期)

六、製茶取引概況

本縣ハ一般當業者ノ生産品ヲ販賣斡旋スルノ機關トシテ神戸市ニ生産物販賣所ヲ常設シアアルヲ以テ製茶時期ニ於テハ各郡ヨリ一名宛ノ代表者ヲ派シ共同販賣ヲ爲セリ本年ハ主トシテ上物歡迎セラレタル關係上、下物振ハス中以上ノ製品取引盛ニ行ハレタリ。

七、茶業者ノ經濟狀態

當業者側ニ於テハ本年生葉ノ豐作ナリシト茶價比較的高價ナリシ爲メ相當ノ純益ヲ得一般活氣ヲ昂セリ而シテ商人側ニ在リテハ前項ノ如ク生産業者ニ於テ直接神戸市ニ出荷セシモノ多數ナルヲ以テ何レモ小口物ノミ取扱ヒヲ爲シタルモ市場ノ活氣ニ伴ヒ相當ノ利益ヲ得タル狀況ナリ。

(十四) 愛媛縣

(大正八年十月十二日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年茶芽發育概況

前年ニ比シ不良、年越氣候順良ナルニ近來桑園ニ重キヲ置キ茶樹ノ修理ヲ怠リ故ニ發育不良ナリ。

二、本年製茶產額豫想

前年ニ比シ三割減、コハ生葉少キト製造家手控ノ結果ト認ム。

三、本年製茶品質

大正六、七二ヶ年、上茶ニ比シ下茶市場高値ナリシヲ以テ先高ヲ見越粗製ニ流レタルモノニシテ總テ品質惡シキ方。

四、本年生葉及製茶各壹貫目價格並前年トノ比較

大正 七年	生葉壹貫目價格			生産壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
大正 八年	〇五四〇 〇三〇〇	〇三〇〇 〇二五〇	〇二五〇 〇二〇〇	七〇〇〇 四〇〇〇	五〇〇〇 三〇〇〇	二〇〇〇 一〇〇〇

五、本年ト前年トノ製茶壹貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年ニ比シ諸物價暴騰ニ依リ製茶器具購入費並ニ消耗品費二割以上増加ス。

四二

年 別	生 葉 壹 貫 目 價 格	
大 正 八 年	壹圓以上壹圓廿錢	各手採製
同 七 年	八拾錢以上壹圓	

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

上茶取引良好ナルモ下茶不況ニテ製茶季節中旬ヨリ後ハ全ク取引皆無前年ニ比シ正反對ノ狀況ナリ

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

初期市價旺盛ニシテ呼値高キニ依リ生葉賣行良好始終比較的高價ナルニ製造家ハ豫期ニ反シ中以
下、下茶賣行不良尙又仲買商人モ先キ高ヲ見越買收セシニ反シ遂々下落全ク下茶取引皆無ノ姿ニシ
テ手持品多キ爲ニ豫想ハ損ト免レ難シト見ルモノナリ。

(十五) 石 川 縣

(大正八年十月二十三日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

冬季降雪少ク春來氣候温順ナルモ晩春ニ至リ降霜ノ爲メ其害少ナカラス前年ニ比シ三ケ日許リ遅延
ス二三番茶ハ蠶飼上農家ノ多忙ナルト中等以下製茶ノ賣行悪敷タメ製造セサリキ。

二、本年ノ製茶産額

本年ハ物價暴騰ノ爲メ自然製産家ハ賣腰強ク前年ニ比シ平均二割半ハ高價ナリ二三番茶ハ製造セサ
リシモ一番茶ノ産額ハ參拾萬圓餘ヲ超ユルナラン。

三、本年ノ製茶品質

下等品不向ノ爲メ一般品質向上ニ努メタリ其中資産アル三、四ノ製造者ハ機械ヲ購求シ電力ヲ以テ
製造ニ着手セリ當地ハ中等以下ノ製茶ハ宅製乾燥ニテ多ク製造スル舊慣ナルモ下等品ハ不振ノ爲メ

四三

曾テ製産ナシ

四、本年ノ生葉及製茶一貫目價格等

一番茶 大正七年 大正八年	生葉壹貫目價格			製茶壹貫目價格		
	高	普	低	上	中	下
	四〇〇〇 五、〇〇〇	二五〇〇 三、〇〇〇	一、〇〇〇 一、五〇〇	六、五〇〇 八、〇〇〇	四、〇〇〇 五、〇〇〇	二、〇〇〇 〇、〇五〇

二番及三番茶ハ蠶飼ノ爲メ製造者ナキト云フモ可ナリ。

五、本年度ニ於ケル製茶取引ノ概況

上物及中等品ハ多ク縣内ノ需要トセリ品物春來拂底ノ爲メ商況高價ヲ占メ且霜害ノ爲メ製品モ少キ模様ナリ中及下等品ハ主トシテ新潟長野静岡方面へ移出セシモ賣行不進ニシテ出來高ハ前年ニ比シ下等品ノ如キ貫價二圓以下ノ製茶ハ中途其製造ヲ止メタル者多キヲ見ル且移出商ハ二ヶ年不利益ノ状態ナリ移入トシテハ上物品ニシテ多ク三重静岡方面ヨリ縣内需要ノ商品トス其數二萬斤許ナリ。

(十六) 和歌山縣

(大正八年十月十五日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年度ノ茶芽發育概況

一、二番茶氣候適順ニテ發育良好ナリ。

二、本年度ノ製茶產額豫想

產額ハ前年度ト大差ナク一割以上ノ増加ニテ二番茶ハ少シク減少ノ見込。

三、本年度製茶ノ品質

一二番茶共、品質ハ極メテ良好ニテ手揉製多シ粗揉器ハ全部ニテ五十臺位精揉器ハ凡十臺位ニテ一般製造ハ手揉ナリ。

四、本年度生葉及製茶各一貫目價格並前年度トノ比較

生葉壹貫目價格	製茶壹貫目價格	
	上	中
高	四、五〇〇	三、五〇〇
普	六、五〇〇	四、〇〇〇
低	五、五〇〇	三、五〇〇
上	三、五〇〇	三、五〇〇
中	四、五〇〇	三、五〇〇
下	三、五〇〇	三、五〇〇

静岡上等茶ニ對スル壹貫目貳圓以上ノ高値ヲ見タリ。

五、本年度前年ノ製茶一貫目ニ對スル生産費増減

前年度ヨリ三割以上ノ増加ヲ見タリ。

六、本年度ニ於ケル製茶取引ノ概況

上中下茶共、移出先ハ神戸大阪静岡ニテ需要者ハ最モ注文極メテ多シ。

七、茶業者ノ經濟狀態概況

當縣ハ一二番茶ノミヲ三番茶ヲ摘採スル者無之上等茶ノ手採製ハ賣行良好ニテ製造業者モ明年度ヨ

リ一層手採製ヲ産出フル目込多シ故ニ各所ハ傳習所及ニ講習會ヲ開催シ技術者ヲ養成スル見込ニテ各地ノ製造者ノ希望ハ上等茶ヲ産出スルノ有利ヲ認メタリ。

傳習所開催地ハ

西牟婁郡	十ヶ所
日高郡	五ヶ所
東牟婁郡	五ヶ所
有田郡	一ヶ所
那賀郡	一ヶ所
計	二十二ヶ所

教師ハ静岡縣人及地方技術者ヲ採用シ時々聯合會ヨリ巡回シ其指導ノ獎勵ヲ計リ且費用ヲ補給ス。

(十七) 兵庫縣

(大正八年十月二十日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年ノ茶芽發育概況

一番ニアリテハ春來氣候適順ニシテ發育良好ノ豫想ナリシニ四月末日頃ノ降霜ニテ被害ヲ免レス摘採期ヲ遅延シ收葉モ平年ニ比シ二割以上減收ヲ呈セリニ番茶ニアリテハ發芽良好ニシテ平年ニ比シ二割増收ヲ呈セリ。

二、本年ノ製茶産額豫想

一番茶ニアリテハ前年ト大差ナシ平年ニ比シ二割以上減收ニ番茶モ前年ト大差ナシ。

三、本年ノ製茶品質

一番茶ノ品質良好ナラス其原因ハ諸物價ノ騰貴ト蠶業ノ盛況トニヨリ雇人不足ノタメ茶芽摘採ノ時季ヲ失シ且ツ職工不足ノタメ製造意ノ如クナラス各生産家ニ於テハ不得止新芽ヲ番茶ニ製造スルモノ多カリキニ番茶ノ品質ハ農繁ト職工不足ノ爲メ粗製ニ流レ品質不良ナリ。

四、本年ノ生葉及製茶一貫目價格並前年トノ比較

生葉 壹貫目 價格		製茶 壹貫目 價格	
高	普	上	中
0.350	0.300	3.700	3.000
0.250	0.200	3.500	2.800
0.150	0.100	3.000	2.400
0.050	0.000	2.000	1.500

年份	一番茶	二番茶	生葉	製茶
大正七年	0.350	0.150	3.700	3.000
大正八年	0.250	0.100	3.500	2.800
大正七年	0.350	0.150	3.700	3.000
大正八年	0.250	0.100	3.500	2.800

五、本年ト前年トノ製茶一貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

生産費ハ前年ニ比シ五割増加。

六、本年度ニ於ケル製茶取引概況

本年中物ハ相當活況ヲ以テ取引ヲ終ヘタルモ下物ハ非常ノ大活況ニシテ神戸港及静岡方面へ移出セリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

生産家ノ經濟狀態ハ諸物價及職工賃ノ大騰貴ニヨリ甚タ困難ヲ以テ收支相償ハス商人側ニ於テモ亦同シ。

(十八) 大阪府

(大正八年十月三十日同府茶業組合聯合會議所報告)

五C

一、本年茶芽發育概況

發芽ノ狀況ハ良好ナリシモ春來トミニ雨量多ク一部ノ發育タメニ不良トナリシモ大シタル影響ナシ

二、本年製茶產額豫想

前年度ニ比シ約一割ノ增收ト認ム。

三、本年ノ製茶品質

發芽良好ト氣候順調ノ爲メ品質ハ良好ナルモ物價昂騰ノ結果機械製茶多ク出廻リ一般ニ品質下落セリ。

四、本年ノ生葉及製茶一貫目價格並ニ前年トノ比較

一番茶 大正八年 大正七年	生葉一貫目價額			製茶一貫目價額		
	高 各 自 (各 自 〇 九 七 五)	普 三 割 〇 六 〇	低 安 (〇 六 五 〇)	上 各 自 (各 自 二 四 三)	中 三 割 二 六	下 安 (一 六 七 五)

五、本年ト前年トノ製茶一貫目ニ對スル生産費ノ増減

前年度金壹圓 本年度金壹圓五拾錢。

六、本年ニ於ケル製茶取引狀況

上物價額昂騰ノ爲メ其ノ割合ニ比シテ昂騰セサル下物ノ取引盛ニシテ取引圓滿ナリ。

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概要

製茶製造原費昂騰ニツレテ賣買價格モ引上ケラレタルニヨリ結局純利益ニ於テハ變更ナク金高ニ於テハ近年マレニ見ル數ヲ示シ一般ニ金融潤澤ナリ。

(十九) 岡山 縣

(大正八年十一月六日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一、本年發芽發育概況

本年ハ發芽發育概シテ良好ナラス。

一番茶ニ於テハ前年ノ秋芽發育不良ナル爲メ及本春晩霜ノタメ被害ヲ受ケタルニ因リ發育不良ニシテ自然摘採期ヲ遲延スルニ至レリニ番茶季ニ於ケル天候ハ其順ヲ得タルヲ降雨少キタメ發育ニ影響ヲナシ良好ナラス。

備考 本縣ハ三番茶ハ摘採セス(以下同シ)

二、本年ノ製茶產額豫想

本年ハ前年ニ比シ一番茶ニ於テ一割五分位ノ減收ヲ認ムニ番茶ハ前年ト差ナシ。

三、本年ノ製茶ノ品質

一番茶ニ於テハ霜害ノタメ一般發育良好ナラス尙近來比較的下等茶ノ賣行キ多キ爲メカ自然摘採ノ時期ヲ遲レ硬葉摘、ナリニ番茶ニ於テハ多少早拔ヲ受タルカ發芽ヲ稍遲レ一二番茶ヲ通シテ其品質良好ナラスト雖モ近時製造ニ付テ技術ノ進歩ヲナシタルト本年ハ組合ニ於テ生産ノ検査ヲ執行シ製造ニ付テ尤モ嚴重ナル取締ヲナシタルタメ前年ニ比シ品質ハ良好ナリ。

四、本年ノ生葉及製茶一貫目價格並ニ前年トノ比較

	生葉壹貫目價格				製茶壹貫目價格			
	高	普	低	上	中	下		
一番茶 (七年度)	0.500	0.380	0.150	5.000	3.000	1.100		
二番茶 (七年度)	0.600	0.500	0.300	4.000	2.000	1.200		
一番茶 (八年度)	0.500	0.380	0.150	5.000	3.000	1.100		
二番茶 (八年度)	0.600	0.500	0.300	4.000	2.000	1.200		

五、本年ト前年トノ製茶一貫目ニ對スル生産費ノ増減概況

前年度 一・一〇〇 本年度 一・五〇〇

六、本年ニ於ケル製茶取引概況

本年ハ上物中物以上ノ品ニアリテハ賣行良好ニシテ下物ハ非常ニ賣行悪シク上物ハ相應以上ノ取引ヲ現シ前年ニ比シ二割以上ノ高値ヲ以テ取引シタルモ終期ニ於テ俄然中以下ノ品ハ暴落シ引續キ二番茶ニ及シタルヲ以テ全ク不況ニ終レリ輸出トシテハ莫田郡地方ニ於テハ主トシテ神戸静岡方面へ輸出セリ真庭郡、御津畑方面ニ於テハ概シテ山陰へ輸出シ價格ノ異動アリタルモ取引ハ稍圓滿ナリ

七、茶業者ノ經濟狀態ノ概況

生産家ニアリテハ前年ニ比シ價格二割以上ノ高價ナリシモ一番茶ニアリテハ發育良好ナラサリシト諸物價及人夫賃ノ暴騰ニヨリ前年ニ比例セハ結局前年ノ純利ノ及ハサリシモノト認ム二番茶ハ中以テ下ノ品不況ナリシタメ更ニ前年ノ純利ニ及ハサル事遠シ。

商人側ニ於テハ本年ハ下物ノ安價ノミナラス賣行不良ナルニ因リ結局少利ナリ。

第二 本邦内地ニ於ケル本年度製茶輸出狀況

(一) 本年一月以降ノ製茶輸出狀況

(大日本外國貿易月表ニ據ル)

本邦内地ニ於ケル本年一月以降八月末日ニ至ル製茶輸出狀況ヲ見ルニ數量壹千貳百八拾六萬參千七百八拾八斤、價額壹千八拾參萬參千七百九拾參圓ニシテ前年同期間ニ比シ數量八百四拾七萬七千貳拾斤、價額百九拾貳萬四千五拾圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ斯ク輸出額ノ減少スルニ至リタルハ種々ノ原因アルヘシト雖モ諸物價ノ騰貴ニ伴ヒ生産費ノ増加及内地需要ノ増加ノ爲價額著シク騰貴セルカ故ニ外商トノ値段折合ハス爲ニ外商ノ買控ヘタルト本邦輸出茶ノ八割ヲ占ムル米國市場ニ於テ下物殘荷多キ爲其ノ需要量ノ減シタル爲同國ニ對スル輸出量ノ減少及ヒ船腹ノ緩和セラレタル爲臺灣茶ノ内地ヨリ轉輸出セラルル量ノ減少セル等ハ蓋シ主ナル原因ナランカ。

然ルニ輸出數量ノ激減セル割合ニ價額ノ減少ノ著シカラサルハ前述ノ如ク製茶價額ノ高キト米國市場ニ於テ下物殘荷多カリシ爲比較的中等以下ノ品物ノ注文少ク上等品ノ輸出多カリシニ依ルモノナルヘシ今一月以降八月末日ニ至ル最近三ヶ年ニ於ケル輸出額ヲ示セハ次ノ如シ。

一月以降八月末日ニ至ル累計額

種別	年度		大正八年		大正七年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
鍋焙綠茶	八、三四六、〇三六斤	七、三七〇、八五八斤	一、二、三五八、二八九斤	八、〇六二、一五三斤	九、四八五、二八五斤	四、八二九、七二四斤		

藍焙綠茶	三,〇六三,八二四	二,八三五,七〇五	四,一三三,一六八	二,八三二,三六三	三,六三四,七七四	一,九一八,六九六
玉茶	一三九,三五三	一三九,三五三	一六二,〇三六	一〇八,〇一〇	一三八,六八五	五九,五五〇
番茶	一六八,七〇三	四一,五七一	二〇六,六三三	三八,四〇三	六二〇,五八五	一三〇,八六九
紅茶	一三,三三〇	一五,六九五	一九一,〇九二	一二七,七三三	一六二,八一五	一〇一,五五五
烏龍茶	二一,七七八	九,〇一九	二,三九五,四八〇	一,二五一,五〇五	三,四八三,五三六	一,五四〇,四三九
磚茶	五三三,七九三	二四〇,〇九七	五九四,八〇九	九五,七〇六	三,四六三,二一九	九一,三三九
粉茶	五八七,一三三	一九三,三三三	一,四〇四,三一一	二五一,九七一	一,三八〇,一九四	二〇一,六四六
計	一三,八六三,七九八	一〇,八三三,七九三	二一,三四〇,八〇八	一二,七五七,八四三	一九,三三二,〇八三	八,八六三,七〇六

更ニ本年一月以降八月末日ニ至ル月々ノ變化ヲ見ルニ左ノ如シ

本邦内地ニ於ケル本年ノ製茶輸出額(月別、種類別)

其一 數量

一月 中	鍋焙綠茶	一四八,九六九	藍焙綠茶	二四,三三〇	玉茶	一三,二〇〇	番茶	二五,三八八	紅茶	一七八三	烏龍茶	一八一四	磚茶	三三,三四〇	粉茶	一一,三四〇	計	二六〇,〇五四
二月 中	鍋焙綠茶	六九,一一九	藍焙綠茶	八五,二二五	玉茶	—	番茶	七,二四三	紅茶	一五〇	烏龍茶	—	磚茶	三九,〇〇三	粉茶	一三,九八〇	計	二一四,七二〇
三月 中	鍋焙綠茶	二二八,〇八八	藍焙綠茶	一〇九,四三五	玉茶	一三,二〇〇	番茶	三三,六三一	紅茶	一九三三	烏龍茶	一,八一四	磚茶	七,三三四	粉茶	二五,三三〇	計	四七四,七六四
一月 以降	鍋焙綠茶	二二,三九九	藍焙綠茶	三七,一六三	玉茶	—	番茶	一三,四三八	紅茶	九〇八	烏龍茶	七五六	磚茶	二七,二六〇	粉茶	四二,八〇〇	計	三三九,七二四

一月 以降	鍋焙綠茶	四三,四八七	藍焙綠茶	一四六,五九六	玉茶	一三,二〇〇	番茶	四七,〇六九	紅茶	二,八四一	烏龍茶	二,五七〇	磚茶	九八,〇六三	粉茶	六八,一一〇	計	八二〇,四八八
四月 中	鍋焙綠茶	五〇,四七〇	藍焙綠茶	四四,〇六〇	玉茶	—	番茶	一七,三〇一	紅茶	九三	烏龍茶	—	磚茶	一三八,〇〇〇	粉茶	一七,四六〇	計	二六七,三八四
五月 中	鍋焙綠茶	一六三,五八九	藍焙綠茶	一九〇,六八九	玉茶	一三,二〇〇	番茶	六四,三七〇	紅茶	二,九三四	烏龍茶	二,五七〇	磚茶	二二六,六〇三	粉茶	八五,五八〇	計	一〇七七,八七三
六月 中	鍋焙綠茶	六四五,五四九	藍焙綠茶	二九九,一三四	玉茶	—	番茶	一七,四四六	紅茶	一,八六〇	烏龍茶	二〇一	磚茶	四二,〇〇〇	粉茶	五,一一〇	計	三三八,六七三
七月 中	鍋焙綠茶	二,四三〇,九四六	藍焙綠茶	九四七,三九〇	玉茶	一三,二〇〇	番茶	三,八八九九	紅茶	四,七四九	烏龍茶	二,七七二	磚茶	二七八,六〇三	粉茶	九〇,六八〇	計	一,四一六,五四四
八月 中	鍋焙綠茶	三,〇七六,四九二	藍焙綠茶	二,四六六,五三四	玉茶	五,一四一	番茶	一,一八六六五	紅茶	一,六三三	烏龍茶	二,七七二	磚茶	七,七九〇	粉茶	一三六,九九五	計	三,六五九,八〇九
一月 以降	鍋焙綠茶	二,五八四,八一三	藍焙綠茶	七三四,四五〇	玉茶	三六,八三九	番茶	三七,〇九八	紅茶	三,七九二	烏龍茶	一八,四三六	磚茶	六七,四〇〇	粉茶	一〇〇,四四三	計	三,五八二,三五二
一月 以降	鍋焙綠茶	五,六六一,三〇五	藍焙綠茶	一九八〇,九七四	玉茶	八八,二四五	番茶	一五五,七六三	紅茶	一〇,二〇九	烏龍茶	二,一九七	磚茶	四三三,七九三	粉茶	三二八,一一八	計	八,六五九,一〇四
一月 以降	鍋焙綠茶	二,六八四,七三二	藍焙綠茶	一〇八二,八五〇	玉茶	五二,〇〇八	番茶	一三,九三九	紅茶	三,一一一	烏龍茶	五四一	磚茶	一〇〇,〇〇〇	粉茶	二六八,九九四	計	四,三〇四,一八四
一月 以降	鍋焙綠茶	八,三四六,〇三六	藍焙綠茶	三,〇六三,八二四	玉茶	一三九,二五三	番茶	一六八,七〇三	紅茶	一三,三三〇	烏龍茶	二,七三三	磚茶	五三三,七九三	粉茶	五八七,一一二	計	二,八六三,七八八

其二 價額

一月 中	鍋焙綠茶	九〇,一四三	藍焙綠茶	一四六,〇三二	玉茶	七,九二〇	番茶	四,九〇五	紅茶	一,三九〇	烏龍茶	一,〇五一	磚茶	一〇,五七六	粉茶	二,四一九	計	一三三,九〇一
二月 中	鍋焙綠茶	三,七二四	藍焙綠茶	四七,八三五	玉茶	—	番茶	二,〇六〇	紅茶	一三四	烏龍茶	—	磚茶	一三,〇四三	粉茶	三,一六九	計	九八,九四五
三月 中	鍋焙綠茶	一三,八五六	藍焙綠茶	六二,四三九	玉茶	七,九二〇	番茶	六,九六五	紅茶	一,四一四	烏龍茶	一,〇五一	磚茶	二二,六一九	粉茶	五,五八八	計	二二二,八五三

國別	大正八年		大正七年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	三二七,三三八	一〇〇,一四四	三四八,六五九	七七,五五二	七六五,四二六	一六七,四三三
關東州	四二一,八七三	一六〇,七〇八	—	—	—	—
北米合衆國	一一,〇一六,四四四	九,七七六,三二六	一七,七六六,七五七	一〇,八八三,五七三	一六,一七三,九八三	七七,五五二
加奈陀	五五,一〇三	四三,六四九	二,一七七,二七九	一,三九六,二〇九	一,二六三,四一五	五八五,一四五
其他	五六七,三〇一	三六八,八九六	一〇,四八,一一三	四〇,一五二	一,〇三〇,二六九	三九五,六一一
計	二,一八三,七七八	一〇,八三三,七九三	二,三四〇,八〇八	一二,七五七,八四三	一九,二三三,〇八三	八,八六三,七〇六

本邦内地製茶ノ輸出額ハ年々其八割ハ北米合衆國ニ一割ハ加奈陀ニ他ハ其他諸國ニ輸出セラレタルモ
 本年度ニ於テハ加奈陀ヘノ輸出激減セリ。
 左ニ一月以降八月末日ニ至ル最近三ヶ年ノ輸出額ヲ仕向國別ニ表示セン。

一月以降八月末日ニ至ル累計額

國別	大正八年		大正七年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	三二七,三三八	一〇〇,一四四	三四八,六五九	七七,五五二	七六五,四二六	一六七,四三三
關東州	四二一,八七三	一六〇,七〇八	—	—	—	—
北米合衆國	一一,〇一六,四四四	九,七七六,三二六	一七,七六六,七五七	一〇,八八三,五七三	一六,一七三,九八三	七七,五五二
加奈陀	五五,一〇三	四三,六四九	二,一七七,二七九	一,三九六,二〇九	一,二六三,四一五	五八五,一四五
其他	五六七,三〇一	三六八,八九六	一〇,四八,一一三	四〇,一五二	一,〇三〇,二六九	三九五,六一一
計	二,一八三,七七八	一〇,八三三,七九三	二,三四〇,八〇八	一二,七五七,八四三	一九,二三三,〇八三	八,八六三,七〇六

更ニ本年一月以 八月末日ニ至ル月々ノ變化ヲ見ルニ左ノ如シ。

本邦内地ニ於ケル製茶輸出額(月別、仕向國別)

其一 數量

月別	支那		關東州		北米合衆國		加奈陀		其他		計
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
一月中	一四,二七八	五九,九五〇	一七,九五七	一八,八八五	—	—	—	—	一一,九八四	二六,〇五五	
二月中	九,四六四	五〇,六九三	一四,三二〇	八,五三三	—	—	—	—	一一,四一〇	二二,四七〇	
一月以降累計	二二,七四二	一一〇,六四三	三二,一七七	二七,三九八	—	—	—	—	二三,三九四	四七,四六四	
三月中	二四,八〇一	一二〇,八二〇	四二,八二〇	三六,八九六	—	—	—	—	三三,九三七	五九,七二四	
一月以降累計	四八,五四三	一五三,四六三	五八,六四〇	六四,二八八	—	—	—	—	五七,三二一	一一〇,〇八八	

月別	支		其 二 價 額		計
	支	關 東 州	北 米 合 衆 國	加 奈 陀	
四 月 中	二一,〇五八	三三,四三五	五三,五七九	一八,六一三	一四一,七〇九
一月以降累計	六九,六〇一	一八六,八八八	六三三,八〇一	三三,六四三	一,〇七七,八七三
五 月 中	一三,五六五	五八,六一〇	一六八,八八七	二,五八三	九五,〇三八
一月以降累計	八三,一六六	二四五,四九八	七八二,六八八	三五,二三四	三三八,六七三
六 月 中	一三六,六一〇	四〇,四〇三	三,二七九,七三七	七〇,四四一	一四二,六一九
一月以降累計	二〇九,七七六	一八五,九〇〇	四,〇六二,四二五	一〇五,六六五	四一二,五八七
七 月 中	四二,四五六	三三,八二二	三,二九四,〇八三	九〇,五〇五	一三三,三九五
一月以降累計	二五二,三三三	三三八,七二三	七,三五六,五〇八	一九六,一七〇	五三五,九七三
八 月 中	六五,〇〇六	九三,一五〇	三,六五九,九三六	三五四,八六三	三二,二二九
一月以降累計	三二七,三三八	四一一,八七三	一一,〇一六,四四四	五五一,〇三三	五六七,二〇一
三 月 中	八,三六一	一六,三三七	一四五,〇六九	九,〇五七	七,九五〇
一月以降累計	五,三七九	一八,四〇三	一〇〇,五九五	七四六	七,七八四
二 月 中	四,一七六	一八,二九〇	六六,九〇三	五五三	九,〇三四
一月以降累計	九,五五五	三六,六九三	一六七,四九八	一,二八八	一六,八二六
一 月 中	五,三三九	一八,四〇三	一〇〇,五九五	七四六	七,七八四
一月以降累計	四,一七六	一八,二九〇	六六,九〇三	五五三	九,〇三四
三 月 中	八,三六一	一六,三三七	一四五,〇六九	九,〇五七	七,九五〇
一月以降累計	五,三七九	一八,四〇三	一〇〇,五九五	七四六	七,七八四
二 月 中	四,一七六	一八,二九〇	六六,九〇三	五五三	九,〇三四
一月以降累計	九,五五五	三六,六九三	一六七,四九八	一,二八八	一六,八二六
一 月 中	五,三三九	一八,四〇三	一〇〇,五九五	七四六	七,七八四
一月以降累計	四,一七六	一八,二九〇	六六,九〇三	五五三	九,〇三四

月別	支		其 二 價 額		計
	支	關 東 州	北 米 合 衆 國	加 奈 陀	
四 月 中	一七,八六六	五三,〇二〇	三二二,五六七	一〇,三四五	四一八,五六一
一月以降累計	六,九九九	一一,五五四	二七,七八九	一一,〇二〇	八七,〇九三
五 月 中	三四,八〇五	六四,五七四	三四〇,三五六	二二,三六五	一一一,八六〇
一月以降累計	四,三三三	一八,七六二	一四四,〇二六	二,六五四	五五,九四八
六 月 中	三九,〇三七	八三,三三六	四八四,三八三	二五,〇一九	一六七,八〇八
一月以降累計	三五,三三六	一八,六〇九	三,一三六,八九九	六六,一〇九	九六,三九九
七 月 中	六四,三三三	一〇一,九四五	三,六二一,三八一	九二,一三八	二六四,三〇七
一月以降累計	一一,五三六	一四,九三三	三,〇八八,六一三	七七,三三三	七八,九一〇
八 月 中	七五,九〇九	一六,八六八	六,七〇九,八九四	一六八,四六〇	三四三,一一七
一月以降累計	二四,二一五	四三,八四〇	三,〇六六,四三三	二五八,二八九	三五,七七九
一 月 以 降 累 計	一〇〇,一四四	一六〇,七〇八	九,七七六,三二六	四三六,七四九	一〇,八三三,七九五

(二) 本年五月以降ノ製茶輸出狀況

(静岡縣再製茶業組合調査)

本年新茶出廻リ時季即チ五月以降九月末日ニ至ル製茶輸出狀況ヲ見ルニ數量總計一千八百七十九萬九千二百九十八封度ニシテ之ヲ昨年同期間ニ比シ一千二百二十四萬〇二百二十一封度ノ減少ヲ來セリ

茲ハ米國ニ於ケル昨年度ノ殘荷多キト一番茶ニ於テ内地移出増加ノ爲ナラン。
而シテ各港ニ於ケル製茶輸出額ハ清水最モ多ク横濱、四日市、名古屋ノ順序ナリ、左ニ五月以
月末日ニ至ル輸出額ヲ各港別ニ昨年同期間ト比較表示セン。

港別	五月以降九月末日ニ至ル累計額		最近五ヶ年平均
	大正八年	大正七年	
横濱	1,265,071	3,534,766	3,337,803
清水	1,683,217	2,520,792	2,157,350
四日市	687,640	2,333,941	1,652,603
名古屋	1,144,000	3,039,519	五ヶ年中輸出ナシ
計	1,879,296	3,039,519	

本邦内地ニ於ケル本年五月以降製茶輸出額(月別、港別)

港別	五月	計
横濱	210,380	2,214,300
清水	111,050	1,133,000
四日市		
名古屋		
計		3,347,300

月別	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計	五月以降累計
六月	209,195	3,571,311	108,900	3,889,006	907,457	3,889,006	907,457	3,889,006
五月	319,575	3,681,361	108,900	4,110,835	1,216,358	4,110,835	1,216,358	4,110,835
七月	326,367	3,583,830	119,550	4,100,477	1,278,633	4,100,477	1,278,633	4,100,477
五月	681,843	7,266,192	228,450	8,290,883	3,400,328	8,290,883	3,400,328	8,290,883
八月	267,503	5,972,139	209,190	6,448,833	1,594,516	6,448,833	1,594,516	6,448,833
五月	949,345	1,323,833	437,640	1,447,715	4,996,734	1,447,715	4,996,734	1,447,715
九月	215,736	3,593,857	250,000	4,059,583	7,243,487	4,059,583	7,243,487	4,059,583
五月	1,165,071	1,683,217	687,640	1,879,296	2,240,321	1,879,296	2,240,321	1,879,296

更ニ製茶輸出仕向地方ヲ見ルニ紐有、市俄古、太平洋沿岸、加奈陀ニシテ其額ハ市俄古最モ多ク紐有、太平洋沿岸、加奈陀ノ順序ナリ、而シテ各地方トモ昨年同期間ニ比シ減少セリ、即チ五月以降九月末日ニ至ル昨年トノ比較ヲ示セハ次ノ如シ。

地方別	五月以降九月末日ニ至ル累計額	昨年トノ比較	最近五ヶ年平均
紐有	3,988,724	(減) 3,291,511	5,981,931
市俄古	1,056,929	(減) 4,347,093	1,427,098
太平洋沿岸	2,757,120	(減) 1,761,133	3,922,933
加奈陀	1,484,160	(減) 2,902,845	3,632,276
計	1,879,296	(減) 1,240,321	2,780,738

尙本年五月以降九月末日ニ至ル月々ノ消長ヲ示セハ左ノ如シ。
本邦内地ニ於ケル本年五月以降製茶輸出額(月別仕向地別)

月別	仕向地別	紐育	市俄古	太平洋沿岸	加奈陀	計	昨年トノ比較
五月 中		四四一〇〇	一六八三三〇	八八八〇	一一〇	三二、四三〇	七六六、一三三
六月 中		八六三、八九五	二、〇六〇、一七六	八五、五二五	一〇九、八二〇	三、八八九、四〇六	(減) 九〇七、四五七
五月以降累計		九〇六、九九五	二、二八、五〇六	八六五、三九五	一〇九、九四〇	四、一〇、八三六	(減) 一、六七三、五八八
七月 中		一、三八九、九九六	二、〇五五、〇四〇	六二九、八二二	二〇五、一九〇	四、一八〇、〇四七	(減) 一、七三八、六三〇
五月以降累計		二、一九五、九九一	四、三三三、五四六	一、四九五、二六	三、一五、一三〇	八、二九〇、八八三	(減) 三、四〇二、二二八
八月 中		一、一七六、一三三	三、九三八、八九〇	七二四、〇三九	六〇九、七九〇	六、四四八、八三三	(減) 一、五九四、五六
五月以降累計		三、三七三、一〇四	八、三二二、四三六	二、一九、二五五	九二四、九二〇	一四、七三九、七一五	(減) 四、九九六、七三四
九月 中		六、五、六二〇	二、三四六、八五六	五三七、八六五	六九五、二四〇	四、〇五九、五八三	(減) 七、二四三、四八七
五月以降累計		三、九八八、七三四	一〇、五六九、二九四	二、七五七、二一〇	一、四八四、一六〇	一八、七九九、二九八	(減) 一、二、三四〇、三三二

第三 米國ニ於ケル日本茶貿易ノ近況及 日本茶ニ對スル批評

(大正八年九月六日在ポートランド杉村領事報告)

- △一、米國ニ於ケル本邦茶及各國茶ノ輸入分布狀況
- △二、需要者側ノ本邦綠茶ニ對スル批評
- △三、太平洋沿岸ニ於ケル本邦茶ノ販路擴張振

(一) 米國ニ於ケル本邦製茶及各國製茶ノ輸入分布狀況

北米合衆國ニ於ケル最重要輸入品ノ一ナル本邦茶其他各地製茶ノ近年ニ於ケル輸入狀況ニ付テハ先ツ充分信憑スルニ足ルヘキ合衆國茶商協會ノ調査ニ係ル統計ヲ左ニ掲ケン。

最近三ヶ年間仕向地別輸入額比較(單位封度)

	一九一九年度	一九一八年度	一九一七年度
日本綠茶(粉茶ヲ含ム)	三七〇四一、三五五	三三、三七四、八八五	三四、八三七、〇七五
臺灣 烏龍茶	二〇、一三六、〇九八	一七、八二六、八八九	一九、三六〇、七八八
印度 紅茶	四、六三四、〇九二	一七、三四五、八九五	八、九五七、九五四
錫蘭 紅綠茶	一三、一九八、一三二	二六、八九五、八三六	一九、六五六、零六〇
瓜哇 紅茶	三五、八六七、七〇六	二八、三〇五、八九九	二、一四〇、三〇六
支那 紅綠茶	一一、〇三八、六四〇	三三、五九三、二六四	三、〇〇七、四二二
計	一一、一九一、七九七	一四六、二七八、六六七	一〇五、〇二六、六七五

備考 上表一九一九年度トハ前年七月一日ヨリ當年六月三十日ニ至ル一ケ年間ヲ云ヒ其他之ニ做
フ

前表ヲ閱スルニ日本緑茶及臺灣茶俱ニ過去三ケ年間ニ涉リ戰前ニ比シ著シキ増加ヲ示シ特ニ最近年
度ニ於テハ孰レモレコドヲ作レリ反之印度錫蘭及支那紅ヲノ如キハ前年度ニ於テハ大戰ノ前途未タ
逆略シ難ク他ノ商品ト同シク製茶市場ニ於テモ思惑投機行ハレ爲メニ下等製茶ノ輸入比較的多カリシ
モ最近年度ニ於テハ其ノ反動トシテ著シキ減退ヲ見タリ獨リ瓜哇茶ハ前々年度二百萬封度ヨリ前年度
一躍シテ二千八百萬封度ニ激増シ製茶貿易市場ノ一大レコードニシテ斯界ヲ震動セシノタリシカコハ
戰時中ニ於ケル一時的ノ現象ナルヘシトシテ其ノ將來ヲ危ムモノ多カリキ然ルニ前年度ニ於テ幾分ノ
減少ヲ見タレトモ尙依然トシテ二千五百萬封度以上ヲ支持シタルハ當業者ノ齊シク意外トスル所ニシ
テ寧ロ刮目ニ値ス、

今更ニ一九一八年七月ヨリ一九一九年六月ニ至ル最近一ケ年間ノ製茶總輸入量ヲ各輸入港別ニ示セ
ハ次ノ如シ(單位一千封度但一千封度以下切捨)

日本緑茶(粉茶ナ)	紐育	ポストン	桑港	シカゴ	太平洋北部沿岸各港	セントホー ル及布哇
一四三七	六四三	五、六四九	三、七六三	二四、八〇一	七五七	

臺灣烏龍茶	三四四五	一、五五五	二、四七三	五九四	一三、〇〇三	六七
印度紅茶	三五八八	一〇八	二五九	七〇	六〇七	—
錫蘭紅綠茶	九、二三〇	三、〇九三	六一九	一四一	五三	六〇
瓜哇紅茶	一四、九四七	六〇〇	五、二七六	一、八一三	三、一九五	三三
支那紅綠茶	二、〇六九	一一二	一一一四	一、八二三	五、〇五四	七五四
計	三四、七〇六	六、二一八	一五、四九一	八、二〇三	四五、七一一	一、六七〇

本表ニ依テ見レハ太平洋北部沿岸各港(「シアトル」「ポートランド」地方一帯ヲ含ム)ヨリ輸入セラ
ルルモノ最多ニシテ四千五百餘萬封度之ニ桑港ヨリノ分ヲ加フルトキハ六千百萬封度ト爲リ太平洋沿
岸ニ於テ検査通關セラルルモノ米國總輸入量ノ約五割五分ニ當レリ之ヲ日本緑茶ニ就テ見ルトキハ北
部太平洋沿岸二千四百八十餘萬封度之ニ桑港ヲ加フレハ三千四十餘萬封度ニシテ總輸入高ノ八割二分
強ニ當レリ、然レトモ之ヲ以テ直ニ之等輸入地域ニ分布消費セラルルモノト見ルハ誤ニシテ通關後鐵
道ニ依リテ米國各州ニ分布セラルル而シテ此ノ分布狀況ニ關シ適確ナル統計ヲ缺クモ相當信賴スルニ足
ルヘキ當業者ノ說ニ依レハ米國東北部諸州ニ五割、中南部諸州ニ二割、太平洋沿岸諸州ニ三割位ノ比
例ニシテ就中太平洋沿岸ニ於テハ加州ニ最多ク消費セラレ次テ「オレゴン」、「アイダホ」、「モンタナ」
「ワシントン」等ノ順位ナルヘシト要之大體ニ於テ近年日本緑茶ニ對スル嗜好漸次太平洋沿岸各州地方
ニ擴大セラレツツアルモノノ如シ。

(二) 本邦綠茶ニ對スル需要者ノ批評

本邦綠茶ノ近時市況ニ關スル當「ボートランド」市内重ナル茶商ノ説ヲ綜合スルニ戰後各國茶共ニ幾分價格ノ昂騰ヲ來シタルモ特ニ日本綠茶ニ至リテハ逐年著シキ高値ト爲レルニ拘ラス其ノ品質ハ却テ低下シ爲ニ一般需要者側ノ不評ヲ招キタルカ戰時中ハ運賃ノ點ニ於テ他國產茶ヨリ幾分有利ノ地位ニ在リタルト且製茶不作ノ豫想ヨリ茶商間ニ投機行ハレ從テ一般製茶ノ輸入激增ニ伴ヒ日本茶モ豫想外ノ多額ニ上リ一九一九年度ノ如キハ價格ノ點ニ於テ三割強ノ騰貴ヲ見タルニ拘ラス三千七百萬封度ト云フ破格ノ輸入ヲ致セリ然ルニ客年末ヨリ平和ノ曙光現ハレ商業漸次常態ニ復歸スルモノト豫測セラレ從テ製茶市價ノ如キモ本年度ニ於テハ必定下落スヘシト一般ニ豫測セラレタルニ意外ニモ本年茶市價ハ却テ更ニ約三割方ノ騰貴ヲ招キ當地方茶商ハ呆然トシテ徒ニ注文ヲ見送ルノミニシテ新茶市場ハ全ク沈靜ノ姿ナリ而モ品質ニ至リテハ益々下落ノ兆アルヲ以テ或茶商ノ如キハ日本人ハ自ラ日本茶貿易ヲ減殺スルモノニシテ其ノ前途ヤ知ルヘキノミト慨嘆シツツアリ、サナキタニ盛況ノ後ニ不況ノ來ルヘキハ當然ニシテ昨年ノ如キ意外ナル好況ヲ見タル後ニハ生産家ハ特ニ注意ヲ拂フヘキ要アルニ拘ラス却テ其ノ好況ニ狎レ動モスレハ粗製濫造ニ陥リ必要以外ニ價格ヲ昂騰セシメツツアルヤノ觀アルハ遺憾トスヘク内地關係業者ノ自重ヲ促スヲ可ナルヘシト信ス蓋シ上述ノ如キ弊ヲ脱セサル限り大項

報告ノ如キ茶業組合ノ販路擴張上ノ折角ノ努力モ其ノ効果ヲ收ムルコト極メテ困難ナルヘク内ニ在リテハ品質ヲ改善吟味スルト同時ニ可成價格ノ低廉ヲ計リ外ニ在リテハ有効ナル廣告運動ヲ爲シ内外相俟チテコソ貿易ノ進展ヲ期待シ得ラルヘシ況ヤ製茶ノ勁敵タル珈琲ハ最近益々其値段昂騰シ今ヤ全米國禁酒令行ハレントシ製茶ノ需要ハ更ニ益々増大セラルヘキ千載一遇ノ好機會タル今日我製茶業者乃至製茶輸出業者筋ハ前顯當地方需要者側ノ僞ヲサレ批評ニ對シ深く考慮セラレレンコトヲ希望ス。

(三) 太平洋沿岸地方ニ於ケル本邦茶ノ販賣擴張振

米國ニ於ケル日本綠茶ノ輸入額ハ戰前三千二百萬封度、八百萬弗ナリシニ最近年度三千七百萬封度此價額約千四百萬弗ニ上リ内約八割方ハ當太平洋沿岸各港ヲ經テ輸入セラル、然シ實際ニ於テハ太平洋沿岸地方ニ於テ消費セラルル日本綠茶ハ總輸入量ノ三割見當ナラン、而シテ此間本邦茶ノ販路擴張方法ニ就テハ茶業組合中央會議所ノ常ニ苦心セル所ニシテ曩ニハ一九一五年桑港博覽會ニ催ヲ機トシ庭園内ニ一大茶寮ヲ開催シ又同年「サンデー」博覽會場内ニモ喫茶店ヲ建設シ本邦茶ノ實物廣告ヲ爲シ其後加州「ロングビーチ」ニ一ヶ所「シアトル」ニ一ヶ所各喫茶店ヲ開始シ「カリフォルニア」「ワシントン」兩州地方ニ本邦綠茶ノ實物の廣告方法ヲ採リツツアリ、何レモ成績見ルヘキモノアリタルニ鑑ミ今回更ニ當「オレゴン」州内ニ該廣告ノ方法ヲ擴張セントシ當市遊覽地「カウンスル」丘上ニ純日本風

ノ一茶寮ヲ設立スルニ決シ六月一日起工、七月四日開寮七月二十五日其披露ノ盛宴ヲ該丘上ニ張リテ
 リ來會者前米人商業會議所會頭「ホイライト」外三百名ヲ算セリ、之ヨリ先キ六月中旬當地戰捷記念齋
 徽祭ニ際シ公園内日本人會主催茶亭ニ於テ本邦茶ヲ廣ク紹介シ更ニ八月四日ヨリ現ニ開催サレツツア
 ル「バイヤース、ウイーク」ニ當リテモ商業會議所内ニ日本茶室ヲ設ケ來客ニ對シ邦茶ヲ發應セリ、斯
 ノ如ク擴張ニ努力セル結果米人ノ嗜好ハ相當進展ノ趨向アリ、「カウンシル」丘ノ茶寮ノ如キハ開寮以
 來二十七日間ニ於テ約八千人ヲ算セリト云フ、蓋シ同組合ノ第一期販路擴張手段タル太平洋沿岸地方
 茶寮建設ノ計畫ハ豫定通完成シタル趣ニテ徐ニ第二期計畫ニ移ル筈ナリト兎ニ角該廣告方法ハ時機
 ニ投シ相當ノ成果ヲ收メツツアルモノト觀測セラレ。

第四 外國ニ於ケル茶業事情

甲 支 那

(一) 浙江省產外國向製茶ノ取引澁滯

(大正八年九月二十三日在杭州領事館報告)

△銀相場ノ騰貴ト將來ノ相場低落ヲ見越シ外商ノ買附停止ニ因ル

當地茶業組合ニ達シタル消息ニ依レハ浙江、安徽兩省產ノ紅茶、綠茶ニシテ外國向ノモノハ今年四
 月頃ヨリ新物出廻リ時期タル五六月頃ニ互リ外商ノ買付ケ夥シク昨年來上海及當地ノ市場ニ停滯セシ
 現物ハ幾ント一定トナリ新物取引亦盛況ヲ呈シタルニ八月ニ入り外商ハ一齊ニ買付ケヲ停止シタルヲ
 以テ目下現物ハ各市場ニ停滯セリト謂フ右ハ近來銀相場騰貴ノ爲メ買付ケニ宜シカラサルト一ハ支那
 當局ニ於テ詮議中ナル輸出茶ニ對スル減稅實行ノ曉ニハ幾分相場低落スヘシトノ思惑ニ因ルモノナラ
 ントノコトナリ而シテ目下ノ所ニテモ相場ハ毎担ニ付上物二兩中物一兩方下落セリ。

(二) 支那茶ノ輸出稅減免

(大正八年十月十日附九江駐在領事河西信報告)

支那產茶ハ歐洲大戰ノ影響ヲ蒙リ輸出大ニ減少シ打擊頗ル尠カラス江西省地方當業者ニ於テハ豫テ
 之カ恢復策ニ腐心シ過般途ニ六省茶業代表者瓏瑣濱ノ名ヲ以テ農商部ニ對シ國產維持獎勵ノタメ茶輸
 出稅免減方願出テタル處今般當局ニ於テ詮議ノ結果各種支那茶ノ外國輸出ニ對シテ向フ二ケ年間一切
 ノ輸出稅ヲ免シ内地釐金ハ半減徵收ノコトトナリ右期間滿了後ニ於テハ更ニ其輸出狀況參酌ノ上稅率
 ヲ決定スヘシトノ趣ナリ。

尙ホ右ニ關シ九江支那稅關ニ於テハ十月九日附次ノ如キ告示ヲ出シタリ。

- (一) 十月十日以後支那茶外國輸出ニ對シテハ一切輸出税ヲ免ス。
- (二) 内地諸港へ移出セラルル各種茶ハ蒸籠ニ掛ケサル葉茶ヲ除キ一擔ニ付税額一兩(海關兩)二錢五分蒸籠ニ掛ケサル葉茶ニハ一擔ニ付税額八錢ヲ徵收ス。
- (三) 更ニ移出港ヨリ外國へ輸出セラルルモノハ其輸出港ニ於テ曩ニ徵收ノ内地移出税ヲ拂戻スベシ。

(三) 支那輸出税減免追報

(大正八年十月二十八日附九江駐在領事河西信報告)

- 支那茶輸出税減免ニ關シ本月十日附稅關告示第四六七號ヲ以テ當地稅務司ヨリ告示相成タル旨本月十日附往信第一〇八號ヲ以テ及報告置候處該告示修正方總稅務司ヨリ本月十一日附ヲ以テ
- (一) 外國輸出各種支那茶ニ對シテ無稅。
 - (二) 内地沿岸移出ニ對スル凡テノ支那茶(且蒸籠ニ掛ケサル葉茶ヲ除ク)ハ
 - (イ) 外國輸出ヲ宣誓セル場合ニハ輸出税ヲ徵收セス若シ支那内地港ニ陸揚シタル場合ニハ其ノ貨物ノ荷受人ハ課税額ノ半額(即チ一担ニ付一海關兩八錢七分五厘)ノ保證金納付ヲ要ス而シテ右保證金ハ一個年以内ニ再輸出ヲ立證シタル上ニ於テ之ヲ取消スヘシ若シ再輸出セラレタル

茶カ更ニ他ノ支那内地港ニ陸揚セラレタル場合ニハ新ニ前項ノ保證金ノ納付スルヲ要ス

- (ロ) 外國輸出ヲ宣誓セサル場合ハ輸出港ニ於テ課税額ノ半額即チ一担ニ付一海關兩八錢七分五厘ヲ徵收スヘシ
- (三) 蒸籠ニ掛ケサル葉茶ニ對シテハ上掲ノ歩合ヨリ更ニ二割ノ減免ヲ許ス旨告示セリ

(三) 九 江 茶 況

▽大正七年中茶況ハ前後未曾有ノ不況ヲ呈セリ

▽大 正 七 年 年 產 額 及 相 場

▽上 海 在 貨 ト 貨 物 ノ 溢 滯

▽大正八年茶況活躍一大好望現象ヲ呈スルノ徵アリ

(大正八年五月十六日附在九江帝國領事館河西信報告)

大正七年產額及相場 江西ノ特産タル豫武ノ茶ハ年產額五百萬元ニ達シ景德鎮ノ磁器ト相併ヒ當省輸出品目中ノ巨擘ナリシカ過去二年間ノ茶況ハ其不振殆ト其極ニ達セリ蓋シ歐洲戰爭ノ影響ハ直接茶業ニ大打撃ヲ與ヘ海運ノ斷絶、大霧ノ瓦崩、英國ノ茶輸入禁止等商機ノ活潑ヲ阻害スルモノ一ニシテ足ラス過去一年間ニ互リ地方新聞紙ニ散見セル記事ヲ閱スルニ孰モ悲觀的語調ヲ繰返セリ。

大正七年各地茶産額ハ當地茶商ノ語ルトコロニ依レハ大略左ノ如シ。

七四

祁門 (紅茶産地) 約八萬箱
 婺源 (綠茶産地) 同六萬三、四千箱
 徽州 (紅茶産地) 同二萬四、五千箱
 外ニ篋茶約二萬二、三千包

備考 一箱ノ重量ハ大小一定セスト雖モ大略五十斤入ト見テ可ナルヘシ。

祁門、婺源ハ共ニ安徽省ニ屬スト雖モ同地方産茶ハ大概九紅ニ集マリ此處ヨリ積出サルル關係上江西産茶ト概稱セラル。

大正七年中ノ相場ハ時ニ高低アリ一定セスト雖モ當地茶棧ノ語ルトコロニ依レハ一箱平均價格左ノ如シ。

	最高	最低
祁門産物	三十五、六兩	二十七、八兩
寧州産物	三十兩前後	三十三、四兩
上海在貨	大正七年茶ノ不況ニ連レ商談寥々目下上海ニ約四萬包餘(祁門、寧州産紅茶)ノ在貨アリ但シ當港ノ仕向地上海、漢口ヲ主要地トシ天津、大連、沙市、長沙、安慶、無湖、南京、鎮江、汕	

頭、廣州等ノ各地ニ及ビ上海ヨリ更ニ英、米、浦鹽斯德ニ向ケラレ漢口ヨリ陸路露西亞ニ向ケラルルト雖モ過去二年有餘ニ互リ需求ノ途塞リタルコト前述ノ如クニシテ自然商談モ纏ラス貨物ニ賣渡リテ來タセルナリ。

大正八年茶況好望 最近地方紙ノ所報ニ依レハ目下ノ形勢講和會議ハ將ニ其局ヲ結ハントスルノ氣勢ヲ示セルヲ以テ茶商ハ一般ニ將來ヲ樂觀シ歐、米各國戰後ノ需要ノ倍舊スヘキヲ豫想シ修水地方ハ買出シニ赴ク者往年ニ數倍シ茶商ノ活躍ヲ呈セルモノアリ大正八年茶況ハ一大好現象ヲ呈スヘシト云フ。

大正七年輸出額 參考ノタメ當地稅關ノ報告ニ係ル大正七年各季輸出表ヲ示セハ左ノ如シ(單位擔)

大正七年自一月至三月

前年同季

紅茶	一三	一五六
綠茶	三	四六
紅磚茶	二四〇	一〇、四七
綠磚茶	五六三	四、九四
茶葉	七五	三六七
小京磚茶	八一〇	七五

茶末	1,618	前年同季	3
紅茶	13,491	前年同季	80,386
綠茶	2,128	前年同季	10,629
紅綠茶		前年同季	11,225
綠磚茶		前年同季	9,987
茶葉		前年同季	9,987
末煤茶葉	22,226	前年同季	11,377
小京磚茶		前年同季	2,336
茶末	5,438	前年同季	2,336
紅茶	23,906	前年同季	6,817
綠茶	27,789	前年同季	29,304
紅磚茶		前年同季	13,204
綠磚茶		前年同季	2,464

茶葉	10,625	前年同季	8,078
小京磚茶		前年同季	3,411
茶末	6,743	前年同季	3,322
紅茶	14,284	前年同季	3,319
綠茶	21,075	前年同季	1,411
紅磚茶	1	前年同季	730
綠磚茶	339	前年同季	9,436
茶葉	1,569	前年同季	1,807
小京磚茶	41	前年同季	1
茶末	18,305	前年同季	3,589

(四) 滿洲ニ於ケル磚茶狀況

(在營口農商務省海外實業練習初田末雄報告)

磚茶 Brick tea

一、哈爾濱ノ磚茶

本年七八月頃哈爾濱ニテ北滿倉庫ヤ哈爾濱倉庫等ニ停滯セル貨物中砂糖ハ大部分ヲ占メ其レニ次クハ茶綿布等ニテ紅綠磚茶ニ又漢口紅磚茶六七千籠熊本紅磚茶一千籠漢口綠磚茶四千籠熊本ノ一千二百籠靜岡製六七百箱アリテ常市毎年集散スルモノハ爾濱ニ輸入セラルル磚茶數量東清鐵道ノ調査ニ依レハ露曆千九百十四年三萬一千布度千九百十五年三萬六千布度ナリ一布度ハ我カ(四貫三百六十匁)

1、輸入磚茶ノ仕出地及徑路

(イ) 漢口製製茶前記數量ハ殆ト全部漢口上海ヨリ海路浦鹽ニ出テ夫レヨリ哈爾濱ニ來ルモノナルモ磚茶ニシテ漢口上海ノ二港ヨリ露國義勇艦隊露國北方汽船會社露國貿易會社ノ船舶ニ搭載シ浦鹽斯德經由哈爾濱ニ至ルモノニシテ該經由ノ磚茶ハ船車連絡特別運賃ノ定メニヨリ日本製磚茶ハ其打撃ヲ受ケ内地ヨリ浦鹽及大連經由哈爾濱輸入ハ到底不可能トハ認メサルモ一旦上海ヘ輸入シ全然漢口磚茶トシテ右特定運賃ニ依リ輸入成シタル方取引上ノ信用モ且運賃モ有利ノ地位ニアリタルヲ以テ容器及製茶商標等包紙ニ至ルマテ支那式ヲ以テ製出轉送シタリ然ルニ大正三年歐洲戰勃發以來船腹ノ拂底東清線輸送滯トナリ自然其特定モ破滅ニ歸シ爲メニ日本磚茶ハ漢口茶ニ比シ苦境ヲ脱スルコトヲ得之レニ反シ漢口茶ハ目下銀ノ高値ニ反シ露貨ノ暴落アリ且右ノ特定ノ優待ヲ阻止セラレ現在露國ノ狀態ニテハ不利ノ地位ニアリテ秩序恢復ニ至ル迄ハ從來ノ如キ輸入ハ望ミ得ラレサルコトナリ。

(ロ) 京漢線ニ依リ京奉南滿線經由ノモノ天津營口ヨリ滿鐵線經由ノモノ大連經由哈爾濱ヘ來ルモノ極メテ少量ナリシモ東清線交通杜絶ノ有様ナル今日然カモ露國紛擾シ露貨ノ高下甚ク一定ヲ維持シ難ク現時狀態ニ鑑ミ大筋ハ其取引ヲ見合セツツ小取引ヲナスノミ京漢線及滿鐵線ニ依リ哈市着磚茶ニシテ東清鐵道調査ニ依レハ露曆千九百十三年二千八百布度千九百十四年二千二百布度千九百十五年九百六十布度ナリシト云フモ後貝加爾州ヨリ逆送セラレテ東清鐵道沿線各地ニ來タルモノ磚茶露曆千九百十三年千八百二布度千九百十四年四百六十四布度千九百十五年五百九十布度アリタリト云フ。

(ハ) 錫蘭製磚茶ハ當地ニ輸入セラルルコトナシ。

(ニ) 日本製熊本及靜岡磚茶ニシテ毎年一定セサル熊本六七千籠靜岡五六千箱ヲ輸入セラル。

磚茶ニハ二種アリテ紅磚茶ハ露本國及西伯利亞ニ消費セラレ綠磚茶ハ蒙古人ニ消費セラレ綠磚茶ハ更ニ外蒙古及內蒙古ニ區別セラレ其形狀モ異ニシ哈爾濱ニハ外蒙古向ヲ取引スルモノナリ。

2、取引期ハ七八月ニ始マリ最盛期ハ九十十一月ナリトス。

二、紅磚茶 Black Brick tea

紅磚茶ハ露本國及西伯利亞人ノ必須ノ常食料品ニシテ土人ブリヤトノ如キ下等社會ニ歡迎セラレ本邦米ノ必要品ナルカ如キモノニシテ紅茶粉末ヲ蒸シ長七寸五分幅六寸厚七分ニ堅ク壓搾シ一枚ノ量約二百八十匁及三百五匁内外ノモノ產地ニ依リ量目形狀ヲ異ニシ各磚茶ハ一枚毎ニ黃色紙ヲ以テ包ミ竹製

ノ籠ニ七十二枚詰トシテ一籠ヲナス。

1、紅磚茶ノ製法

(A) 漢口紅磚茶製法 紅茶ノ粉茶ヲ定量ニ之ヲ木綿ノ袋ニ入レ蒸釜ニ入レ蒸汽ヲ通シ充分ニ蒸熱シ壓搾ニ適スルニ至ラハ取出シテ壓搾器ニ掛クコト五回壓搾ノ方ハ尖端ニ鐵板ヲ附セル鐵棒ヲ用ユルモノニテ一度壓スル時ハ粉茶ハ見事ニ固形體トナリテ顯ル其出上リタルモノハ壓搾器ニ入レタル儘漸次卓上ニ擺ヘ充分乾燥スルヲ俟テテ壓搾器ヨリ外シタル磚茶ハ乾燥室ニ入レ蒸汽管ヲ通シタル乾燥室ハ攝氏四十度内外ノ溫度ヲ保タシム磚茶ノ乾燥方法ハ約五寸ノ木片ニテ磚茶ノ四隅ヲ支ヘテ積ミ重ネ光線ノ透入ヲ好クセシメ此溫度ノ高低カ頗ル緊要トノコトヲアル溫度低ケレハ濕氣ヲ生シ又高キニ過クル時ハ龜裂ヲ生シ其實脆弱トナルノ憂アリ故ニ龜裂ヲ生シタル時ハ粉碎シテ再製スルト云フコトヲアル。

(B) 熊本紅磚茶製法 一枚ノ磚茶ヲ製スル紅茶末ハ外部内部ニ區別シ内部約二百六十枚ヲ布袋ニ入レ眞外部ニ使用スル茶ハ内部茶ニ比シ稍上等ナル茶ヲ二十枚宛袋ニ入レタルモノヲ二個ヲ蒸釜ニ入レ約一分時間蒸汽ニテ蒸シ一方ニハ模型鐵製ヲ時間ノ許ス限リ蒸シ其蒸シタル模型ノ内ニ入レ壓搾シ少ナクトモ四時間以上ハ其儘ニシテ一日ニ一回ノ製造ヲナシ得ルモノニシテ四時間以上經過スレハ取り外シ乾燥至ニテ一週間位火力ヲ以テ乾燥スルモノナリ精製シタル一枚ノ量約三百五枚。

本年七月以降ノモノハ一枚ノ量二百八十枚

(C) 漢口及熊本製ノ比較 紅磚茶ハ元來褐色ニシテ其褐色ノ光澤ヲ損セサル様製出シタルモノナルモ現今ニ於テハ外見黒色ナルモ歡迎嗜好スルニ至リタリ然ルニ特色ナル褐色ノ儘製造スルコトハ艱難ニテ黒色ニ製出スルハ容易ナリ即チ外部ハ眞鍮板ヲ以テ且僅少ノ油ヲ塗抹シテ壓搾スル爲メ着色セサルモ黒色ニ變スルモノナリ漢口茶ノ特徴トスル點ハ外部ニ稍白微ヲ生スルモ内部ニ浸蝕スルコトナク之ニ反シ微ノ内部ヘ浸蝕シ本邦熊本ニ於テハ之レカ研究ニ餘念ナカリシカ愈々本年ニ至リ大ニ改良スル處アリ微ノ襲撃ヲ受クルコトナク完全ナル磚茶ヲ製スルニ至レリ次ニ漢口茶ハ五回ノ壓搾ニヨリ數時間ノ後型ヨリ外シ然ル後乾燥スル等ノ點ハ漢口製ト異ナル所ナランカ且漢口ニテハ蒸汽ヲ以テ乾燥スルニ對シ本邦ニテハ火力ヲ以テ乾燥スルナト漢口支那人經營ニ係ル興商廠製紅磚茶及九州磚茶會社製紅磚茶ニツキ漢口製ハ堅牢ニシテ乾燥シ日本茶ハ壓搾力ニ稍缺ケタル感アリテ指ヲ以テ碎カントスレハ漢口茶ニ比較シ遙ニ脆ク容易ニ粉碎シ易キモノナルモ前者ハ蒸汽ニ依リ乾燥シ後者ハ火力ノタメニ起因スルモノニシテ火力ハ蒸汽乾燥ニ比シ却ツテ馨香ヲ強ヒルモノナリト云フ漢口五工場ノ中四工場ハ露國人經營ニ屬シ他ノ一工場ハ支那人經營ニシテ露國人經營ノ各工場ハ關係者ノ外縦覽ヲ許サストノコトヲアル。

III、綠磚茶 Green Brick tea

綠磚茶ハ日支兩國何レモ頗ル粗惡ナル番茶ヲ蒸シ壓搾製造シタルモノニシテ日支各地稍其形狀ヲ異ニスレトモ一枚ノ量約四百匁長一尺五分幅五寸厚一寸内外ノ長方形ニシテ粗末ナル支那黃紙二枚ヲ以テ包ミ本邦茶モ同様四十五枚詰ヲ一籠トスルモノニシテ該磚茶哈市ニ集ルモノハ洮南及以北外蒙古ニ轉賣轉送シ齊々哈爾滿洲里チタ、ウエルフネウチンスク等尤モ多ク販賣セラル。

綠磚茶ハ支那湖南湖北地方尤モ多ク産シ雨量ノ都合等ノタメ芽茶トナスニ時期失スル場合ハ茶葉ノ生育ヲ待テ量目ヲ以テ採取シ或ハ殘餘ノ葉茶ヲ使用スル等茶葉莖ト共ニ刈リ葉莖ト共ニ截斷シ熊本茶モ同様ナルモ静岡ハ茶園ノ關係上茶ノ株刈ヲナスヲ得サル場合アリテ茶莖ノ少キハ之レカ理ナリ蒙古人ハ之ヲ釜ヲ以テ煎シ食料ニ供スルモノニテ葉莖ノ多少如何ハ何等茶質ニ影響ヲ及ホスコトナク原料茶質ニ於テ日本茶漢口茶ニ區別セラレ氣候風土ノ關係上支那茶ニ及ハサルハ天然ノ然ラシムルモノナリ。

1、漢口綠磚茶製法 漢口磚茶トシテ輸出セラル中兩湖尤モ多ク茶ノ產地ヲ以テ行ハレ老茶ヲ集メ來ル(本邦ノ番茶)ヲ以テ大ナル盆上ニ擴ク多數ノ女工ハ善惡二種ニ區別シ更ニ外茶粉茶ヲ加ヘテ工場ニ送レハ各種茶ノ分量ヲ秤リテ箆及布上ニ移シ約三分間之ヲ蒸シ上リタル茶ハ箱中ニ入レ厚キ板ヲ蓋トシテ蒸汽又ハ人力ヲ以テ大槌ノ下ニ置キ壓搾スルト云フ磚茶ハ表面部内容裏面部等各茶ノ種類ヲ異ニシ即チ表面ニ出テタルモノヲ晒表裏表ニ出ツルモノヲ二面ト稱シ實質ヲナス大部分ノモノヲ裡茶ト

稱スル等ノコトハ紅磚茶モ異ルコトナク之ヲ蒸シテ壓力ヲ加フレハヨク粘着附合シ固キ板狀形トナリ各種茶ノ分量ハ一枚ノ磚茶ニツキ次ノ如シ。

晒面	四兩
二面	四兩
裡面	四七兩
合計	三斤七兩

晒面ノ品質最モ良ク二面之ニ次キ裡面最モ惡シ裡茶ハ箆ノ器ニ四十七兩ヲ秤リテ入レ此上ニ晒面四兩ヲ布ニ入レテ載セ蒸汽ノ上ニ置キ之ニ笠ヲ蓋フ更ニ六七分ノ檜板ヲ以テ組ミ立テタル長方形ノ箱中ニ二面ヲ蒸サスシテ入レ其上ニ蒸シタル裡茶最後ニ晒面ノ順序ヲ以テ入レ次ニ蓋ヲナス然ル後蒸汽カ或ハ人力ニ依ル壓柱ノ下ニ移シ三四回ノ壓搾ヲ經レハ掛矢ヲ以テ箱ヲ解キ製品ヲ取出ス然シテ髻樣ノ茶端ヲ缺ヲ以テ剪リ約四五日間乾燥シ包裝ニ移ルモノナリ。

2、日本產綠磚茶製法 綠磚茶製法ハ殆ント支那製法ト異ルトコナキモ本邦產ニシテ静岡茶原料ノ製茶ハ日乾ニシテ熊本產原料ハ釜煎リヲ以テ製茶セル等ノ差異アレトモ何レカ優劣ナルカハ需要者ノ嗜好ニ依ルモノナルト云フモ漢口地方ニ至リテハ釜煎リニシテ精製シ居ルモノナリ。

(イ) 静岡磚茶製ハ綠磚茶一種ニシテ外蒙古向四百匁ノミ製シ其原料ハ多ク茶園ニヨリ芽茶ヲ摘採シタ

ル殘茶葉ヲ摘取或ハ葉莖共ニ採取シ製造スルモノニシテ從ツテ幾部原料ニ茶莖少キハ茶園ノ都合ナラントス。

八四

(ロ)熊本製磚茶ハ原料ハ鹿兒島宮崎熊本及福岡ノ一部ニ亘リ殊ニ鹿兒島宮崎等野生茶モ不尠原料ノ豊富ナルコト推シテ知ラル番茶ヲ買集シ來レルモノハ先唐箕ヲ用キテ塵埃ヲ除去シタルモノヲ倉庫ニ收メ茶質ニ異ル各地産茶ヲ識別シ之ヲ適當ニ混合ス其際大ナル茶莖等ヲ拾出シ工場ニ送ル裡面ニハ不良茶ヲ表面及裏面ニハ良好ナル茶ヲ配合シ壓搾器ニ入レ壓搾製法ハ支那磚茶製法ト異ルコトナシ熊本トハ紅磚茶製造スル外、外蒙古向四百匁及內蒙古即チ東蒙古即チ東蒙古向百六十匁ヲモ製出セラル。

四、包 裝

磚茶ノ包裝ハ總テ前記紅綠磚茶ヲ黃紙二枚ヲ以テ包ミ紅茶ハ七十二枚詰ヲ一籠トシ綠磚茶四百匁モノ外蒙古向ハ四十五枚詰トシテ堅牢ナル竹製ノ籠ニ各磚茶ヲ入レタルモノナリ哈市ニ集散スル磚茶中一人靜岡ハ中實ヲ鉢力罐詰ニシテ外部板ヲ以テ石油箱ノ如キモノナリ靜岡包裝ハ茶質ノ保存上適當ト認ムルモ遠ク西伯利亞露本國及蒙古内ニ運搬セルヲ以テ結局籠詰ヲ適當ト云フ。

五、哈市ニ於ケル取引商店

日本磚茶取扱商店會社中日支露磚茶取扱商店ニハ

露 商 スモリヤンスキー、本店チタ、支店哈爾濱市

支那商 裕泰茶莊

日本商 伊藤長商店哈爾濱支店、長岡商店、日露實業株式會社、山本商店

以上ノ外露支商店ノ多數ヲ數フルモノアリテ本邦三菱會社ハ盛ニ漢口茶ヲ輸入シ來リ露支商人モ日本商人ニ對シテハ金建ヲ以テ取引ヲナシ目下哈市ノ相場左ノ如シ

紅磚茶 漢口壹籠七十二枚詰

金九十五圓

同 日本 同 同

金七十五圓モノ

金六十五圓モノ

綠磚茶 漢口壹籠四十五枚詰

金六十五圓

同 日本 同 同

金四十五圓

哈市以北ニアリテハ露支商人ニテ賣捌クコト多ク前記ノ輸入ヲ見タルモ大戰以來交通杜絶ノ狀態ニテ一頓挫ヲ來タシ露貨ノ低落ニ伴フ購買力ノ減退ハ茶況不振ノ結果トナリ爲メニ太平洋ハ躊躇セサルヲ得ス時々小取引ヲ開始スルノミニテ大ナル望ミハ得サルモ時期來リ復活センカ曠莫ナル西伯利亞露本國蒙古ノ需要ハ又奪起旺盛ヲ極ムルハ言ヲ待タス。

支那茶ニシテ良好ナルアリ否ラサルアリテ一定セサルモ本邦磚茶ハ靜岡熊本殆ント一定シ支那茶ハ各地ニ於テ一部或ハ一小茶莊ノ經營セルモノアリテ統一ヲ欲キタルモ本邦茶ハ未タ經營者ノ小數ナルカ

八五

爲メナリ。

一般支那茶ハ日本茶ヨリモ前記ノ通り氣候風土ノタメ遺憾ナカラ茶質ニ於テ漢口茶ニ遜色有リテ讓ラサルヲ得ス且時々輸送上ノ關係ヨリ微ニ襲ハレ易ク之カ防止ニ煩悶シ居タルモ遂ニ研究ノ結果微ニ對シテ願慮ヲ要セス。

紅磚茶漢口製ニアリテハセイロン茶ヲ漢口紅茶ニ混入シ製シタルアリ或ハ純漢口紅茶末ニテ製シタルアリ然ルニ日本ニ於テハ唯一ノ熊本製アリテ從來臺灣紅茶末ヲ以テ熊本産少量ヲ混入精製シ居タルモ今後爪哇地方ヨリ紅茶末ヲ輸入精製スルコトナリタレハ漢口紅磚茶ニ劣ラサル製品ヲ得漢口ノ其レト遜色ナク且對抗シ得ンコト漢口製品ノ殆ト三四割下ヲ以テ製シ得ルモノナレハ憂ナク凌駕センコトヲ期シテ擬ハス尙一層之カ改良研究センコトハ當業者ノ必須ノ要務ナリト謂ヘシ。

乙 印度及錫蘭

(一)一九一九年自一月期間内錫蘭茶及ココア輸出狀況

(大正八年九月三日附在子貢帝國領事館報告)

茶

當期間紅茶及綠茶ノ輸出總額ハ八千九百六十一萬四千四十一封度ニシテ前年同期間ニ比シ千三百九十九

萬三千九百二十五封度ヲ増加シタリ之紅茶綠茶共ニ著シク輸出増加ヲ見タルニ依ル。

(イ)紅茶 當期間内紅茶輸出取引ハ頗ル活潑ニシテ英國及歐洲大陸諸國ヘノ輸出増シ其ノ額八千八百六十六萬七百七十九封度ニ及ヒ前年同期ノ七千四百八十二萬七千三百五十六封度ニ比シ實ニ千三百八十三萬九千四百二十三封度ヲ増加セリ。

(ロ)綠茶 綠茶輸出モ亦著シク増加シ前年上半期ノ七十八萬九千七百六十封度ナリシニ比シ九十四萬四千二百六十二封度ニ及ヘリ蓋シ濠洲亞米利加方面ヘノ輸出ハ聊カ減シタルモ英本國ヘ輸出アリタルト印度及歐洲諸國ヘノ輸出増加セントニ依ル

左ニ昨今兩期間ノ紅茶及綠茶ノ輸出額ヲ表示スヘシ。

國 別	紅 茶		綠 茶	
	一九一八年前半期	一九一九年前半期	一九一八年前半期	一九一九年前半期
英	三、八、六、五、四、二、六、九	七、〇、一、四、五、五、一、六		三、〇、八、〇
佛	一、七、五、三、八、〇、七	三、五、三、六、五、三、三		
和		一、六、九、五、〇		
伊	二、六、八、四、〇、九	四、九、〇、五、〇		
露	二、四、九、四、八	二、〇、三、五、〇	一、〇、九、七、五、五	

手堅カリシノミ緑茶ノ出荷ハ五萬三千五百十三封度ニシテ一萬五千四百五十五封度ノ賣約アリタリ。
 一月中錫蘭茶國別輸出高二ヶ年比較及參考トシテ過去二年間ノ總輸出高ヲ掲クレハ左ノ如シ。
 (單位封度)

九〇

英 露 其 他 米 支 日 其 他 計	紅 茶			綠 茶		
	一九一七 年 中	一九一八 年 中	一九一八 年 一 月 中	一九一七 年 中	一九一八 年 中	一九一八 年 一 月 中
英 國	八五,三九〇	九三,四七七	一八三,四八七	三,二〇六	三,〇九七	一〇九,七六五
露 國	一〇,三〇四	四,九四八	二四,九四八	—	—	—
其 他 ノ 歐 洲 諸 國	五,四七五	七,四二六	六〇五,九七四	—	—	—
米 國	三五,七八五	一五,二三三	—	—	—	—
支 那	二九,四七七	三六,五一一	—	—	—	—
日 本	五,五三〇	一,五五二	—	—	—	—
其 他 諸 國	一六,〇三六	二五,〇一九	六九八,七四四	—	—	—
計	一八七,九六二	二七九,二六七	二,五三二,七五五	—	—	—

一九一九年(自一月二十八日
至三月四日)

△上物奪合ノ姿ニテ相場競 上リ中物ハ手合ナク却テ粉茶ノ賣行相當アリ品質
 一般ニ良好トナレリ

△二月中ノ輸出高 紅茶二千三百六十六萬六千八百八十三封度 綠茶十四萬七千
 五十三封度。

△二月末古倫母ニ於ケル紅茶ノ市價。

本年一月二十八日ヨリ三月四日マテノ間ニ五回ノ競賣行ハレ紅茶出荷高五百九十九萬八千七百二十
 六封度ニ達シ三百九十五萬五千八百二封度ノ賣約ヲ見品質ハ回ヲ重ヌル毎ニ良好トナリ、オレンヂ、ペ
 コー格ノ香味本位ノモノニ對スル需要盛ニシテ隨テ相場高値ヲ呼ヒタルモ中物ニ買氣ナク殆ト手合ヲ
 見ス却テ粉茶及ファンニング物手堅ク相當ノ賣行アリタリ平均競賣直段ハ四十三仙、四十五仙半、四十
 九仙半、五十一仙半、五十二仙ト毎回昇騰セシカ就中上物ニハ九十五仙ノ賣約サヘアリテ買手ニテ相
 場ヲ競リ上ケ品物奪合ノ姿ナリ。

綠茶ノ出荷ハ大ニ減シテ一萬七千八百十四封度ニ過キスシテ内一萬千九百五十五封度ノ賣行アリタ
 ルノミナリ。

錫蘭茶國別輸出高二月中及一月以來累計二年比較表ヲ掲クレハ左ノ如シ(單位封度)

紅 茶

國 別	二 月 中		一 月 以 來 累 計	
	一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年
英 國	三,三五八,七二五	一,八八三,三五五	七,三三二,六六二	三,三八四,一七二

九一

露 其 他 ノ 歐 洲 諸 國	米	濠 洲	支 那	日 本	其 他	二 月 中			一 月 以 來 累 計																		
						一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年																
一〇六,九九五	二,七七七,三四〇	三,六〇二,三四三	一八,九五三六	一四,八六〇	一,三八一,一三三	一〇,三三〇,八二〇	一,三八六,三〇三	九,三四,四二四	六,五八,五五六	八七,二二〇	五,二九〇	一,二一五,七二五	三,三六〇,六八三	二,四,九四八	七二,九六九	二,七二,三四〇	三,六〇二,三四三	一,九,六一〇	二,〇七九,八七六	一六,五八三,五七六	一,六三三,三〇三	一,二一七,〇四一	六,五六,五五六	一五,七四五	一九,二九〇	二,三九六,六五七	二八,八三三,六二一

九二

英 露 其 他 ノ 歐 洲 諸 國	米	濠 洲	支 那	日 本	其 他	二 月 中			一 月 以 來 累 計																			
						一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年																	
一〇九,七六五	一〇,八〇〇	五九,三五〇	一七〇			一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,九,七六五	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇	一〇,八〇〇

其 他 計	一三,三五八	一三八,八五三	一三九,四六八	一三四,七七八
合 計	二九,六四三	一四七,一五三	三〇八,七五三	一六四,五六六

二月末古倫母ニ於ケル紅茶ノ市價左ノ如シ(單位仙)

高地產	中地產	低地產
六四	五三	七
六五	六六	六七
六一	五〇	五〇
五三	三八	四〇
四八	四九	四〇
三五	三九	三三

一九一九年(二月)

△上、中、並物殆ト手合セナク、フアンニングノ需要多ク品質ハ一般ニ低下セリ。
 △輸出高 紅茶千三百二十四萬九千二百二十一封度、綠茶十二萬六千三百三十八封度。

本報告ノ期間中(自三月五日至四月一日)ハ四回ノ競賣ヲ見紅茶出荷高四百八十三萬八千七百七十二

封度、内賣約高三百三十二萬六千二百七十封度ニシテ品質ハ月初ニ於テハ前月ヨリ引續キ良好ナリシモ下旬ニ至リ稍々不良トナリ、オレンヂ・ペコーハ月初ニ於テハ比較的需要増加ヲ見タルモ漸次手控トナリ月末ニ及ヒ手合ナキタメ下落セリフアイン・ペコーハ手堅ク中物モ亦同様手堅クシテ相場高値ヲ呼ビ並物ハ月初稍々賣行アリシモ中旬以降弱氣ニテ賣行皆無トナレリ。

獨リ粉茶及フアンニングハ人氣ヲ呼ビ相當買氣進ミ相場上向キ前月末ニ於テ一封度ニ付高地産三十五仙中地産三十九仙低地産三十三仙ナリシモノ三月末ニ至リ夫々四十仙、三十九仙、三十六仙ヲ唱フルニ至レリ。

本期中平均競賣値段ハ一封度五十二仙ヨリ四十九仙、四十八仙ト漸落ヲ示セシモ第四週ニ入りテ一般ニ強調ヲ呈シ來リ五十仙ノ呼聲ヲ聞クニ至レリ。

綠茶ノ出荷高ハ二萬九千九十七封度、賣上高一萬七千三百九十八封度ニシテ前月ニ比シ一萬二千二百八十三封度、五千四百四十三封度ヲ夫々増加シタルヲ見ル。

三月中及一月以降錫蘭茶國別輸出高二年對照表左ノ如シ(單位封度)

紅茶

國別	三月中		自一月累計	
	一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年
英吉利	11,755,504	11,076,304	19,917,165	33,212,433
露西亞	870,091	36,540	24,948	38,540
其他ノ歐洲諸國	7,100,331	5,675,599	1,583,080	22,057,712
米	2,130,194	3,333,768	3,518,243	15,400,417
支那	43,931	73,150	5,832,536	6,581,556
日本	18,800	8,480	277,861	2,248,955
其他	1,789,699	1,263,860	38,420	27,770
計	18,476,153	13,249,322	35,061,738	54,601,517

綠茶

國別	三月中		自一月累計	
	一九一八年	一九一九年	一九一八年	一九一九年
英吉利	3,080	3,080	10,976,5	3,080
露西亞	33,375	6,870	90,735	10,800
其他歐洲諸國	290	460	460	25,858
米	290	460	460	25,858
支那	290	460	460	25,858
日本	290	460	460	25,858
其他	290	460	460	25,858
計	290	460	460	25,858

其日計	他本	九六
一六三、四二八	一六三、三八八	二五二、一六六
一九四、〇九三	一六三、三三六	五〇二、八四六
		二九〇、九〇四

古倫母市ニ於ケル三月末紅茶市價左ノ如シ(單位仙)

銘柄	別	高地產	中地產	低地產
ブロークン・ベコー及 ブロークン・オーレンヂ・ベコー	六	六	七三	六六
オーレンヂ・ベコー	六	六	五九	六四
ベコー	六	六	六三	六四
ベコー・スーチョン	六	六	三三	六四
ベコー・ファンニング	六	六	三九	六六
粉及混茶	六	六	三九	六六

一九一九年(自四月二日至四月二十八日)

(大正八年六月十九日附在孟買領事館報告)

○粉茶及「ファンニング」ノ需要多クシテ一般ニ市況活氣ヲ帶ヘルモ上物ニ對スル需要少ク品質ハ低下セリ。

○輸出高ハ紅茶、一千三百六萬三千七百九十六封度、綠茶、十九萬二千三百八十六封度。

本月中ハ四回ノ競賣ヲ見紅茶出荷高四百五十五萬八千二十封度内賣上高三百五十三萬四千三十四封度ニシテ前月ニ比シ出荷高ニ於テ二十八萬五千二百封度ヲ減シタルニ反シ賣上高ハ二十一萬七千七百六十四封度ヲ増加シ・オーレンヂ・ベコーノ弱氣ナリシ外一般ニ相當ノ手合行ハレ市場活氣ヲ帶ヒ殊ニ粉茶及・ファンニング等ハ需要多クシテ價格モ稍々高値ヲ呼ヒタルモ品質ハ一般ニ低下シタリ。
本期間中平均競賣値段ハ一封度五十二仙ニテ開ケ月ヲ通シ下向一方ニテ第四週ノ四十九仙ヲ以テ月ヲ終レリ。

綠茶ノ出荷高ハ一萬二千五百九十二封度賣上高七千九百五十二封度ニシテ前月ニ比シ夫々一萬六千五百五封度九千四百四十六封度ヲ減セリ。

四月中及一月以降錫蘭茶國別輸出高二ヶ年對照表左ノ如シ(單位封度)

國別	四月中	自一月	累計
英國	一九一九年	一九一八年	一九一九年
英本國	一〇、八八七、六四二	一一、五四五、三三五	二二、四四一、〇七五
			三、一四六、二四九〇

露 其ノ他ノ歐洲諸國	米	濠洲	支那	日 本	其 他	四 月 中			自 一 月 累 計			
						一九一九年	一九一八年	一九一九年	一九一九年	一九一九年	一九一九年	
五九一八九	四三五七三	七七二七九	二九二一	四〇九一	一四〇九〇	八六〇八七	一三〇六三	一七、二三四	一、〇三一	一、〇三一	五、一三八	二、四九八
九五、七二九	七四二、八六四	三、四八、六七三	一、三八二、二二四	三、六四〇	七、五四〇	一、〇三一、一九七	一、〇三一、一九七	二、六三一、〇八五	二、六三一、〇八五	二、六三一、〇八五	二、六三一、〇八五	二、三三、九二四
二、四、九四八	二、三三、九二四	二、三三、二一八	六五、四七七	二六五、八〇六	四一、八六〇	四、三二一、三八九	四、三二一、三八九	二、三三、二一八	二、三三、二一八	二、三三、二一八	二、三三、二一八	五、九四六、九一六
七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇	七、二、四七〇
二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一	二八、一、五〇一
四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇	四、九、七三〇
五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二	五、三、七五、一九二

九八

綠 茶

國 別	四 月 中			自 一 月 累 計		
	一九一九年	一九一八年	一九一九年	一九一九年	一九一九年	一九一九年
英 本 國						
露 本 國						
其他ノ歐洲諸國						
米 國	三、〇〇〇	二九、八五五	一〇、八〇〇	二八、八五八	一三〇、五八〇	五、三、一〇〇
濠 洲		四、八五〇				
支 那						
計	一八九、三八六	五、六、七九五	三、〇八〇	四四三、二九〇	三、五八、六九一	五、九四、三四六
其 他	一九二、三六六	九、一、五〇〇	四四〇、五五三	四八三、二九〇	三、五八、六九一	五、九四、三四六

古倫母市ニ於ケル月月末紅茶市價左ノ如シ(單位仙)

銘 柄	別	高地產	中地產	低地產
ブロークン・ペコー及 ブロークン・オレンヂ・ペコー		六八	六〇	四〇
オレンヂ・ペコー		五九	五九	四三
ペコー		六一	五七	三五
ペコー・スウチヨン		三六	四六	二九
ペコー・ファンニング		五〇	五五	三三
粉 及 混 茶		三九	三五	二七

丙 蘭 領 印 度

(一) 一九一八年度蘭領印度產茶概況

(大正八年四月三日附在バタバビヤ松本領事報告)

▲當年度生産量瓜哇及「スマトラ」ヲ合シ約八千五百萬半基瓦

▲品質ハ特ニ改善セラレタルモノナキモ一般ニ優良。

▲加奈陀及米國向ハ總輸出額ノ七四%ヲ算シ本品ノ重要市場ナリ和蘭向ハ減少英國向ハ皆無。

▲「パタビヤ」市場取引額ハ前年ト大差ナク價格ハ終始不味。

▲「アムステルダム」市場ノ取引開始、英國輸入解禁等ヲ俟テ對歐洲輸出旺盛トナリ將來活況ヲ呈スルニ至ルヘシ。

産 額

從來蘭領印度茶ハ瓜哇茶トシテ其瓜哇産額ノミヲ計上シ來レルカ今ヤ「スマトラ」ニ於ケル茶ノ産出量著シク増加シ來リタルヲ以テ蘭領印度茶トシテ之ヲ總括スルノ必要ヲ認ムルニ至レリ而シテ瓜哇ノ輸出量ハ實際ノ産出高ヨリ遙ニ少量ニシテ「スマトラ」茶ノ輸出量モ亦其金額ヲ表示スルモノニアラサルモ先ツ生産量ニ最モ近キ數字トシテ信憑セラルルモノヲ舉クレハ左ノ如シ(單位半基瓦)

國 別	一九一六年	一九一七年	一九一八年
瓜 哇	九四,000,000	八七,000,000	七五,000,000
ス マ ト ラ	三,000,000	五,000,000	六,五〇〇,〇〇〇
計	九七,〇〇〇,〇〇〇	九一,〇〇〇,〇〇〇	八五,〇〇〇,〇〇〇

即チ一九一七年ニ比シ六百萬半基瓦ノ減少ニシテ「スマトラ」ニ於ケル收穫増加ナカリセハ更ニ大減少ヲ呈シタルナルヘシ瓜哇産茶ハ當年中五千六百二十五萬半基瓦「スマトラ」産茶ハ四百七十五萬半基瓦ノ輸出ヲ見タリ殘餘二千四百萬半基瓦ハ在庫品ナルモ其大部分ハ賣約濟トナリテ船腹ヲ待テルモノナリトス瓜哇ニ於ケル産出ノ減少ハ年末ニ方リテ著シキ早魃續キタルト又一方輸出及賣行ノ困難ヲ見越シテ生産量ヲ縮少セシニ因ル。

品 質

一般ニ良好ナリシモ通稱「カムボン茶」ナル低級粗葉ノ排除ニ努メタルノミニシテ特ニ歐洲人經營茶園ノ改善ヲ示タリト稱スヘキモノ無シ一工場ニ於テ此種粗葉ノ製茶ヲ繼續シタリシカ之レ政府監督ノ下ニ該地方土人生産茶收穫上ノ大損害ヲ防止センカ爲ニセルモノナリ幸ニシテ此茶ハ其目的海陸車ニ供給センカ爲ナリシヲ以テ市場ニ出現スルコトナキヲ得タリ一般茶園産出品質ハ年末迄「モモンストン」轉換期ニ於テ著シキ氣候上ノ變化ヲ受ケ生葉ハ強度ノ萎凋(縮)法ヲ要シタル爲煎汁力思ハシカラス更ニ數月ノ後永續セル早魃ノ結果高地茶園ノ優良品モ出現シ中ニハ飛切品ヲ出シタルモ時機不利ニシテ品質相當ノ價格ヲ支持スルコト能ハサリキ各種製茶ノ素質及外觀ハ大體ニ於テ瓜哇標準ヲ維持スルコトヲ得タリシモ品質分類上不規則ナリシモノ及現時ノ狀態ニ適合セサル製法ヲ固持セル茶園若干

ヲ出シタリ。

輸出

最近三箇年間ノ主要輸出國別ヲ示セハ左ノ如シ。(單位半基瓦)

國別	一九一六年	一九一七年	一九一八年
和蘭國	二九,八〇〇,〇〇〇	一,二七八,〇〇〇	九八八,〇〇〇
英國	二一,八七四,〇〇〇	三,三九六,〇〇〇	
露國	三三,四八七,〇〇〇	一七〇七六,〇〇〇	一,六五〇,〇〇〇
濠洲	六〇,五六〇,〇〇〇	一〇,五七二,〇〇〇	一〇,三五三,〇〇〇
加奈	六三三,〇〇〇	三三,五六八,〇〇〇	八,三二一,〇〇〇
米	四四七,〇〇〇	一,〇三〇,〇〇〇	三三,五七四,〇〇〇
新嘉坡	六八〇,〇〇〇	七,〇三三,〇〇〇	四九八,〇〇〇
其他	八九,〇九六,〇〇〇	七三,九四三,〇〇〇	一,八四六,〇〇〇
計			五六,二三〇,〇〇〇

本年度ニ於テ注意スヘキハ和蘭向ノ激減ヲ呈シタルト英國向ノ皆無ナリシコトニシテ其理由タルヤ全ク論評スルノ要無キ迄周知セラルル所ナリ然レトモ和蘭向船積契約ハ即チ母國トノ貿易復活ノ兆ニシテ更ニ運輸上ノ便宜ニ就テ取極中ニアルヲ以テ「アムステルダム」市場ノ開始ヲ見ルコト蓋シ遠キ

非ルヘシ對英貿易關係ノ前途亦有望ニシテ其外國茶輸入禁止令ハ未タ全ク撤廢セラレサルモ目下瓜哇茶ハ再輸出ノ條件ヲ以テ同國ニ輸入ヲ許可セラレ且食糧品監督官ハ嘗テ同政府カ英領印度及錫倫茶ノ大量ヲ購入シタルト同條件ノ下ニ是等輸入茶ノ五割ヲ國內消費ニ充ツルヲ得ルノ權限ヲ有スルヲ以テ本品取引復活豫想モ望多シト言フヘシ。

對露國取引ハ頗ル不況ニシテ望少ク僅ニ一九一七年度ノ買殘品ノ發送ヲ見ルニ止マリ上海迄輸送セラル茶モ露國擾亂ノ爲目的地ニ到達セルヤ否ヤ不確定ノ狀態ニシテ嘗ハ多大ノ望ヲ繫キタル此ノ市場モ將來瓜哇ニ對シテハ有利ナルヤ否ヤ急ニ斷スルヲ得サル狀況ナリ。

濠洲市場ハ取引上屢危機ニ瀕シ憂慮ニ堪ヘサリシモノアリタリ年初外國茶輸入禁止續行セラレタルカ後英領產茶ノ不足ニ伴ヒテ價格暴騰セルヲ以テ全ク解禁セララルニ至リタルカ須臾ニシテ濠洲ハ生産過剩ナリシ瓜哇茶ニ對スル「ダンピング」、グラウンド「タラントスル」ノ形勢ヲ呈シ遂ニ各方面ヨリノ輸入茶ニ就キ其ノ二割ヲ豫納セシメテ許可證ヲ交付シ後之ヲ輸入セシムルニ至リタリ此ノ認可ニヨリ前年度ニ於ケルト同量ヲ捌クヲ得本業ヲ益スルコト多大ナリキ又新西蘭向モ相當高ニ上リ其數詳ナラサレトモ一割ヲ算スルニ足ルヘシ、本市場ハ外國產茶ニ對シ一封度ニ付二片ノ特殊稅差アレハ曩ニ瓜哇ニ對シテハ利益無カリシモ英領地ヨリノ輸送困難ト當領產茶ノ格安ナリシトニヨリ高稅ナリシニ拘ハラス當分之二競争成功スルヲ得タリ。

加奈陀及米國ハ目下本品ノ重要輸出國トナリ買手側ノ回送及茶園側ノ委託ハ計四〇、八九六、〇〇〇
 半基瓦即チ本品總輸出額ノ七四、〇三〇ノ多キニ達シタリ今之カ各種類ノ取引ヲ詳悉スルハ困難ナル
 モ委託ハ極メテ旺盛ナリシコト疑フヘクモアラス大體ニ於テ茶園側ハ其委託ノ結果ニツキ苦情ヲ付ス
 ル能ハス即チ相場ハ一般ニ安値ヲ唱ヘ運賃ハ高率ニシテ且爲替相場著シク不利ナリシモ賣渡數量並其
 大部分カ是等市場ニ不向ナリシモノナリシヲ知ラハ其ノ幾分ニ對シテハ生産原價ヲ得シニ過キサル
 ノアルヘキモ大部分ニ對シテ利潤ヲ得タルハ以テ満足スヘキナリ兩國市場ニ於テハ尙安値ヲ持續シツ
 ツアルモ目下送荷者ハ運賃安ト更ニ爲替相場ノ好調ヲ以テ多少安スル所アリ復戰前市場ノ狀況ニ於テ
 大ニ活躍スヘキヲ信シ極力委託ヲ限縮スルノ傾向アリ。

新嘉坡向ハ少量ニシテ過去數年間ニ於テハ露國向ノ伸繼タルニ過キス恐ラクハ本市場ニ仕向ケラレ
 タルモノ皆無ナルヘキカ大部分ハ南阿ニ轉送セラレタルモノナルヘク同地ハ大市場ニハアラサルモ過
 去二年間當領物産ニ對シテハ大ナル關係ヲ保チタリ其他諸港向トシテハ漢口向『ダスト』及『フアン
 ング』ノ送荷制限ニヨリ著シキ減少ヲ呈シ僅ニ七十五萬餘半基瓦ノ輸出ヲ見タルノミニシテ殘餘小口
 委託ヨリナル三百萬半基瓦ハ南阿、瑞典、英領印度、波斯等ニ仕向ケラレタルモノトス。
 『スマトラ』産茶ノ主要輸出國ハ左ノ如シ。(單位半基瓦)

國 別	一 九 一 七 年	一 九 一 八 年
新 嘉 坡	二二五、五二八	三、六四、一七
英 領 印 度	八九四、一三六	八七、一五
英 國	一〇三、三三四	
米 國	一、八七三、七四八	六〇七、七九八
瓜 哇	四九八、一四	三、一八、〇六三
計	四、七七、一八八	三、五八、二八四

新嘉坡ハ單ニ本品ノ積換港タルニ過キサレハ此ノ比較的大量ノ最終仕向地ヲ明ニスルヲ得サレトモ
 其一部ハ濠洲他ノ大部ハ加奈陀米國ニ轉送セラレタルモノト信シ得ヘシ。

バタビヤ市場 本年中ノ市場取引高ニツキテハ精確ナル數ヲ得ルコト難シ然レトモ前年ニ比シ更ニ大
 ナリシハ疑フヘクモアラサレトモ八百萬半基瓦以上タラサルヘシ即チ輸出數量ヨリ推セハ二千萬半基
 瓦ノ取引高アリシヲ知ル而シテ尙賣渡後船腹ヲ待テルモノ約二千一百萬半基瓦ヲ附加スヘキナリ、過
 去三年ノ輸出數量ハ左ノ如シ。

一九一六年

一九一七年

一九一八年

£1,000,000

£1,000,000

£1,500,000

即ち取引高ハ前年ト同額ト見ルヘク一九一六年ニ比シテ四百萬半基瓦ノ増加ト見テ大過ナルヘシ
價格ハ終始不味ニシテ『パンゲランガン』産茶及他ノ良質茶ノ大部分ハ相當利スル所アリタルモ普通
品並下等品ニ至リテハ頗ル不況ニシテ其大量ハ生産原價以下ニ於テ賣放タサルヘカラサル狀況ナリキ

本品ノ將來

本品ノ將來ニツキテハ縱令戰爭ノ終熄カ當領貿易ヲ復舊セシムル狀態ニ進ミツツアルモ尙瓜哇ノ將
來ハ極メテ一般狀態ニツキ批評シ得ヘキノミ即ち貿易制限ノ全撤廢ニ關シテハ未タ方針意嚮不定且豫
想計數ノ基礎ヲ根本ヨリ覆スヘキ諸種ノ偶發的事柄モ發生スヘキヲ考慮セサルヘカラス然レトモ本
品ノ確定市場カ僅ニ加奈陀、米國ノ二ニ過キサリシ一年前ヨリ觀レハ更ニ大ナル確信ヲ以テ之カ前途
ヲ望見シ得ヘシ現下ノ問題ハ一ニ『アムステルダム』市場開始ヲ促進シ得ヘキ運輸ノ點ニアルカ英國内
消費ニ對スル外國茶輸入禁止ハ近キ將來ニ於テ解禁セラルヘシト信スヘキ理由アリ蓋シ運輸ノ問題モ
之ニ關聯シテ難關ノ一タルヘキナリ、然レトモ本品カ一度兩國市場ニ出現スルトキ其初荷ニ對シテハ
高値ヲ唱ヘテ相當ノ需要アルヘク單ニ蘭、英兩國ノ需要旺盛ナルトミナラス各種需要品ノ貯藏缺乏セ
ル歐洲大陸向輸出モ大ナルヘシ。

露國ノ現狀ハ今急ニ之カ取引ヲ復舊シ直接輸送ヲ開始スヘクモ非ス單ニ『ダグスト』及『ファンニング』
ノ新年買付アリ漢口ニ直送セラレ『ブリック』茶ノ製造ニ供セラレ西比利亞ニ送致セラレヘキモノコレ
露國トノ本品取引唯一ノ連鎖ナリトス同國內部ノ形勢大體ニ於テ速ニ回復スルニアラザレハ製茶業ノ
蒙ル影響大ナルヘシ今同國カ英領印度、錫倫、支那及瓜哇ヨリ吸收スル茶量ヲ各本國市場ニ轉セシメ
タリトセハ其價格標準未タ嘗テ見タルコトナキ底ニ下落スルコト易々タルヘシ。
現在濠洲取引ハ六月末迄繼續スヘキモノナルカ其期限滿了ト同時ニ同一又ハ類似ノ方式ニ於テ之カ
更新ヲ見ルヘキヲ豫想セラレ。

加奈陀及米國ノ兩市場ハ過去二年間ニ於テ嘗テ實行不可能ト思惟セラレタル如キ大規模ニ於テ瓜哇
茶ヲ吸收シ其ノ貿易ニ莫大直接ノ利益ヲ與ヘタリ更ニ組織的ニ巧妙ニ援助セラレタランニハ此ノ兩市
場ハ營業ニ對シテ貴重且永久資産トシテ終ヲ期シ、シ。

波斯ハ英領印度ニ取リテ極メテ重要ナル市場ナリ但其金融ニ關シ周到ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス
蓋シ困難ナル貿易ト云フヘキモ良質、恰好ノ品ニシテハ上値ヲ得シ能フヘケレハ英領印度カ經濟
的又地理的ニ優勢ナル地位ニ拘ラス瓜哇茶ノ取引ハ尙利ナル一角ヲ占ムルコトヲ得ヘシ。

其他一般

『カムボン』茶取引ニ關シ一言センニ過去二年間本茶ハ栽培茶ノ賣行ニ差シタル影響ヲ齎スコトナカ
リシモ前ニ歐洲市場價格高調シ(一番荷ノ船積ヲ急ク爲)品質ニ深キ制限ヲ加ヘシテ一氣ニ買進ミヲ
生スル傾向アルモ是ハ極力制止セサルヘカラス嘗テ二、三茶園カ販路廣キ中等品ヲ生産シタルモノモ

此ノ如キ機ニ際シテ劣等品質ノ「カムボン」茶ヲ混合シ其品質ヲ低下セシメ瓜哇茶ノ名聲ヲ傷クル如キ危険ヲ醸シタルコトアリ。

更ニ米國及他ノ市場ニ不備ト苦情ヲ惹起シタル原因ハ包裝ノ點ニアリ之最モ慎重ナル注意ヲ要スルモノニシテ單タ茶箱カ常ニ最モ適當ナル板材ヲ用キラルルモノニ非ス又必スシモ堅牢ナラサル點ニ關シテノミナラス屢其ニ包容スル茶ノ過量ナルコトニモ留意セサルヘカラス本品ニシテ錫倫茶包裝ノ二倍ヲ容レタルモノアリト云フ。

當領茶園ヨリ米國ニ於ケル最終受取人ニ至ル迄ニ本品ノ輸送量激増セル今日長期間ノ轉々搬送ニ能ク耐ヘ得ヘキ様特ニ強靱ニシテ上製ノ茶箱ヲ使用スルヲ要ス而シテ正味百四十封度入ノ重量ニテモ時トシテ破損スルコト稀ナラス内容品ノ散逸額又大ナリトス、寧ロ正味百封度以下ノ小型箱ノ採用ヲ可トス然ルトキハ此ノ危険ヲ減少シ包裝費幾分高マリ運賃亦多少嵩ムヘキモ瓜哇茶ノ更ニ大ナル好評ヲ博スル所以又茲ニアルニ想到セハ多少ノ煩勞ト費用トハ償ヒテ餘アルヘシ。

(二) 蘭領東印度ニ於ケル茶箱ノ需要並其製造會社ノ設立

△製茶業ノ好況ニ伴ヒ包裝用ベニア箱ノ需要復活セリ縦箱ハ歡迎セラレサルモ價格ノ低廉ナル點ニ於テ或ハ競争シ得ヘシ。

△輸入品ト競争スヘキ合板茶箱製造會社ノ設立。

△本邦品ハ原價ヲ低落シテ對應セスンハ從來ノ狀況ヲ維持スルコト困難ナルヘシ
(大正八年五月十九日附在「バタビヤ」帝國領事松本幹之亮報告)

從來蘭領東印度產茶ノ輸出包裝用ベニア箱ハ主トシテ露國、英國、日本諸國ヨリ輸入セラレタリシガ大戰勃發後ハ殆ド本邦品獨占ノ姿トナリシニ漸次種々ノ支障ニ依リ茶、護謨等ノ輸出困難トナリ價格低落スルニ至ルヤ高價ナル輸入ベニア箱ノ使用ニ代フルニ當地產箱ヲ用フル向増加シ輸出額ノ激減ト相俟テ本品ノ需要減退ヲ來シタリ蓋シ地箱相場ハ一個包裝用附屬品共產地渡約一盾三十仙ベニアハ四盾二十仙見當、縦箱ハ二盾三十仙内外ヲ唱ヘ茶、護謨等ノ不況ヲ極メ價格低落シテ之カ回復ノ時機豫想シ得サリシ當時ニアリテ需要右ノ如キ安價ナル地箱ニ趨リタルハ勢止ムヲ得サル所ナリシカ戰亂平定ノ今日當領物產ハ反動的ニ其永ラク沈滞セル市場ハ急ニ擡頭シテ躍進昂騰ヲ重ネ益々好況トナレルニ於テ第一ニ製茶包裝用箱トシテ體裁優美ナルベニア箱ノ使用復活セラルルハ當然ノ事ナルカ尙ホ地箱モ其格安ヲ利シテ相當ニ需要繁ク得ヘク獨リ縦箱ハ兩者ノ間ニアリテ最モ不利ナルモノトナルニ至ラン歟抑々縦箱ハ其未タ今日ノ如ク高價ナラス「ベニア」ノ輸入少カリシ時代ハ大ナル需要ヲ見タリシカ土產品トノ値開大トナリ且ツ品質漸次低下シ來レルニ外裝用トシテ上乘ナルベニアノ輸入盛ナルニ連レ製茶業者ノ多クハ外觀及本質ノ劣等ニシテ輸出用ニ適セサル土產品ヲ用キルヲ欲セス又

割高ニシテ不體裁ナル樅箱ヲ使用セシヨリハ高價ヲ拂フモ良品質良荷造ヲ主旨トスル輸出業者ハ多ク『ベニア』ヲ歡迎使用スルニ至リタル情勢ナリサレト樅箱トテモ『ベニア』ニ比シ破損率モ大差ナク見本採取上ニ便益アリ用板ヲ選フ時ハ價格ノ點ニ於テ競争シ得ル故有望ナラサルニアラス相當ノ需要ヲ維持シ或ハ更ニ發展シ得ヘキモノナルヘシ。

戰亂終熄ト共ニ瓜哇茶ノ取引復舊シ且ツ之カ販路ノ擴張ニ努メツツアレハ歐米濠洲向輸出ハ一層殷賑ヲ呈スヘク從テ其包装用箱ノ需要モ益々旺盛ナラントスルノ時は等輸入品ニ對抗競争スヘキ茶箱製造會社ノ當領ニ設立セラレタルハ蓋シ當業者ノ注意ニ値スル所ナリトス即チ最近合板茶箱製造會社ノ設立セラレタルモノ其數既ニ三ヲ算フルニ至レリ。

(1) N. V. "Triplex Kistenfabriek Lampong." 本會社ハ千九百十七年末ノ設立資本金三十萬盾ノ株式組織ニシテ『スマトラ』島『ラムボン』州ニアリ土產ノ板材ヲ以テ合板茶箱ヲ製出シ普ク當領產茶各地方ニ供給スルヲ以テ目的トス其製品ハ本年初ヨリ市場ニ出廻リヲ見タルカ目下ノ生産能力一日八百乃至千箱、一月二萬乃至二萬五千箱ニシテ當地ニ於ケル相場一個二盾七十五仙ヲ唱フ大サハ 21 x 21 x 21 ニシテ日本品ヨリ大型ナリ當地ニ於ケル代理ハ Von Nordrhein & Co. ナリ。

(1) N. V. "Pangalengansche Kisten Fabriek," Batavia. 本年三月十日設立、資本金二十五萬盾ノ株式會社ニシテ工場ヲ『パンガレンガン』ニ有ス主ナル茶商及十七茶栽培園之カ株主タリ。

(1) N. V. "Soekaboemische Kisten Fabriek," Batavia. 本年二月二十五日設立セラレタル資本金二十五萬盾ノ株式會社ニシテ工場ヲ『スカブミ』ニ有ス前者同様當地ノ主ナル茶商及五十三ノ茶栽培園之カ株主タリ製品ハ前者共未タ市場ニ出現セス。

而シテ(一)ニ掲ケタルモノハ製函販賣ヲ目的トスルモノナレトモ後二者ハ多少趣ヲ異ニシ其重役ハ先ニ邦人ニ賣却セル『ハリムン』茶園ノ所有者タリシモノニシテ株主ハ有力ナル茶商及多數ノ茶栽培業者ナレハ其製品ハ一般的販賣以外ニ是等茶園ニ供給セラルヘキコト明ナリ。

此種製函業者ノ續出ハ將來本邦品ノ販路ニ影響スル所大ナルベク且ツ其製品價格一個二盾七十五仙ヲ超エサルニ於テハ日本品ハ目下當地ニテ三盾以下ニ賣放ツコト至難ナル狀況ニアレハ更ニ原價ヲ低落シテ之ニ對應スルニアラサレハ到底從來ノ如キ狀況ヲ支持スルコト能ハサルヘシ。

丁 亞米利加

(一) 一九一八年度(自一九一八年七月一日至一九一九年六月三十日)米國ニ於ケル大

正七年度製茶輸入統計

(茶及珈琲雜誌ニ據ル)

甲 種 類 別

種 類 別	檢 査 數	合 格 數	拒 絶 數
臺 灣 龍 島	二〇、二四七、四五四	二〇、一三六、〇八九	一〇九、三六五
福 州 龍 島	三、八七八	三、八七八	—
工 夫 龍 島	一、七〇八、〇〇四	一、七〇五、〇八七	二、九一七
印 度 夫 龍 島	五、三九九、八五三	四、六三四、〇九三	七三五、七六一
錫 蘭 度 夫 龍 島	一、二九九、二八三	一、二九九、一八三	一〇〇
錫 蘭 度 夫 龍 島	二、六一五、三〇一	二、五八六、七〇六	二八四、五九五
錫 蘭 度 夫 龍 島	一、一九〇、七五	一、一九〇、七五	—
平 方 綠 茶	七、一三六、二七八	七、一三五、五一一	一〇、七六五
地 方 綠 茶	一、六四三、一七六	一、六四三、四一一	七六五
日 本 茶 本	三、四、二〇〇、一三六	三、三、九九六、六五六	一〇、三、四八〇
日 本 茶 本	三、一〇九、五九九	三、一、四四、六五七	四、五、九三三
附 香 毫 茶	二、三、〇三、四	二、三、〇三、四	—
附 香 毫 茶	三、六六、一五	三、六六、一五	—
廣 東 龍 島	一、九三、九二六	一、五八、八〇一	三、四、一、二五
日 本 工 夫	二、二八〇	二、二八〇	—
日 本 工 夫	五、〇四〇	三、五、六〇	一、四、八〇
支 那 磚 茶	九、三四三	八、八三〇	五、三三
計	一一三、三三八、一六五	一一一、九七九、五七七	一、四、二〇、三〇八

乙 地 方 別

地 方 別	檢 査 數	合 格 數	拒 絶 數
ボ ス ト	六、一三一、九三五	六、一、一、六七〇	一〇、三、六五
シ カ ト	九、一四三、二七六	八、二〇六、二七八	九、三、六、九八
ホ ノ ル	三、八四、二六三	三、八三、三、四六	九、一、七
ニ ュー ヨー ク	三、四、七、〇、二七二	三、四、七、〇、八〇六	八、二、一、八五
ビ ュー ジェ サ ウ ン ド	四、六、〇、七、〇、六二五	四、五、七、一、四、八二八	三、五、五、七、七
セ ン ト ポー ル	一、二、八、九、四、四六	一、二、八、九、四、四六	—
サ ン フ ラ ン シ ス コ	一、五、五、二、八、七一九	一、五、四、九、四、三、一三	三、四、四、〇、六
計	一一三、三三八、一六五	一一一、九七九、五七七	一、四、二〇、三〇八

備考 種類別ニ依ル合計數量ト地方別ニ依ル合計數量トカ符合セサルモノアルモ正誤ノ材料ナ
キカ故ニ此儘掲記セリ。

(二) 米國ニ於ケル最近十ケ年間製茶輸入統計

(北米合衆國茶業組合調査)

種類別	明治二年	明治四年	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年
臺灣烏龍	一六、〇七一 〇、〇六五	一六、五九九 四、一一一	一七、二七五 九、三三八	一四、八九一 七、四三二	一五、三六三 九、一六六	一五、四一三 二、八四四	一七、八四六 三、五七七	一九、三六〇 七、八八八	一七、九三三 八、八九九	二〇、二四七 四、五九四
福州烏龍	三、三七六 二、七〇〇	三、四九九 〇、〇六〇	三、二二二 九、九一九	二、八八〇 〇、九七七	一、三七五 一、六〇〇	一、三三六 四、六一一	七、四三三 七、五九九	一、〇九二 二、五三三	三、三九〇 七、一七二	二、八七八
工夫	七、二二七 三、九七七	七、二七九 六、〇〇三	八、九〇四 五、九七七	六、七七三 四、〇〇八	四、七八七 八、七六六	六、五九三 三、七六六	六、七八五 一、九四四	八、四一三 一、七三二	一〇、三九七 三、七五五	一七、〇〇四 一、三三六
印度及錫蘭	一六、七九八 六、七六六	二〇、七二三 〇、〇二一	二六、一六二 三、七七七	二四、九一一 〇、五八八	二七、八二九 三、八四四	二七、四四三 六、八三三	三二、一四七 三、二一一	二四、六六九 〇、〇〇五	四四、〇六三 六、五五四	一八、三三九 一、三三六
錫蘭	四八、一九〇 七、八〇七	七六、六四〇 八、四〇八	一、三七六 五、四二二	五九、五六九 五、五九三	五五、九三三 一、六六六	一六六、四五七 二、二七二	二二七、一九七 一、四九六	一七八、二二二 一、七八二	一九九、〇七五 一、九〇七	一九九、〇七五 一、九〇七
ジャワ				七、二、九〇八	四、四、一、三八一	三、七、四、四三三	五、七、八、五〇二			
スマトラ										

平水	地方緑茶	日本	日本粉茶	附香白亮	附香廣東	廣東烏龍	ケーパース	日本工夫	臺灣工夫	支那磚茶	計
一一、四九九 六、二二七	四、四八二 五、五八八	二六、六三二 八、八三八	一、〇三四 〇、八三三	七〇、八一八	三一九、三八六 二四八、五一一	二二、六九六					八七、八四三 八、三三三
一〇、五六四 七、一〇〇	三、八六三 七、五四四	三三、七三三 二、四二二	一、八〇八 七、七三三	九二、四二九	三四二、八八七	三〇、三八六					九九、五九九 〇、五五一
六、八六九 四、四六七	二、〇二九 三、一三三	三〇、五九二 四、二一一	二、五六六 五、七五五	二五、三二四	二七八、七三〇	二二、五三三					九九、七三八 八、五四四
一一、〇六七 七、九七八	二、八一七 一、二一九	三〇、一七五 〇、四四五	二、一三八 三、七三三	三九、五三三	三三三、八三三	六、六〇〇					九四、五〇七 三、六九九
一〇、五八〇 八、九四四	二、二七四 八、八八五	一六、一〇二 八、〇四四	一、四三三 一、一八八	八二、〇二二	三三三、一三五	二六、一一三					九二、八一六 〇、六六六
一〇、五四四 四、六六五	三、二四八 三、八八五	二五、九一三 三、四一一	二、二五三 六、八八五	一〇〇、一一四	四四八、四八八	二二、八四三					九四、三三四 〇、三三三
八、八五四 六、六六六	三、〇四二 二、七四四	三二、四五〇 三、五五六	二、二〇二 一、五九九	四六、二六七	五九六、七三八	一六、四〇五					一〇七、七六七 九、四七七
八、一八二 七、三三二	一、五三七 四、三九九	三二、七六九 三、四四四	三、〇六七 八、三三二	二六、二二七	四四四、三一九	四、四四九					一〇五、〇三六 六、七五五
八、三三三 三、七二一	三、七三三 二、六八八	三〇、一八三 五、九一〇	二、一七三 三、一九〇	一九、六四九	四二五、五五二	八、七六六					一四六、三三〇 一、〇七七
七、三三六 二、七八	三、六四三 一、七六六	三四、二〇〇 一、三六六	二、一七三 三、一九〇	三三、〇三四	三六六、五一五						一一三、三三八 一、六五五

備考 一、本表ノ年度ハ前年七月一日ニ始リ當年六月三十日ニ終ル。

二、本調査ハ米國最高製茶検査官ニ依リテ輸入許可セラレタルモノナリ。

三、大正七年分ハ米國最高製茶検査官ノ報告ニヨリ、大正八年分ハ茶及珈琲雜誌ニ依ル。

(三) 一九一九年一月以降米國ニ於ケル各國産製茶卸賣

及小賣價格(一封度當價格)比較表

一、卸賣價格(一口七十五箱以上)

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
日本緑茶									
籠焙茶	元一四五	同	同	二五一四五	同	三一五〇三四一五〇	同	同	同
釜焙茶	二八一四五	同	二六一四五	二四一四五	同	二四一四八三五一五〇	同	同	同
臺灣烏龍茶	三〇一	二六一七三二五二六	二六三三五二二〇一二	二七一六	同	二二一三三	同	同	同
フエア	三四一三五九一三二	同	同	二七一六	同	二六一三〇	同	同	同
サツベリア	四〇一四五	同	同	同	同	四一四五	同	同	同
アイネスト	同	同	同	同	同	同	同	同	同

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月
チヨイセスト	七〇一七五	同	同	同	同	同	同	同	同
フアンシイ	一〇〇一三〇	同	同	同	同	同	同	同	同
印度紅茶									
ベコースウチヨン	三〇一三二六二七三二一三三	同	同	同	同	同	同	同	同
ベコ	三二一三五二八一九二五二二八	同	同	同	同	同	同	同	同
オレンヂベコ	三五一五〇三三三五三〇一三五	同	同	同	同	同	同	同	同
錫蘭紅茶									
ベコースウチヨン	三〇一三二七一八二二一三三	同	同	同	同	二四一六二六二八二三〇	同	同	同
ベコ	三四一四〇三〇一三五三五〇	同	同	同	同	三〇一三五三三三五三二一三六	同	同	同
オレンヂベコ	三六一四五三五一四五三〇一四〇	同	同	同	同	三三一四〇六一四五四二一四八四四一五〇	同	同	同
ダーヂーリン									
フアンシイオレンヂ	四〇一〇〇	同	同	同	同	九〇一〇〇	同	同	同
瓜哇									
ベコースウチヨン	二二一三三二〇一三二	同	同	同	同	二二一三三三二一三三三五	同	同	同
ベコ	二四一七二二二二三	同	同	同	同	三三一二五三二一六二六二六	同	同	同
オレンヂベコ	二八一三三二四一三六	同	同	同	同	二八一三五三〇一三五	同	同	同
支那茶									
地方緑茶									
ガンパウダー	五〇一六〇	同	同	同	同	同	一	一	一
(エクストラ)									

(四) 巴奈馬ニ於ケル珈琲耕作ニ就テ

(在巴奈馬帝國領事代理報告)

巴奈馬ニ於テ耕作ニ適スルモノハ「バナ、」甘蔗、椰子、及珈琲等ニシテ「バナ、」ハ彼ノ「ユー
 ナイテツド、フルート、コムバニー」ノ手ニヨリ大仕掛ニ培養セラレツ、アリ又甘蔗ノ耕作ニ就テモ
 近來漸ク矚目スルモノアルニ至リタルガ珈琲ニ就テハ未タ餘リ世人ノ注意ヲ惹起スルニ至ラサルモ而
 カモ當國ニ於テハ將來之カ耕作ハ最モ有望ノモノナリト云フ今是等農作物ニ關シ經驗アルモノノ云フ
 處ヲ聞クニ巴奈馬ニ於ケル珈琲作ハ地味、氣候及脫皮上必要ナル水利ノ便ニ於テ他ノ農作物ニ比シ最
 モ適當ナルモノニシテ且ツ之ニ充ツヘキ土地ハ又頗ル廣大ナルモ惜ムラクハ勞働者不足ノ爲未ダ本業
 ハ發達スルニ至ラス内地ノ需要サヘ不足ヲ告ケ外國ヨリ輸入シシツアル有様ナルカ充分ナル勞働ト適
 當ナル方法ヲ以テ之カ耕作ニ從事スルトキハ將來當國產珈琲ハ世界ニ於テ最モ優良ニシテ又莫大ナル
 額ニ上ルヘシト豫期セラレツ、アリ而シテ之ニ適スル地方ハ「チリキ」卅ニ於ケル「ブガバ」及「ボケ
 テ」郡ノ高地ニシテ後者ハ可ナリ能ク開拓セラレ居ルモ前者ハ猶ホ鬱蒼タル山林ナルカ之ヲ開拓スル
 上ニ於テハ又容易ニシテ伐木スルノミニテ足レリ從來ノ經驗ニ徴スルニ其ノ伐木シタル跡ニ何等耕耘
 ヲ施サスシテ二年苗ノ珈琲樹ヲ植付クルトキハ其ノ後二ケ年ヲ經テ一本ニ付平均三封度ノ收穫ヲ上ケ

得ヘク殊ニ本業ノ容易ナルハ熟練ヲ要セサル一事ニシテ何人ニテモ直ニ之カ耕作ニ從事シ得ルコトナ
 リ將又當國ニ於ケル其收穫期ハ毎年十月ヨリ一月ニ互リ而シテ一本ノ珈琲樹ヲ其ノ成熟期即チ播種シ
 タル日ヨリ收穫シ得ルマテ四ケ年間培養ノ費用ハ米貨七十仙ニ當リ更ニ一ケ年間「エーカー」ニ對ス
 ル平均維持費ハ十弗ノ割合ナリ現在ノ處是等地方ニ於ケル産額ハ一ケ年僅カニ四千袋(一袋ハ百封度
 入)ニ過キスシテ其市價一封度二十仙ナリト云フ然ルニ彼ノ布哇ニ於ケル本邦人ノ經營ニ係ルモノ
 シテ最モ成功ヲ告ケ居ルモノハ珈琲耕作業ナル由ナルカ當國ニ於テ之ヲ試ムルモ又有利ナル事業ノ
 タルヲ失ハスト云フヲ得ヘケン乎。

米、加兩國ニ於ケル日本茶並臺灣茶市況報告

紐育 本間 義三 郎

本年新茶市場ニ對スル米加兩國ノ市場ハ何レモ古茶潤澤ノ爲メ安値ヲ以テ開市セララルモノト豫想シ
 居リシカ事實ハ正ニ反對ノ現象ヲ呈シ日本ヨリノ入報ハ何レモ一番茶四割減、其品質良好ナラサル
 拘ハラス相場ハ前年ニ比シ優ニ拾仙以上ノ高値ヲ以テ日本内地商人ノ手ニ依リ盛ニ取引サレタル等總
 テ意表ニ出テタル爲メ市場稍々動搖シ五月ヨリ六月ニ入りテハ前年度來持越シタル上茶殊ニ籠茶ノ如
 キハ何レモ相當有利ニ處分サルルニ至レリ、而シテ新茶ニアリテモ籠茶及一部ノ釜茶上物ハ依然品拂

底ナル爲メ比較的上値ヲ持續サレ其他中等程度ノ品モ相當ニ手合セアリタリト雖モ概シテ適品ニ乏シク前年度輸入茶ノ中、下物ハ未タニ市場ニ持越サレ十月以降漸次不振ヲ來シ當用小口ノ外掛々シヤ商談ヲ見ルニ至ラサリシカ其後二番、三番茶モ亦減少シ本年日本ヨリノ輸出額ハ著シク減シ昨年度ノ三分ノ二内外ナラントノ入報ハ一般ニ認メラレ市場稍々引締リ相場モ米國政府標準級茶ハ二十三仙程度ヲ保合ヒ居ルニ至レリ。

英領加奈太ニ於ケル日本茶況ニ付テハ特ニ報告スヘキモノナキモ本年九月下旬錫蘭本島市場ノ騰貴並爲替相場昂騰ノ爲メ此種紅茶ノ拂底ヲ告ケ其間幾分日本茶市場ニモ好況ヲ及ホシタリ而シテ本年六月上旬決定サレタル恩惠的稅率(英國殖民地產ノ茶一封度七仙他國產十仙)ハ今後自然他國產ノ茶ニ對シ其影響スル所アルヘキハ免レサルモノト一般觀測サレツツアリ。

要スルニ來年ハ支那ノ銀貨暴騰ト又印度ニ於ケル爲替相場ノ昂騰ハ延ヒテ製茶及貿易資金ニ及ホシ從テ米、加兩國ノ輸入減少ヲ來サントノ豫想ナレハ本邦當業者ハ須ラク製造ノ上ニ注意ヲ加ヘ純良ナル精茶ヲ製造輸出シテ其聲價ヲ擧ケンカ販路擴張上極メテ有利ナルコト明ナレハ今ヨリ大ニ注意改善ヲ促サレンコトヲ希望シテ已マサル所ナリ。

臺灣烏龍茶市況ハ、日本茶ノソレト殆同様トモ言フカ如キ徑路ヲ辿リ產地相場高、産額減少事實トナルニ從ヒ相場モ上進シ新茶開市前十六仙半ニ低落セル米國標準級古茶モ漸次恢復シ現今ニ於テハ二十

三仙内外ヲ唱フルニ至レリ、且印度、錫蘭ニ於ケル爲替相場ノ騰貴ト船腹ノ缺乏ハ是等紅茶ノ輸入量ヲ減退スヘク本年度臺灣ノヨリノ輸入數量減少ト相俟テ將來烏龍茶市場ニ好影響ヲ齎ラス可ク豫想セラレ居レリ然レトモ、其ノ品質ノ點ニ至ツテハ本年度春茶、夏茶共概シテ粗惡ニ流レタルノ事實アリ當事者ハ宜シク此ノ點ニ深く留意シ廈門烏龍又ハ福州烏龍茶ノ輸ヲ履ムカ如キ事ナカラム様大ニ警告ヲ要スル次第ナリ。

合衆國茶業組合調査ニ係ル統計書ニ依ルニ一九一八年七月ヨリ一九一九年六月迄同一ケ年間ノ米國輸入茶ハ總量一億一千一百九十一萬七千九百七十二封度ニシテ之レヲ前二ケ年間ノ輸入茶數量ニ比スルニ左ノ如シ。

一九一八年度	一一一、九一七、九七二封度
一九一七年度	一四六、二七八、六六七封度
一九一六年度	一〇五、〇二六、六七五封度

即チ本年六月ヲ以テ終レル年度ハ昨年度ニ比シ三千四百萬封度強ノ減少ナレ共一昨年度ニ比シテハ七百萬封度弱ノ増加ヲ示セル次第ナリ次ニ一九一八年度輸入業ヲ產地種類別ニ表示セハ下ノ如シ(單位封度△印減)

種別	數	量	前年比較
日本茶	三三、九一三	七七二	三、六九七、一六四
同 (小計)	三、一二七	五四三	九六九、二六六
日 粉	三七、〇四一	三一五	四、六六六、四三〇
臺灣 (計)	二〇、一三八	〇九八	二、二七五、二〇九
臺 龍	五七、一七九	四一三	六、九四一、六三九

一二四

種別	數	量	前年比較
福州	八、九六九		△ 三三〇、一〇二
工 夫	一、七二三	六四七	△ 八、六八三、八三八
平 水	七、一二五	五二三	△ 一、二四六、八九二
カント	一、六四二	五六一	△ 二、〇九〇、七〇七
加 香	二、三〇三	三四	△ 三、三八五
加 白	三六六	一一五	△ 五九、〇三七
加 東	一五八	八〇一	△ 一四六、六一七
廣 龍			△ 八七六
ケ 東	一一、〇三八	六四〇	△ 一二、五五四、六八四

種別	數	量	前年比較
印 度	四、六三四	〇九二	△ 一二、七一一、八〇三
(計)	同	同	同
錫 蘭	一三、〇七九	一九六	△ 一三、二四二、五五六
同 綠	一一八	九二五	△ 五九、〇八〇
同 混	一三、一九八	一二一	△ 三九六、〇七九
(計)	同	同	同
瓜 哇	二五、八六七	七〇六	△ 二、三三八、一九二
(計)	同	同	同

即チ右表ニ依ルニ其前年度ニ比シテ増加セルハ日本茶及臺灣茶ノミ、其他ニアリテハ加香白毫茶ニ多
少ノ増加アリト雖モ云フニ足ラス。

一二五

附

錄

附 錄

北米合衆國製茶輸入取締關係法規

(一) 不純不正茶輸入取締條例

一八九七年發布

亞米利加合衆國上院及下院ノ議定ヲ經タルモノ左ノ如シ。

第一條 一千八百九十七年(明治三十年)五月一日以後一個人又ハ數人若クハ一會社カ商品トシテ本條

例第三條ニ規定シタル各種標準見本ヨリ純良、品質及適飲ノ諸點ニ於テ劣等ナル製茶ヲ合衆國內ニ輸入スルコトヲ禁ス。

本條ニ一千九百八年五月十六日付條例ニ依リ「單ニ茶精、珈琲精又ハ其他ノ化學的製品ヲ造ルカ爲其原形及性質ノ全ク滅却セラレ若クハ其變化セラルルモノニ對スル」劣等茶等ノ輸入ヲ許可スル條款ヲ追加セラレタリ、該條例及其施行規則ハ一千九百八年(明治四十一年)十月二十八日大藏省令二九三一一號ヲ以テ公布セラレタリ。

第二條 本條例議決後大藏卿ハ毎年二月十五日及其以前ニ於テ製茶ニ老練ナル七名ノ委員ヨリ成立ス

ル一ノ委員會ヲ設ケテ輸入茶ニ對スル標準見本ヲ撰定セシメ之ヲ大藏卿ニ呈出セシム。該委員任免ノ權ハ常ニ大藏卿ニ屬シ其就職期限ハ一ケ年トス。委員在職中病死免職又ハ辭職等ニテ缺員ノ場合ニ於テハ大藏卿ハ更ニ新ヨリ指名シテ其就職期限間ヲ補充ス。委員會ハ執務通信ノ任ニ當ルヘキ一ノ事務官ヲ撰定スルモノトス。各委員ノ年給ハ金五拾弗トシ其俸給以外職務上使用ノ實費ハ海關收稅費目中ヨリ支給セラルルモノトス。

第三條 大藏卿ハ前記委員會ノ薦贊ニ據リテ合衆國內ニ輸入スル各種ノ製茶ヨリ純良品質適飲ノ諸點ニ於テ適當ナルモノヲ撰ヒ以テ一般ノ標準見本ヲ設定ス。右見本ハ紐育、市俄古、桑港其他大藏卿ノ必要ト認ムル輸入港ノ稅關ニ常置セラレ尙廣ク國內諸港ノ輸入商又ハ販賣茶商等ノ需メニ應センカ爲メ充分ニ其見本ヲ備ヘ相當代價ヲ以テ之ヲ支給送付スルモノナリ。而シテ是等標準見本ヨリ劣等ナル粗製茶ハ本條例第一條ニ據リ其輸入ヲ禁止セラルルモノトス。

第四條 合衆國內ニ商品トシテ輸入シタル製茶ヲ稅關ニ登記シタルトキハ輸入茶商又ハ被托者ハ相當ノ保證金ヲ納メテ製茶ノ檢査ヲ受ケ稅關官吏ノ許可ヲ經ルニ非レハ妄リニ該荷物ヲ稅關倉庫外ニ運搬スルコトヲ得ザルモノトス。而シテ是等檢査ヲ經ルカ爲メニハ輸入商又ハ被托者ハ送狀面製茶ニ對スル見本ニ併テ該見本ノ輸入荷物ニ相違ナキ旨ノ宣誓書ヲ添ヘテ審査官ニ呈出スヘシ。而シテ審査官ハ其見本ヲ本條例ニ據リ撰定シタル標準見本ニ對照スヘキモノトス。若シ到着港ニ松テ第七條

ニ定メタル資格ヲ有スル審査官ナキトキハ輸入商又ハ被托者ハ前項記載ノ例ニ倣ヒ宣誓ヲ爲シタル上輸入セントスル各種ノ見本ヲ稅關吏ニ呈出スヘシ。稅關官吏ハ一應試驗ヲ行ヒタル上各荷ノ見本ヲ第七條ニ定メタル審査官ニ送付スヘキモノトス。但シ前條ニ定メタル保證金ハ本條例ニヨリ輸入ノ許可又ハ禁止ノ以前ニ於テ商品ニ付帶スル稅關費用ニ供セシムルコトアルヘシ。

第五條 若シ第四條規定ノ檢査ヲ經テ第六條ニ定メタル再檢ヲ查受クルノ必要ナク全ク其製茶ノ純良ニシテ政府標準見本ニ合格シタルトキハ該輸入商又ハ被托者ハ該茶荷物ヲ直ニ稅關ヨリ取出スコトラ得ヘシ。然レトモ若シ不合格ノ場合ニ於テハ輸入商又ハ被托者ハ直ニ之カ通告ヲ受クルモノトス而シテ是等茶商カ其不合格ヲ以テ審査官ノ過失ニ基クモノトナシテ再檢査ヲ願出テサル限り該茶ハ其輸入ヲ禁止セラルルモノトス。但シ送狀面幾分ノ製茶ハ合格シ其餘ハ不合格ナル場合ニ於テハ合格シタル製茶ノミ其輸入ヲ許可セラレ其他ハ再審査ヲ爲スマテ稅關ニ留置セラルルモノナリ。

第六條 稅關吏輸入商又ハ被托者ノ一人審査官ノ審査ニ對シ不服ノ場合ニ在テハ大藏卿ノ指名セル政府總鑑官三名ノ判決ニ依リテ決スルモノトス。若シ政府鑑定官ニシテ該茶ハ純良ニシテ標準見本ニ合格スルモノト判定セハ該荷物ハ稅關官吏ニヨリテ輸入商又ハ被托者ニ引渡サルヘシ。然レトモ若シ最後ノ審査ニ於テ該茶ノ不合格ヲ認メタル場合ハ該茶ノ輸入商又ハ被托者ハ抵當付キノ保證ヲ稅關官吏ニ納メ判定ノ日ヨリ六ケ月以内ニ該不合格ノ製茶ヲ合衆國外ニ輸出シ去ルヘキモノトス。

而シテ若シ規定シタル期限内ニ其製茶ヲ輸送シ去ラサルトキハ税關官吏ハ該茶ヲ棄却スヘシ。

第七條 輸入茶ノ検査ハ標準見本ヲ備ヘアル輸入港ニテ全權ヲ帶ヒタル審査官ノ審査ニ付セララルモ
ノナリト雖、若シ其輸入シタル地ニ於テ適當ナル審査官ナキ場合ニハ最近ノ輸入港ニ於テ其審査ヲ
受クヘシ。此場合税關官吏ハ該茶ノ見本ヲ適當ナル輸入港ニ送付スヘギモノトス、凡テ製茶ノ審査
ハ審査官又ハ政府鑑定官ニヨリ製茶賣買ノ常例慣習ニ倣ヒ或ハ熱湯ヲ注キテ其香味ヲ知リ又或場合
ニ於テハ化學的分析ヲ以テ其良否ヲ審定スルコトアルヘシ。

第八條 一旦審査ヲ請ケタル後政府鑑定官ニ再審査ヲ願出ツル場合ニ於テ不服ニ關スル製茶ノ見本ハ
輸入商又ハ被托者立合ノ上ニテ審査官之ヲ封印シ該件不服ニ關スル理由ノ書類ハ凡テ後日ノ爲メ見
分ケ易キ記號ヲ付シテ政府鑑定官ニ送付スヘシ。而シテ鑑定官ハ其判決文ヲ判定後三日間内ニ各記
名調印シテ判定理由書ヲ添ヘ税關官吏ヘ回送スヘシ。政府鑑定官ハ又或場合ニ於テ製茶鑑定ニ經驗
アル者ノ商議ヲ得ルノ權ヲ有ス。但シ之カ商議ニ預リタル鑑定家ノ報酬ハ壹回金五弗ヨリ多カラサ
ルモノトス。

第九條 税關審査官又ハ合衆國總鑑定官ニヨリテ拒絕セラレ本條例ノ細則ニ基キテ輸出セラレタル製
茶ハ再、合衆國內ニ輸入スルコトヲ禁ス之ヲ犯ストキハ本條例違反トシテ該製茶ヲ沒收ス。

第十條 大藏卿ハ適宜ノ細則ヲ設ケテ本條例ヲ勵行セシムルノ職權ヲ有ス。

第十一條 本條例議定ノ際合衆國へ輸送ノ目的ヲ以テ現ニ船積中ノ製茶ニ對シテハ此取締法ヲ適用セ
ス。右ハ一千八百八十三年三月二日允許ノ粗製茶輸入取締條例ヲ以テ律スヘキモノトス。
第十二條 一千八百八十三年三月二日允許ノ粗製茶輸入取締條例ハ一千八百九十七年三月二日允許ノ
本條例施行ノ日ヨリ廢止セララルモノトス。

(二) 不純不正茶輸入取締條例施行規則

一九一八年 改正
一九一八年 一部改正
一九一九年 一部改正

第一條 製茶條例第三條ニ基キ大藏卿ノ定メタル標準茶ニ比ス純粹、品質、適飲ノ諸點ニ於テ劣レル
モノハ製茶トシテ輸入スルコトヲ得ス。

製茶ヲ輸入シタルトキハ消費、外國輸送用、又ハ鑑定ヲ要セサル直接輸送用トシテ登記スルコト
ヲ得登記ハ制規ノ形式ニ依リ且保證及登記ニハ連續セル慣用番號ヲ附スヘシ。

消費用トシテ登記ヲ爲シタル製茶ハ其ノ審査ヲ終ル迄第十二條ノ規定ニ依リ倉入スルヲ要ス此場合
ニ於テハ收稅官ハ税關タタログ第七五五號及第七五三號ニ依リ千八百九十七年三月二日發布ノ
條例第四條ニ基キ保證ヲ徵收スルモノトス。

此ノ保證ハ引渡、輸出及破棄ヲ爲スヘキ製茶並税關ニ於テ審査ノ爲保留スル商品ニ對シ徵收スルモ
ノナルヲ以テ免許狀ノ下附セラレタルトキハ之ヲ解除ス(税關カタログ第四三四一)

第二條 適法ノ資格ヲ有スル茶審査官ノ駐在スル諸港ニ於ケル製茶ノ審査ハ收税官ノ指定セル包裝ヨリ審査官ノ採收セル見本ニ依リテ之ヲ行フヘシ。

輸入者ハ登記書類ト共ニチヨツブリスト乃チインボイス面ノ各種製茶明細書ヲ差出スヘシ收税官ハ其ノ各口ノ製茶ヲ代表スル包裝ヲ選ヒテ之ヲ審査ニ供スヘシ、其ノ審査及報告ハ條例第七條ノ規定ニ適合スルヲ要ス、審査ノ結果ハ登記完結前ニインボイス面及登記書類ニ記載スヘシ。

第三條 目的地ニ直接輸送ノ目的ヲ以テ陸揚港ニ於テ登記シタル輸入茶ハ直ニ其目的地ニ發送スヘシ若シ適法ノ資格ヲ有スル審査官ノ駐在セサル港ニ製茶輸入ノ登記ヲ爲サムトスルトキハ輸入者ハ前條ノ手續ニ從ヒ其ノ港ニ於ケル税關長ニ宛テ見本ヲ差出シ尙其ノ審査官ニ差出シタル見本カ收税官ノ指定ニ係リ且登記番號(略名記入)ニ合スル包裝ヨリ採收シタルコト及インボイス各部ヲ正確ニ代表シ(粉ノ割合ヲモ合ム)且其ノ明細書ニ適合スルモノナル旨ヲ宣誓セル書面ヲ差出スヘシ。税關長ハ別ニ見本ヲ採收シ併セテ之ヲ大藏卿指定ノ審査官ノ駐在スル最寄ノ登記港ニ於ケル鑑定官ニ送付スヘシ、審査官ハ之ヲ審査シ鑑定官ハ審査官ノ審査シタル結果ヲ郵便又ハ必要ト認ムルトキハ電信ニ依リ該登記港ノ税關長ニ報告シ税關長ハ其ノ報告ニ依リ之カ處分ヲ爲スヘシ。適法ノ資格ヲ有スル審査官ハ左ノ諸港ニ駐在ス。

紐育、ポストン、シカゴ、桑港、セントポール、タコマ、ホノルル。

第四條 輸入港ヨリ審査官ノ駐在スル諸港ニ審査用ノ見本茶ヲ送付セントスル者ハ清潔ニシテ新シキ深二吋半 直徑三吋ニシテ内容四オンスヲ容ルヘキ圓筒形ブリキ罐ヲ用ヒ堅ク之ヲ密閉シ商慣習ニ從ヒ各見本ニ一定ノ貼紙ヲ附シ且適當ナル保存法ヲ施シ各製茶ノ名稱、包裝數、インボイス番號、荷受主ノ氏名、船名、輸入ノ口附等ヲ明細ニ記入シタル書類及茶審査請求書(關稅目錄 各二通ヲ提出シ)審査官ヲシテ其ノ申告ノ誤ナキヲ知ラシムルト共ニ輸入ヲ拒絕セラレタル製茶ヲ再、他ノ港ニ輸入シテ登記ヲ爲サムトスル者アルトキ直ニ同一品ナルコトヲ立證スル便宜ニ供スヘシ。

關稅目錄 第四三三一

關稅登記番號

製茶保證

目錄番號

備考

インボイス摘要及茶審査請求書

何々港駐在鑑定長官殿

拜啓本請求書ト共ニ送付致セシ茶ノ見本ハ何々港ヨリ何日何々港ニ到着セル何々號ニ積載シ某ニヨリ荷受ケ(又ハ輸入セラレシ)原包裝ヨリ採收セルモノニ有之候條一八九七年三月二日付條例ニ據リ御

検査ノ上御報告相成候也尙次ニ記載セル諸事項ハ相違無之候ニ付此段申添候

何々港
月 日

氏 名
(税關官吏)

記 標	番 號	包 裝 番 號	種 類	各 包 裝 ノ 正 味 重 量	全 重 量 (正 味)	單 價	全 價	包 裝 ノ 種 類	審 查 官 ノ 行 爲

インボイス番號

一九 年 月 日

審査報告

長 殿

何々港ヨリ

月 日

拜啓上記ノ茶ノ見本ニ付適法ノ検査ノ結果該品ハ一八九七年三月二日付ノ條例ニ規定セル禁止品ニ該當シ(又ハセサルモノニ付)豫書ノ場合ヲ除キ登記ハ不適當(又ハ適當)ト認め候條此段及回答候也

茶 審 査 官 氏 名

拒絶ノ理由

凡テノ場合ニ於テ輸入者及税關官吏ハ各自製茶見本ヲ採收シ姓名ヲ貼紙ニ明記シテ差出スヘシ。

第五條 審査ノ結果其ノ製茶カ條例ニ依リテ禁止セラレサルモノト決定シタルトキハ輸入者ハ直ニ其ノ通關狀ノ交付ヲ受クヘシ製茶又ハ製茶ナル名稱ヲ附シタル商品カ審査官ノ鑑定ニヨリ條例及施行規則ニ於テ禁止シタル事項ニ該當スルトキハ輸入者ハ直ニ之カ通告ヲ受ケ其ノ製茶又ハ製茶ナル名稱ヲ附シタル商品ハ之ヲ解放セラレサルモノトス但シ輸入者ノ請求ニヨリ再審査ノ結果前審査ノ決定ヲ取消シタルモノハ此ノ限ニ在ラスインボイス中ノ一部カ審査官ニヨリ通關ヲ許サレタルトキハ其ノ部分ニ限り解放セララルモ殘留ハ條例第六條ニ依リ保留セララルモノトス一旦消費用トシテ登記入セル輸入製茶ノ一部カ輸入ヲ拒絶セラレントスルトキハ更ニ特別保證ヲ徴收セララルモノトス但シ其ノ製茶カ法律ノ定ムル所ニ依リ破毀セララルカ又ハ他ニ輸出セララルトキハ特別保證ハ解除セラレ大藏省ノ倉庫及保證部ノ記録ヨリ削除セララルモノトス。

第六條

審査官ノ決定ニ對シ收稅官、輸入者又ハ荷受主ヨリ抗議ヲナシタルトキハ大藏卿ノ指定スル三名ノ合衆國總鑑定官會議ニ付スヘシ此ノ會議ニ於テ適法ノ審査ヲ遂ケタル後其ノ紛議ニ係ル製茶カ法定標準茶ニ依リ純粹、品質、適飲ノ諸點ニ於テ合格ト認定セラレタルトキハ收稅官ハ通關狀ヲ輸入者ニ交付スヘシ、若シ以上ノ諸點ニ於テ劣等ト認めタルトキハ輸入者又ハ荷受主ハ施行規則ノ定ムル所ニ從ヒ收稅官ノ要求スル保證ヲ差出シタル後其ノ製茶ヲ輸出スルコトヲ得。

第七條

收稅官ハ審査官ノ報告ヲ迅速ニ輸入者ニ通告スヘシ、輸入者若シ條例第六條ニ依リ三名ノ合衆國總鑑定官會議ノ再審査ヲ請求セムトスルトキハ其ノ通告ニ接シタル日ヨリ三十日以内ニカタログ第四三四五號ノ形式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ收稅官ニ願出ツヘシ。

收稅官ハ前ニ之ヲ 藏卿ノ指定シタル二名ノ合衆國總鑑定官會議ニ付スルモノトス、其ノ手續ハ條例第八條ノ定ムル所ニ依ル。

再審査ニ供スル見本ハ輸入者又ハ荷受主ノ請求アリタルトキハ其ノ面前ニ於テ審査官自ラ採收シ包裝シテ封印ヲ爲シタルモノニ限ル、再審査ニ供スル見本ニハ拒絕ノ理由ヲ明記セル審査官ノ報告書ノ寫ヲ添ヘテ之ヲ會議所ニ回送スヘシ。

第八條

最終ノ審査ノ結果本條例ニ基ク違法ノ輸入ト認定セラレタルトキハ保證ヲ解除セラルルコトナシ、但シ直ニ之ヲ輸出スルカ又ハ破毀スルトキハ此ノ限ニ在ラス。

第九條

條例ノ定ムル所ニ依リ拒絕茶輸出ノ爲ニ差出ス保證ハ其ノ船積證書ノ交付ト共ニ解除セラレ稅關船積監督官ヨリ正式ノ手續ヲ經テ解放證書ヲ交付スルコト他ノ拒絕食料品及藥品ノ場合ト同シ（大藏省決定書第二八八四一號）又之ニ附帶アル一切ノ費用ハ輸出免狀交付前ニ納付スルコトヲ要ス。

第十條

拒絕茶ヲ破毀スル場合ハ審査官ノ指揮ニ依リ適當ノ場所ニ運搬シテ收稅官ヨリ監督ノ目的ヲ以テ派遣セラレタル稅關吏ノ面前ニ於テ之ヲ執行ス、臨席稅關吏ハ之ヲ執行ニ先チ輸入者又所有者ノ姓名輸入ノ時日、船名、仕出地、品質及數量、インボイス面價額等ノ明細書ヲ作成シ破毀執行ノ後之カ證明ヲ爲シ稅關ニ提出スヘシ。

第十一條

製茶條例ニ基キテ標準茶ト製茶トノ比較ハ茶商間ニ行ハルル習慣方法ニ從ヒ製茶熱湯浸出法必要ノ際ニハ化學分析ニヨリテ施行スヘシ、而シテ審査官ハ製茶條例ニ基キテ純粹、品質、適飲ノ點ニ於テ標準茶ニ劣ル如何ナル製茶モ之カ輸入ヲ許可スヘカラサルヲ以テ人工着色料及他ノ不純物ノ混在ヲ決定スル爲メニハ現今制定セラレアル方法ヲ用フヘシ（施行規則第二十條標準茶ト比較ノ項參照）

第十二條

製茶ノ倉入ニ用ウヘキ倉庫ハ收稅官ノ指定ニ依ルヘシ倉庫ノ所有者ハカタログ第三八九一號ノ形式ニ依リ一定ノ保證ヲ差出スヘシ指定倉庫内ニ倉入セサル製茶ハ審査終了シ通關狀下付セラ

ルル迄税關其他公營ノ倉庫ニ預ケ置クコトヲ要ス、税關ニ適當ナル倉庫ノ設備ナキトキハ貨車ヲ以テ假倉庫ト看做シ適法ノ審査ヲ終ル迄保留セラレルコトヲ得、施行規則ニ定ムル保證ヲ差出ストキハ輸入者ノ所有倉庫ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ收稅官ニ於テ番人ノ必要アリト認ムルトキハ保稅期間輸入者ノ自費ヲ以テ之ヲ置クモノトス。

第十三條 審査中ノ製茶カ倉庫ニ在ル間ハ之ヲ他ノ商品ト區別シ何時ニテモ稅官吏ノ點檢ニ使ナラシムルヲ要ス、第二種第三種ニ屬スル保稅倉庫ナキ港ニ在リテハ港務長ハ必要ニ應シ入港セル製茶ノ一時倉入ニ適當ナル倉庫ヲ定ムルコトヲ得、輸出ノ目的ノ爲ニ倉庫内ニ於テ製茶ノ再荷造ヲ爲スコトヲ得、倉敷、車力其他ノ費用ハ一切輸入者ノ負擔トス。

第十四條 法令ニ於テ輸入ヲ禁止セラレタル製茶ノ輸出ヲ爲サムトスル者ハ次ノ形式ニ從ヒ輸出ノ登記ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ税關カタログ第七五七號ニ依リ罰金トシテ製茶原價ノ二倍ニ等シキ保證ヲ差出スコトヲ要ス但シ税關カタログ第七五五號又ハ第七五三號ニ從ヒ既ニ消費費用登記保證ヲ提供シタル者ハ此ノ限ニ在ラス。

不純不良茶輸出登記

何年何月何日某國ヨリ何船ニテ合衆國へ輸入シ現今何市何町何番地ノ某倉庫ニ庫入中ノ何某ノ製茶今般何某ニ於テ何々會社所屬何々船(船長何某)ニテ輸出致度候ニ付右登記願書差出候

商標又番號	品名	數量	價格	摘要
.....

登記ニ關スル新書式ハ不日規定アヘシ。

輸出茶ハ普通ノ手續ニ從ヒ税關吏ノ監視ノ下ニ船積スヘキモノトス。

第十五條 内地ノ港ニ於テ輸出ノ登記ヲ爲サムトスル者ハ保稅ノ儘運輸及即時輸出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 税關審査官又ハ合衆國總鑑定官會議ノ決議ニ依リ拒絕セラレ法定ノ手續ヲ經テ輸出セラレタル製茶ハ再、之ヲ合衆國ニ輸入スルコトヲ得ス、犯シタ者アリタルトキハ税關吏ハ直ニ其ノ現品ヲ沒收スヘシ。

第十七條 税關長ハ製茶ノ包裝ヲ開キ有稅品アリヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ得、又此ノ目的ノ爲ニ公營倉庫ニ於テ自由ニ審査用ニ供スヘキ包裝ヲ指定スルコトヲ得。

第十八條 輸入茶審査ノ公平ヲ期スル爲審査官ハ自己ノ拒絕セシ製茶ノ内各口一封度ツ、ヲ見本トシテ審査監督官ニ送付シ又審査監督官ノ請求ニ依リ其他ノ製茶見本ヲ送付スルヲ要ス、各見本ニハ貼紙ヲ貼付スヘシ。(税關カタログ第六四八九號)

製茶審査官ニ於テ製茶ノ輸入許否ヲ決定シ難キトキハ該製茶ノ見本ヲ審査監督官ニ送り指揮ヲ受クルモノトス。

審査監督官ハ本省ノ命ニ依リ審査方法、審査用器具及審査ニ關スル書類保存等ニ關シ視察報告ノ爲
製茶審査官ノ駐在スル各港ヲ巡視スルコトアルヘシ、審査監督官ハ製茶條例ノ執行ニ關シ大藏卿ノ
指定スル各事項ヲ調査報告スヘシ。

第十九條 標準茶決定委員會ニ於テ選定シ製茶條例ニ基キ一千九百十八年ノ標準茶ト確定シタル製茶
左ノ左シ。

- 一、臺灣烏龍茶
- 二、福州烏龍茶
- 三、工夫茶
- 四、印度茶(錫蘭茶ニモ適用ス)
- 五、珠茶(綠茶)
- 六、蛾眉(綠茶)
- 七、釜製日本茶
- 八、籠製日本茶
- 九、日本粉茶
- 一〇、薰香橙黃白毫(ケーパースニモ適用ス)
- 一一、薰香廣東茶
- 一二、廣東烏龍茶

第二十條 審査官ハ品質、人工着色又ハ粉飾料其他物質ヨリナル不純物及熱湯浸漬葉ノ品質ニ就キテ
標準茶ト對照シ製茶ヲ審査スヘシ。

品質ハ商慣習ニ從ヒ米貨五仙銀貨ノ目方ニ相當スル製茶ヲ採リコツブヲ用ヒテ審査スヘシ、品質ハ

標準茶ト同等以上タルヘシ、但シ產地ノ異ルニ依リ香氣ノ劣レルモノト雖適飲ノ標準ニ違スルトキ
ハ之カ輸入ヲ許可スルモノトス、例ヘハ天溪茶(テイーンカイ)ハ傍源茶(モユーン)ト同様ナリト認
ムヘキモ彼ノ著シキ煙臭キ又ハ一種酸味ヲ帶ヒタル劣等ノ徽州茶(フアイチャウ)又ハ温州茶(ウエ
ンチャウ)ハ前記二種ノ茶ト同様ナリト認ムヘカラサルカ如シ。

日本茶其他ノ綠茶(醱酵セシメサルモノ)ノ審査ハ其ノ浸漬葉カ標準ニ適合スルヤ否ヤヲ比較スル
ヲ要ス、但シ品質ノ審査ニ於テ日本茶ハ釜茶又ハ籠茶標準ノ何レカニ相當スルトキハ其他ノ綠茶ニ
在リテハ珠茶又ハ蛾眉茶標準ノ何レカニ相當スルトキハ之カ輸入ヲ許可スルモノトス。

第二十一條 浸漬葉ノ品質ヲ標準茶ト比較スルニ方リテハ再度之ヲ試ムルヲ要ス、但シ第二回審査ハ
倍量ヲ以テ之ヲ行フヘシ、反覆審査ノ際標準茶ヨリモ多量ノ浮物(茶葉ヲ完全ニ浸漬セル後ニアリ
テモ尙浮游シツアル木質ノ莖)又ハ浮渣ヲ含メルモノニアリテハ如何ナル製茶ニアリテモ拒絕ス
ルモノトス、一旦水ヲ除去シタル後浸漬葉ヲ取出シコツブニ附着シタル部分ヲ檢シ若シ標準茶ニ比
シ枯葉又ハ損葉多量ナルトキハ品質劣等ニシテ拒絕セラルヘキ充分ノ證據ヲ與フルモノト認ム。

第二十二條 不純物審査ノ爲メニハ次ノ試験方法ヲ用キテ標準茶ト比較スヘシ。
リード試験、其ノ變法及カツブ試験(倍量)

每一吋ニ付六十個ノ網目ヲ有シ直徑五六吋ノ有蓋ノ篩ニ製茶二オンス(約十五匁)ヲ容レ約八吋ニ

十吋ノ半光澤ヲ施セル白紙ノ上ニ粉茶少許ヲ篩別スヘシ、其ノ粉茶ノ量ハ約一グラウンナルヲ要ス、此ノ粉茶ノ分量ヲ得ンカ爲ニ必要ナル場合ニ於テハ充分ニ篩別セル後ニ茶葉ヲ篩底ニ徐ニ摩擦スヘシ斯クシテ得タル粉茶ヲ秤皿ニ移シ一グラウン(一厘七二八)ヲ秤量セル後上記ノ光澤紙上ニ返戻シテ紙上ニ一様ニヨク撒布スヘシ。

次ニ該光澤紙ヲ平滑ナル堅キ表面例ヘハ硝子又ハ大理石ノ如キモノノ上ニ靜置シ長サ五吋ノ扁平ナル鋼製篋ヲ以テ強ク押壓摩擦シテ粉碎スヘシ、コノ操作ヲ反覆スル時ハ粉茶ハ益々細末トナリ若シ着色料ノ混在スル時ハ紙上ニ擴撒セラレ又ハ線條ヲ印シ其ノ混在ニ層明カナルニ至ルヘシ。

密着ケサル粉茶ハゾラシユニテ掃ヒ落セル後紙面ヲ七倍半ノ擴大鏡ヲ以テ檢スヘシ鏡檢ノ際ニハ日光ニ照シテナスヲ要ス。

上記ノ試験ニ際シテ紅茶又ハ綠茶何レノ碎片モ人工着色料又ハ粉飾物ト誤認セラルルコトナキ程多量ニ混在スヘシ。

審査ハ標準茶ト比較シテ之ヲ行ヒ着色又ハ粉飾ニ關シ明ニ標準茶ト同等ナル場合ハ更ニ審査ヲ爲スヲ要セスト雖標準製ト比較シテ着色又ハ粉飾料ノ存在ヲ發見シタルトキハ審査官ハ該製茶カ標準茶ヨリ人工着色料又ハ粉飾料ヨリナル不純物ヲ多量ニ含有シ居ルヤ否ヤヲ確認シ得ル迄右審査ヲ反覆スヘシ。若シ標準茶ヨリ多量ニ人工着色料又ハ粉飾物ヲ含メルコトヲ發見セル際ニハ少クトモ該製

茶總個數ノ五パーセントヲ代表スル包裝ヨリ見本ヲ採收シ是等見本ノ多數カ標準茶ヨリ人工着色料又ハ粉飾料ヲ多量ニ含有シ居ルヤ否ヤヲ上記ノ試験方法ニヨリテ審査スヘシ。以上ノ試験ハ凡テノ製茶ニ適用スルコトヲ得。

日本茶其他凡テノ綠茶(醗酵セシメサルモノ)ハ右ノ白紙審査ト共ニ半光澤ヲ附シタル黒紙ヲ以テ粉飾料ニ對スル標準茶トノ比較審査ヲ反覆シ標準茶ト同一ナラサルトキハ更ニ見本ヲ採收シ上記ノ如クニシテ白紙試験ヲ行フヘシ、黒紙試験法ハ滑石、石膏、硫酸バリウム、粘土等ノ粉飾物ヲ檢査シ得ヘシ、沈澱物、浮渣等ノ檢査ニ用フルカツツ試験(倍量)、リード試験、又ハ上記兩方法ヲ同時ニ施行シテ製茶見本審査ノ結果標準茶ヨリ多量ノ不純物ヲ檢査スル際ニハ一封度ノ製茶見本ヲ該地方鑑定官附屬ノ化學者又ハ最寄ノ農務省附屬純食料分析所ニ送付シテ分析ヲ求メ標準茶ト比較シテ不純物含量ノ多少ヲ決定スヘシ、該製茶ニシテ標準茶ヨリ多量ノ不純物ヲ含有スル際ニハ「純粹」ニ於テ標準茶ヨリ劣ルモノトシテ拒絶セラルヘシ。

製茶以外ノ他物ハ凡テ不純物ニシテ如何ナル不純物ノ存在モ的確ナリト認メラルル方法ニ依ルトキハ之ヲ檢出シ得ヘシ。

第二十三條 製茶審査ニ際シ該製茶カ其審査項目即チ品質、浸漬葉ノ品質及純粹ノ何レカ一ツノ點ニ於テ標準茶ヨリ劣ル時ハ他ノ事項カ標準茶ヨリ優ルトモ該製茶ハ拒絶スヘキモノトス、外觀又ハ乾

葉ノ所謂スタイルナルモノニツイテハ何等顧念セラルルコトナシ。

一八

第二十四條 澳門(マカオ)廣東工夫(カントンゴンゴウ)及磚茶ハ總テ支那工夫茶ノ標準ニヨルヘシ、廣東茶中微臭キモノ又ハ腐敗的香氣ヲ帶ヒタルモノハ拒絕スヘキモノトス。

第二十五條 臺灣及福州烏龍、廣東茶、工夫茶、印度茶、錫蘭茶、瓜哇茶及スマトラ茶中ニ含有スル粉茶及フカ(Fukus)ノ分量ハ八分ヲ超ユルコトヲ得ス、但シ眞鍮針金製ノ第十六號篩ヲ以テ篩別檢量スルモノトス、支那印度及錫蘭綠茶モソノ粉茶及フカノ量八分ヲ超ユルコトヲ得ス、針葉及白毫ハ篩別セル粉茶ト合シテ更ニ篩別シ粉茶ノ分離スル迄二回乃至三回此ノ操作ヲ反覆シ針葉及白毫ノ粉茶ト混合セラルルコトナキ様努ムルヲ要ス。

第二十六條 錫蘭茶、印度茶、瓜哇茶及スマトラ茶ニアリテハ針葉及白毫ヲ粉茶ト共ニ一旦第十六號篩ニ掛ケ更ニ第三十番眞鍮針金製ノ第二十六號篩ニ掛ケヘシ。

第二十七條 日本茶ノ粉茶及フカハ第三十一番眞鍮針金製ノ第三十號篩ヲ以テ篩別審査セル際ハソノ量四分ヲ超ユルコトヲ得ス、審査官カ粉茶ノ含有量多キヲ理由トシテ拒絕スルニ方リテハ二個以上ノ包裝茶ヲ篩フヲ要ス、審査官ハ本施行規則ニ規程シタル審査法ニ絶對ニ準據スヘシ。

第二十八條 審査官ニ依リテ製茶ノ拒絕セラルル場合ニハ輸入者ハ其ノ拒絕ノ理由カ品質、浸漬葉ノ性質粉茶ノ混入又ハ他ノ物質ノ混淆ノ何レニアルカヲ必ス通告セラルヘシ。

第二十九條 日本茶、錫蘭茶、印度茶其他ノ製茶ニシテ支那綠茶ヲ模造シタルモノハ支那標準綠茶ト

比較審査シ又日本茶カ酸酵茶トシテ製造セラレタルトキハ工夫標準茶ト比較審査シ又總テノ包種(薰香)臺灣烏龍茶ハ臺灣標準茶ト比較審査スルヲ要ス。

第三十條 特定ノ標準ナキ粉茶及フカハ品質純粹及適飲ニ對シ夫々ノ製茶標準ト比較審査スヘシ。

第三十一條 拒絕ニ對シ抗議ノ生セル場合ニハ審査官ハ合衆國總鑑定官會議所ニブリキ罐入ノ製茶見本一封度以上ヲ送附スヘシ、該見本ニハ確實ニ附箋ヲ附シ清潔ニ拭ヒ且ツ保存法ヲ施スヲ要ス、該見本ノ半量ハ從前ノ如ク同會議所ニ於ケル審査用及判決書類ト共ニ原登記港ヘノ送付用ニ供シ他ノ半封度ハ若シ同會議所ニ於テ拒絕セラレシ場合ニハ各港ニ於ケル審査官ノ參考トシテ分配スヘシ、然レトモ製茶ニシテ同會議所ニヨリ登記スヘク特ニ必要ト認メラレシ製茶ニアリテハ殘リノ半封度モ亦判決書類ト共ニ返戻スルヲ要ス。

審査ノ目的ノ爲ニ輸入製茶ヨリ採收セラレ且、審査ニ合格セル純粹茶ノ代表見本ノ過剩ハ審査完了後輸入者ノ請求アリシ場合ニハ輸入者ニ返還セララルヘシ、然レトモカカル請求ナキ際ニハ不用標準見本品ニ對シ規定セル施行規則第四十條ニ依リテ處分セララルヘシ。

最後ノ審査ニヨリテ拒絕セラレシ製茶見本ノ過剩ハ收稅官ニ依リテ破棄セラルルカ又ハ變製セル後一九〇八年五月十六日付ノ條例ニ規定セル加工用ノ目的ニ對シテ販賣スルコトヲ得。

一九

第三十二條 輸入ヲ許可又ハ拒絕シタル各種製茶ノ數量統計ハ參考トシテ稅關ニ保存スヘシ。

第三十三條 正副標準茶ハ紐育港稅關收稅官ノ監督ノ下ニ標準茶決定委員會ニ於テ調製ス、此レニ要スル經費ハ紐育稅關收稅官ニ於テ大藏卿ノ認可ヲ得テ徵稅費中ヨリ之ヲ支辨ス、標準茶見本ハ各番號ヲ取揃ヘ標準茶決定委員會、紐育、ボストシ、市俄古、桑港、セントポール、ホノルル等駐在ノ稅關收稅官及タコマ駐在ノ稅關收稅官心得ニ送付スルモノトス輸入者五人以上ノ連名ヲ以テ願出ルトキハ支那、日本、印度、錫蘭又ハ英國ヘ輸出ノ用トシテ標準茶各番號ノ見本一揃又出願者ノ希望ニ依リテハ各五封度入包裝ノモノヲ各々下付セラルヘシ、標準茶見本一組及五封度包裝見本ノ價格ハ標準茶決定委員會議長ト紐育稅關收稅官トノ合議ニ依リ決定ス。

右輸出用ノ見本ヲ下付ヲ受ケントスルモノハ輸出ノ目的及荷受主ノ姓名ヲ明記セル書類ヲ以テ願出ツヘシ。

第三十四條 準許セラレタル標準茶ノ幾分ハ紐育稅關吏ノ監督ノ下ニ製茶包裝ニ堪能ナルモノノ手ニ依リ半封度入ブリキ罐ニ再包裝セシムルコトヲ得、紐育審査官、實際ノ輸入者及適法ノ資格ヲ有スル製茶仲買人ニ限り紐育稅關收稅官ニ請求スルトキハ實費ヲ以テ上記ブリキ罐入見本茶ノ送付ヲ受ケルコトヲ得。

第三十五條 生産國ヨリ郵便至急便其ノ方法ニヨリ輸入セラルル製茶カ二封度以内ニシテ包裝セ

レ且、單ニ配布用又ハ注文取ヲ目的トシ賣品ニアラサル見本タル事實明ナルモノハ一千八百九十七年三月二日ノ條例ニ基ク審査ヲナサスシテ輸入者ニ直チニ交付セラル。

旅客ノ携帶ニ係ル製茶カ重量五封度以内ニシテ包裝セラレタルモノハ同條例ニ基ク純粹ノ點ノ審査ヲナササルモノトス。

第三十六條 引取人ナキ製茶ハ他ノ同様ノ貨物ト同シク收稅官ニ於テ抑留シ公有品トシテ處分セラルルモノトス。但シ指定製茶審査官カ消費ニ適スルコトヲ宣言セサル以上ハソノ年ヲ經過スルモ公賣ニ付セラルル事ナキモノトス。

第三十七條 過多ノ粉茶ヲ含有スル製茶ノ輸入セラレタル場合ハ粉ヲ篩別シ其ノ粉茶ヲ輸出スルコトヲ得、之ヲ輸出セサル場合ニ於テハ其ノ粉茶稅關監視ノ下ニ破毀スルモノトス、而シテ該製茶カ標準茶ト同等以上ナル時ハ登記ヲ許ササルモノトス。

第三十八條 製茶ノ包裝及其ノ内容ハ一個ノモノト看做シ輸出又ハ破毀スル場合ニ於テ製茶ト包裝ト分離スルコトヲ許サス。

第三十九條 審査官カ拒絕シタル製茶ニ對シ總鑑定官會議ニ於テ又拒絕スヘキモノト決定シタルトキハ更ニ審査ヲ受クルコトヲ得ス。

第四十條 新ニ標準見本茶ヲ定メタルトキハ舊見本ハ引取人ナキ貨物ト同シク年四回ノ公賣品中ニ加

フルモノトス、其ノ賣上代金ハ廣告及販賣ノ諸費用ヲ控除シ殘餘ハ之ヲ大藏省ノ收入トス、但シ現品ハ其ノ容器ニ記載セル政府ノ標準茶タル記號ヲ抹殺シタル後購買者ニ引渡スモノトス。

第四十一條 製茶ハ製茶條例ニ依ル審査ノ終了前ニアリテハ何等ノ理由在ルモ之ヲ輸入者ニ引渡シ又ハ倉庫ヨリ移動スルコトヲ得ス。

第四十二條 拒絶セラレタル製茶ハ直チニ輸出スル場合、内地ヲ運送シテ輸出スル場合並ニ一千九百八年五月十六日ノ條例及大藏省決定書第二九三一號ノ規定ニ基キ製造用原料ニ供スル場合ニ限り解放スルモノトス。

第四十三條 粉茶折レ茶等ヲ他ノ製茶ニ混淆シ又ハ糊護其他ノ物質ヲ用ヒ特種ノ製品トシテ珠茶感ハ異種ノ茶ヲ模造シタルモノハ總テ拒絶スルモノトス。

第四十四條 審査官ハバラフキン又ハ之ニ類似スルモノヲ施用シタル疑アリト認ムルトキハ左ノ方法ニヨリ標準茶ト比較審査ヲナスヘシ。

光澤ヲ施ササル白紙二枚ヲ採リソノ中間ニ製茶ヲ撒布シ其ノ上ニ熱シタル火熨斗ヲ加フヘシ、此ノ場合ニ於テ若シ脂油性ノ物質存在スレバ紙面ニ浸染スヘシ、而シテ標準茶ト同等ナラサルトキハ該製茶ヲ拒絶スヘシ。

第四十五條 審査官ハ製茶ヲ各種標準茶ト比較スルニ方リ木炭ノ塊片又ハ炭化シタル茶ノ葉莖若クハ

幹ヲ着色又ハ粉飾料ト誤認セサル様注意スヘシ。

第四十六條 審査官ハ製茶ノ輸入ト分離シテ輸入セラレシ製茶見本ニ付審査ヲ行フヘカラス又該見本ニ關シ公ノ意見ヲ與フヘカラス。

第四十七條 製茶輸入業者ニシテ再輸出ノ目的ヲ以テ混和、混合及改装ヲ行ハムカ爲北米合衆國ニ製茶ヲ輸入セムトスル者ハ税關カタログ第三五六九號ニ依リ保證ヲ提供シ大藏省令第三六七四八號ヲ以テ改正セル一九一五年ノ税關規則第七四七條乃至第七七三條ヲ遵守シ一九一三年十月三日ノ關稅條例第四條M項ニ從ヒ製茶ヲ保税倉庫ニ入庫シ加工スルコトヲ得但シ右加工保税倉庫へ入庫シタル製茶ハ悉ク輸出スルヲ要ス。

(備考)

一、千九百十八年改正(五月一日ヨリ實施)ハ、二條、三條、四條、二十條、二十一條、二十二條、二十三條、二十五條、二十六條、三十條、三十一條、四十四條及四十六條ノ諸條ニ加ヘラレタリ、第二十一條ハ特ニ木莖ノ浮物、又ハ浮渣ノ取締ニ關シ増補改訂シタルモノナリ。

一、千九百十八年ノ一部改正ハ二十二條及二十三條ニ加ヘタルモノニシテ二十二條ノ後半ヲ増補改訂シ二十三條ハ一小部分ノ改正ナリ。

一、千九百十九年ノ訂正ハ第一條及第十四條ノ一部ヲ訂正シ新ニ第四十七條ヲ追加セレタリ。

大正九年二月三日印刷
大正九年二月六日發行

(非賣品)

編輯兼發行者 大和人
東京市本郷區駒込上富士前町三番地
印刷者 太田泰男
東京市日本橋區本銀町四丁目三番地
印刷所 三綱社印刷所

發行所

東京市芝區芝口二丁目十二番地
電話長新橋二三二六番

茶業組合中央會議所

14
21
472

313

終